

SI41 塗土跡記表

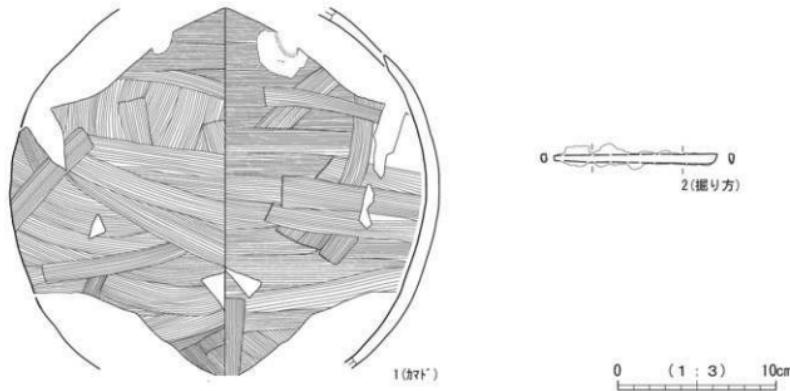
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR3/3 希褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が全体的に混入、焼土が粒状に大小混入
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3褐色が部分的に混入
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/4褐色が混入
カマド	4	10YR3/3 希褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が混入
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3の混入、表面に幾け面あり
	6	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	焼土がブロック状に混入、炭化物が粒状に混入
カマド	7	10YR3/3 希褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色が少く混入、炭化物が粒状に混入
	8	10YR2/3 黑褐色	粘質シルト	焼土がブロック状に混入、炭化物が粒状に混入
	9	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR4/4褐色が混入、焼土が部分的に混入
壁 内 方	10	10R3/3 黑褐色	粘質シルト	焼面
	11	10YR2/2 黑褐色	粘質シルト	炭化物の層
	12	10YR4/3 にじみ 黑褐色	砂質シルト	10YR3/3褐色が混入
カマド・ソザ	13	10YR4/4 褐色	シルト	10YR2/3黒褐色を含む、カマド内面に燒土あり
	14	10YR3/3 希褐色	シルト	10YR4/4褐色を含む、カマド内面に燒土あり
	15	10YR4/6 褐色	砂質シルト	10YR3/4褐色を含む、カマド内面に燒土あり
掘り方	16	10YR4/4 褐色	砂質シルト	10YR3/3褐色がブロック状に混入
	17	10YR4/4 褐色	シルト	

SI42 施設埋土跡記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/3 希褐色	砂質シルト	10YR4/4地山ブロックを含む、焼土が粒状に混入
	2	10YR4/3 にじみ 黑褐色	砂質シルト	10YR4/4地山ブロックを含む
P2	1	10YR4/3 にじみ 黑褐色	シルト	焼土・炭化物が粒状に混入、10YR4/4地山ブロックを含む
	2	10YR3/3 希褐色	シルト	
P3	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物が粒状に混入、10YR4/4地山ブロックを含む

SI43 施設埋土跡記表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1 不整形	60 × 55	14.7		
P2 円形	55 × 45	30.3		



第158図 SI41 穴穴住居跡出土遺物

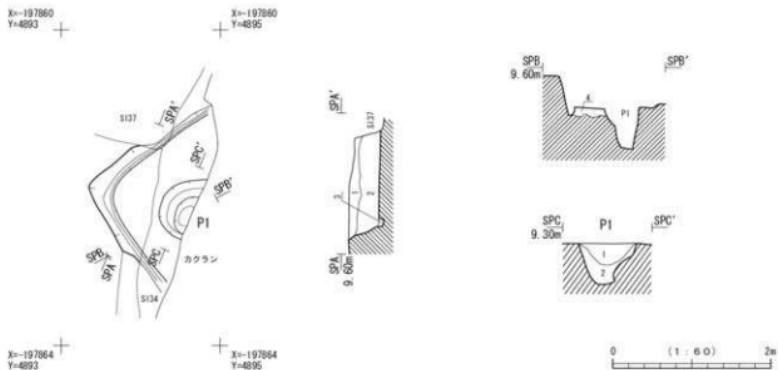
国版 番号	登録番号	出土遺物	層 位	種 别	器 形	器 頭	口徑 × 底径 × 深高(cm)	外 壁 調 整	内 壁 調 整	備 考	写 真 国版
1	C-123	SI41	10YR4/4	土加器	瓦		... × ... × (10.3)	側部付付	側部付付		62
2	N-16	SI41	掘り方	柱 制	器 頭		刃長10.4, 幅0.7, 厚0.6cm				写 真 国版

[掘り方] 大部分が失われており、詳細は不明だが、底面中央部がやや低くなるものと考えられる。

[出土遺物] 土加器壺1点、刀子1点を掲載した。

SI42 穴穴住居跡(第159図)

[位置・確認面] 3A区南半部、東側の擾乱に沿う形で、僅かに住居のコーナー付近のみが確認された。



第159図 SI42竪穴住居跡

SI42 埋土記録表

層位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10VR2/2 暗褐色	砂質シルト	炭化物・地山ブロックを少部分含む
	2	10VR2/2 暗褐色	砂質シルト	地山ブロックを多く含む
周溝	3	10YR4/2 にぶい黄褐色	砂質シルト	
掘り方	4	10YR4/2 にぶい黄褐色	砂質土	地山ブロックを含む、暗褐色シルトブロックを少部分含む

SI42 施設埋土記録表

層位	層位	土色	土性	備考
PI	1	25YR5/2 前赤褐色	シルト	炭化物粒混入、2層との界面面に黒い灰の集積物
	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	

SI42 海苔軸埋表

遺物名	平面図	幅幅(cm)	深さ(cm)	備考
PI		84×(40)	51.8	

〔重複〕 SI34に切られる。

〔規模・形態〕 残存部は長軸1.88m、短軸1.7mで、平面形はコーナー形状から隅丸方形と推測される。

〔方向〕 西辺を基準とした主軸方位は、N-30°-Wである。

〔堆積土・構築土〕 4層に分層した。1・2層は住居埋土、3層は周溝内埋土、4層は掘り方埋土にあたる。

〔壁面〕 IV層中を壁面とし、壁高はコーナー付近で35cm前後が残存する。立ち上がりは床面付近で緩やかに広がり、15cm前後から垂直に近くなる。

〔柱穴〕 SI34の掘り方底面よりP1を検出した。位置関係・形状などから、主柱穴となる可能性が高い。

〔周溝〕 検出部である西側コーナーで壁際に検出した。幅8cm～10cm、深さ5.7cm～6.7cmである。

〔掘り方〕 大部分が失われており、詳細は不明である。

〔出土遺物〕 掲載した遺物はない。

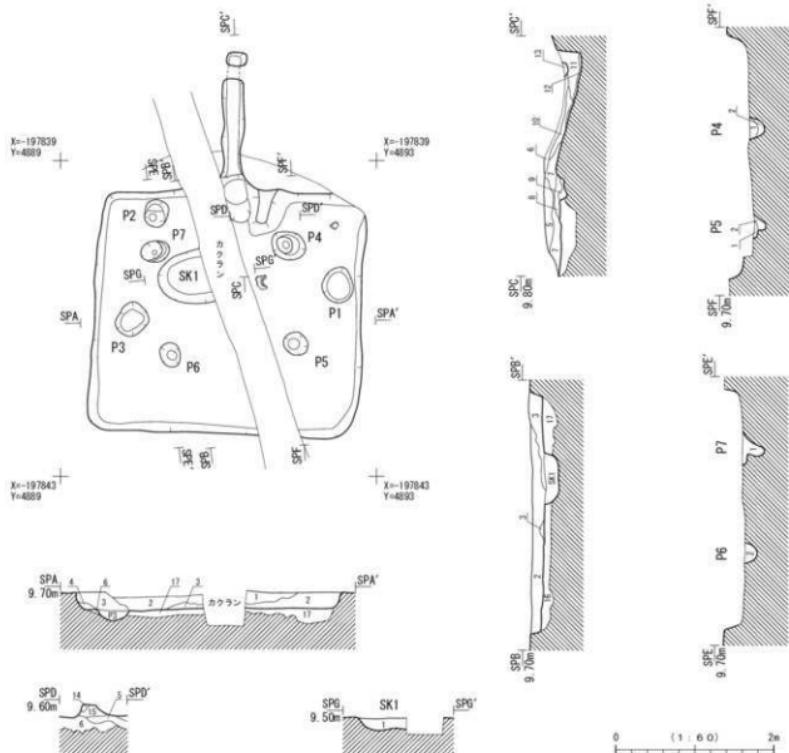
SI43 竪穴住居跡(第160～161図)

〔位置・確認面〕 3A区中央部で確認した。

〔規模・形態〕 規模は3.37m×3.13mで正方形に近く、平面形は隅丸方形を呈する。

〔方向〕 主軸方位は、N-2°-Wである。

〔堆積土・構築土〕 17層に分層できた。1～4層は住居埋土、7～13層はカマド及び煙道内の埋土である。下面



第160図 SI43堅穴住居跡

SI43 堅穴住居跡

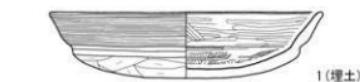
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR3-2 黒褐色	砂質シルト	地山ブロック・炭化物粒を少含む
	2	10YR4-3 にAV-3 黒褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む
	3	10YR3-3 黒褐色	砂質シルト	炭化物・燒土粒を少量含む
	4	10YR4-3 にAV-3 黑褐色	砂質シルト	
カマド・煙道	5	10YR3-3 黒褐色	砂質シルト	炭化物・燒土粒を少量
	6	10YR3-3 黒褐色	砂質シルト	炭化物・燒土ブロックを少量
	7	10YR4-4 細色	砂質シルト	炭・燒土ブロックをや多く含む
	8	10YR4-2 黄褐色	シルト	φ 1cm内外焼土ブロックを多量、8層は明瞭な天井、壁の崩落土、下面に今すい焼面がみられる
	9	10YR5-2 黄褐色	シルト	φ 5cm内外焼土ブロックを多量
	10	10YR3-3 黑褐色	シルト	φ 1cm内外焼土ブロック・地山ブロックを少含む
	11	10YR4-3 にAV-3 黑褐色	シルト	一部に地山ブロック・燒土ブロックを少含む
	12	10YR1-7 黒色	シルト	炭化物層
	13	10YR4-2 にAV-3 黑褐色	砂質シルト	一部・便道天井部が残存している、堆山土とは異なる
	14	10YR3-3 黑褐色	砂質シルト	炭化物層を少含む
窓り方	15	10YR4-4 細色	炭化物層を少、地山焼土ブロックをや多く含む	
	16	10YR4-3 にAV-3 黑褐色	砂質シルト	燒土ブロック・炭化物の粒を少、カマド部及び北半部のみの埋土
塗り方	17	10YR3-2 黑褐色	シルト	炭化物アプローチを少量含む、且仍全体膏土

SI43 施設埋土目記表

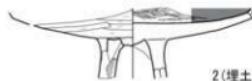
部 位	層 号	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/3 嫩褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR2/3 嫩褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR2/3 嫩褐色	砂質シルト	
P4	3	10YR4/4 黄色	砂質シルト	地山ブロック多量
	2	10YR4/6 黄色	砂質土	地山ブロック密
P5	3	10YR4/4 黄色	砂質土	地山ブロック密
P6	3	10YR2/3 嫩褐色	砂質シルト	φ3cm内の地山ブロック多量
P7	3	10YR4/4 黄色	砂質シルト	φ5cm内の地山ブロックを多量含む
SK1	1	10YR2/3 嫩褐色	シルト	φ5cm内の地山ブロックを多量含む

SI43 掘跡断面図

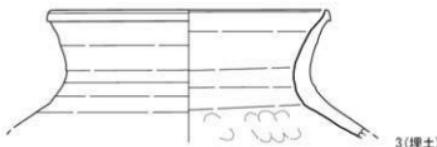
遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形	44×40	8		P5	円形	30×26	20	
P2	楕円形	35×30	22.6		P6	楕円形	35×30	16	
P3	不整形	41×35	11.1		P7	楕円形	37×27	27	
P4	不整形	42×35	18		SK1	楕円形	70×(60)	16.8	



1(埋土)



2(埋土)



3(埋土)

0 (1 : 3) 10cm

第161図 SI43堅穴住居跡出土遺物

国版番号	出土遺物	層 号	種 别	種 別	口径×底径×高さ(cm)	外 四 面 要	内 四 面 要	備 考	写真 国版
1 C-126	SI43	埋土	土師器	环	17.0××4.2	口縁部～底部凹凸、底面少少仄彎	口縁部～底部凹凸		62
2 C-125	SI43	埋土	土師器	高环	×××(4.4)	底盤底部少少仄彎、脚部状態少少仄彎	底盤底部少少仄彎、脚部状態少少仄彎		62
3 E-021	SI43	埋土	須恵器	束	17.4××(7.4)	口縫調整	口縫調整、脚部上半部仄彎		62

に被然痕跡が認められる8層については、天井部の崩落土と考えることが出来る。また、13層は残存する煙道の天井部分である。14・15層はカマドの構築土、16・17層は掘り方の埋土にあたる。

〔壁面〕 IV層中を壁面とし、壁高は15cm～21cmが残存する。立ち上がりは床面付近でも直線的で垂直に近い。

〔床面〕 16層、ないし17層上面を床面とする。

〔柱穴〕 P1～P7を確認した。位置関係からP4～P7が主柱穴になるものと考えられる。柱間は主軸方向で1.2m、直行方向で1.5mとなる。

〔カマド・煙道〕 北辺中央部に設けられている。西側が大きく搅乱されているが、袖部はやや内湾するものと考えられる。カマドの底面は床面より10cm程度低い。煙道は長さ150cm、幅26cmで一部に天井が残存している。底面は先端部へ向けて低くなる形で大きく傾斜し、深さは14cm～20cmである。

〔その他の施設〕主柱穴の内側、やや北西寄りに浅い掘り込みであるSK1を確認した。

〔掘り方〕 底面は中心部から周辺にかけて緩やかに傾斜している。落差は5cm前後である。

〔出土遺物〕 土師器杯1点、高环1点、須恵器甕1点を掲載した。1は体部と底部の境目に段を持ち、緩やかに外傾し口唇部にいたる。2は三方透かしの脚を持つ。

SI44 穴住居跡(第162~165図)

【位置・確認面】 3A区中央部、調査区西壁沿で検出された。南西コーナーが調査区外となった。

【規模・形態】 東西方向で5.1m、南北方向で4.8mの隅丸方形を呈する。

【方向】 主軸方位は真北である。

【堆積土・構築土】 21層に分層した。1~5層は住居埋土で4層下部、床面上にはグライ化も認められる。6層は貼床、7~10層はカマド内の埋土で、多くの焼土・炭化物を含んでいる。11~12層は煙道内の埋土、13層は周溝の埋土にあたる。14~16層はカマドの構築土である。掘り方の埋土である17層には10YR 3/2と10YR 5/3がブロック状に混在する。18~21層は、北辺東側、新しいカマドの煙道に並行して検出された、相対的に古いカマドの煙道部分の埋土である。

【壁面】 IV層中を壁面とし、壁高は24cm~40cmが残存する。立ち上がりは垂直に近い。

【床面】 6層が貼床にあたる。

【柱穴】 P1~P10を確認した。状況から、P1~P4が主柱穴になるものと考えられる。P1、P3、P4には柱の痕跡も認められた。柱間は、2.2m前後である。東側の壁沿いで検出されたP5及び、これと内側に並んで位置するP6の埋土には大量の焼土が含まれ、内部からは土器片も出土した。また、カマド東側のP7の埋土にも焼土が多く含まれる。

【周溝】 南西コーナーが未確認ではあるが、北側、東側ではほぼ壁際を回る。西側、南側では、壁からやや離れており、南東コーナーがわずかに切れる。幅は北側・東側で10cm~18cm、西側・南側で17cm~30cm、深さは3cm~9cmである。

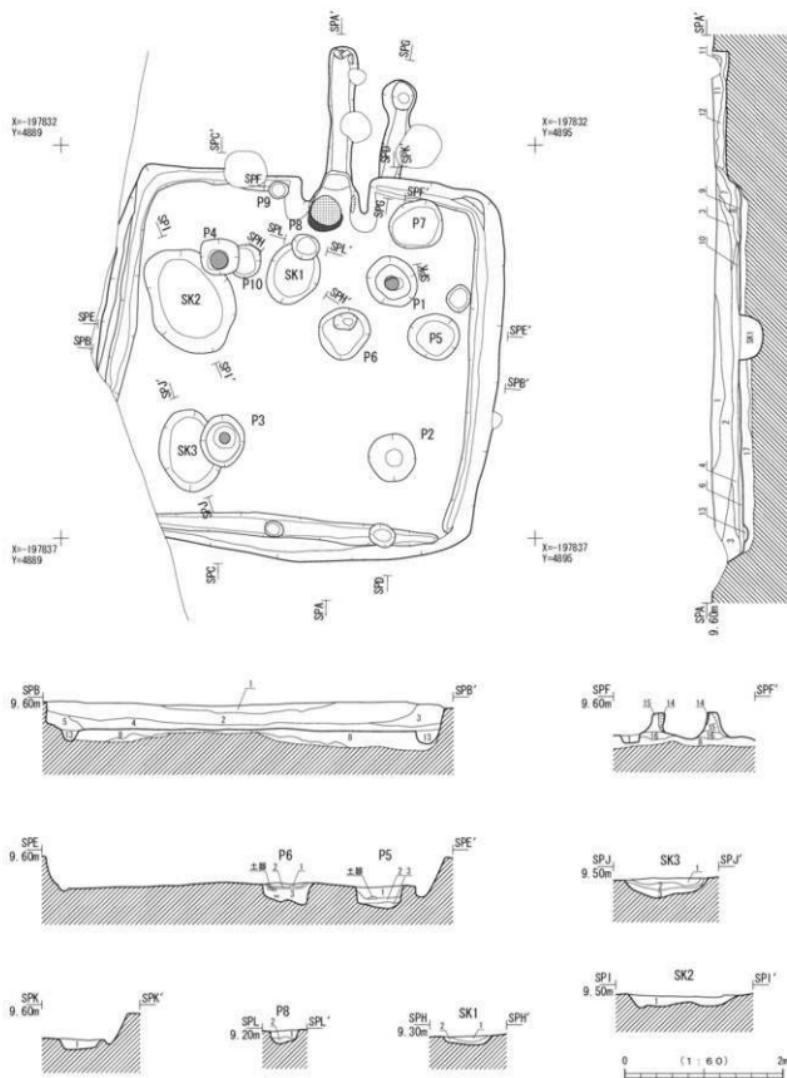
【カマド・煙道】 新旧の2基が確認された。新しいものは北辺中央部に設けられ、袖は小さくハの字型に開いており、前部には焼土の分布が認められた。外幅120cm、奥行73cmで、底面は住居床面との高低差を持たない。煙道の長さは159cmで幅32cm、深さは14cm~19cmを計り、煙道先端部付近からは土器が検出された。古いものは、煙道のみが新しいカマドの東側から検出されている。長さ124cm、幅27cm、深さ35.4cmで、先端部は平面46cm×44cm、深さ51.8cmのピット状に窪んでいる。新旧のカマドの相対的な位置関係はSI45と類似する。

【その他の施設】 SK1~SK3を確認した。いずれも埋土中には焼土・炭化物が多く含まれている。

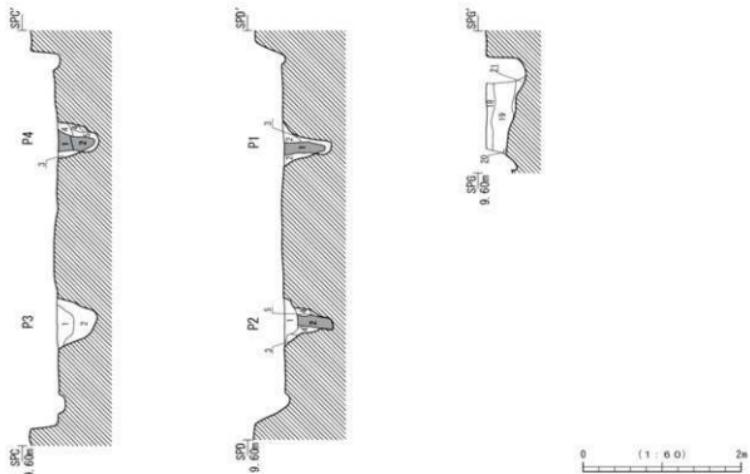
【掘り方】 住居中心部を島状に残して周辯部を掘りこんでいる。底面の落差は比較的大きく、最大で15cmを超える箇所もある。

【出土遺物】 土師器壺13点、ミニチュア土器1点、壺1点、甕5点、須恵器壺2点、瓶1点、蓋3点、鉄製品1点を掲載した。カマドから土師器、須恵器の見込みが深い器形の4・9・10・22が出土した。P1から5が、P6から16、P3から23、P5から19、17層から3・7・8・11・15が出土し、21は床面上である。

1・5・8・9・11は体部と底部の境目に段を持つ壺である。2・6・7は体部と底部の境目に稜を有する。2層出土の24をはじめ、25・26はカエリを有する蓋である。17は台付甕と考えられる。床直出土の21は、郡山I期後半に出土している。



第162図 SI 44 壁穴住居跡(1)



第163図 SI44竪穴住居跡(2)

SI44 土色記載表

部位	層位	土色	土性	備考
床土	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物混入。2号との界面に炭化物の集積がみられる
	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR5/4に比べて黄褐色土ブロック状に混入(特に西側)が多い炭化物混入
	3	10YR3/3 黑褐色	シルト	炭化物混入。カマド上にかかる3号土は、他のところに比べ色調が明るい
	4	2.5Y3/3 咖啡色	シルト	床面上にかけてグリーン色が付いている
床面	5	2.5Y3/3 咖啡色	砂質シルト	10YR1/3に比べて黄褐色砂がブロック状に混入。アラウニア壁-北壁(西)にかけてみられる層
	6	10YR4/1 咖啡色	シルト	床面中央部では2.5Y4/2附近黄色土が互層状に入る。南壁部では10YR5/6 黑褐色土が混入
	7	10YR1/3 に比べて黄褐色	シルト	2.5Y5/4 黄褐色土ブロック層。壁上部と5YR3/2 咖啡色地土-炭化物混入
	8	5YR3/3 黑褐色	塊土層	炭化物-塊土層
カマド	9	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	5YR3/3 咖啡色地土-炭化物混入
	10		炭化物混入地土	瓦屋根にみられる
	11	10YR3/4 咖啡色	シルト	焼成面の崩落+ブロック状に混入。炭化物-块土粒混入
	12	10YR3/3 咖啡色	シルト	焼成面崩落+ブロックが多く入り、焼土+ブロックや炭化物混入層
周溝	13	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4に比べて黄褐色地土が混入。西壁側では、砂質シルトに近い土質)南壁側では10YR2/3 黑褐色シルト。30YR5/4に比べて黄褐色地土状に混入で、他の部分よりも暗い
	14	2.5Y3/4 黑褐色	燒成面	
	15	10YR4/2 黄褐色	シルト	
	16	10YR3/3 黑褐色	シルト	燒土粒+炭化物混入
掘り方	17	10YR3/2 黑褐色	シルト	ブロック層-東側、西-北側は10YR5/3に比べて黄褐色砂質シルト 10YR3/3 咖啡色ブロック混入
	18	2.5Y3/3 咖啡色	シルト	10YR3/2がブロック状に混入
	19	10YR3/2 黑褐色	シルト	焼土ブロック+炭化物混入
	20	5YR3/3 黑褐色	燒成面	
カマド・煙道(右)	21	5YR3/3 咖啡色	燒成面	炭化物混入

SI44 掘削理土記載表(1)

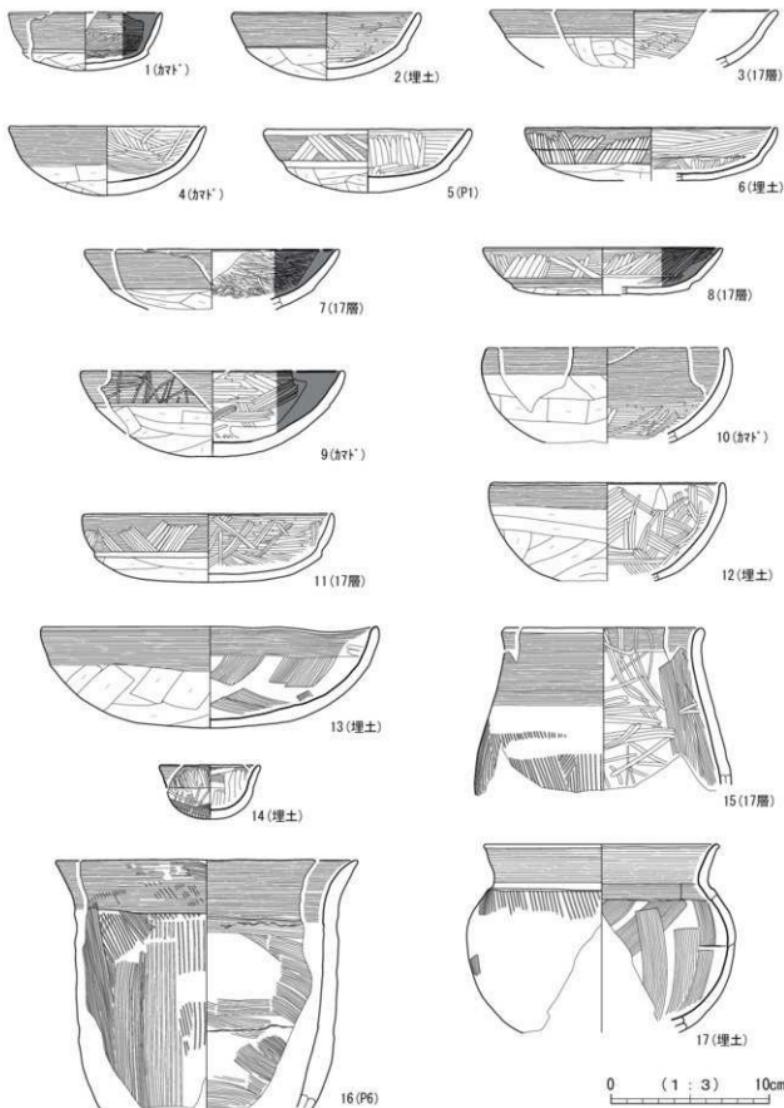
部位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR5/4層状に混入。炭化物混入
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物混入
	3	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	10YR3/2がブロック状に混入
P2	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	炭化物混入
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト	炭化物混入
	3	10YR5/2 黄褐色	砂質シルト	炭化物混入
P3	4	10YR2/3 黑褐色	シルト	
	5	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	10YR2/3ブロック状に混入
	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4(4層状)に混入。1層に比べ堅性あり
P4	2	10YR3/3 黑褐色	シルト	炭化物混入
	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	
	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	
	3	10YR4/3 に比べて黄褐色	砂質シルト	
	4	10YR3/3 黑褐色	シルト	5YR3/3 咖啡色ブロック混入。炭化物混入
	5	10YR4/2 黄褐色	砂質シルト	

S444 施設土日記表

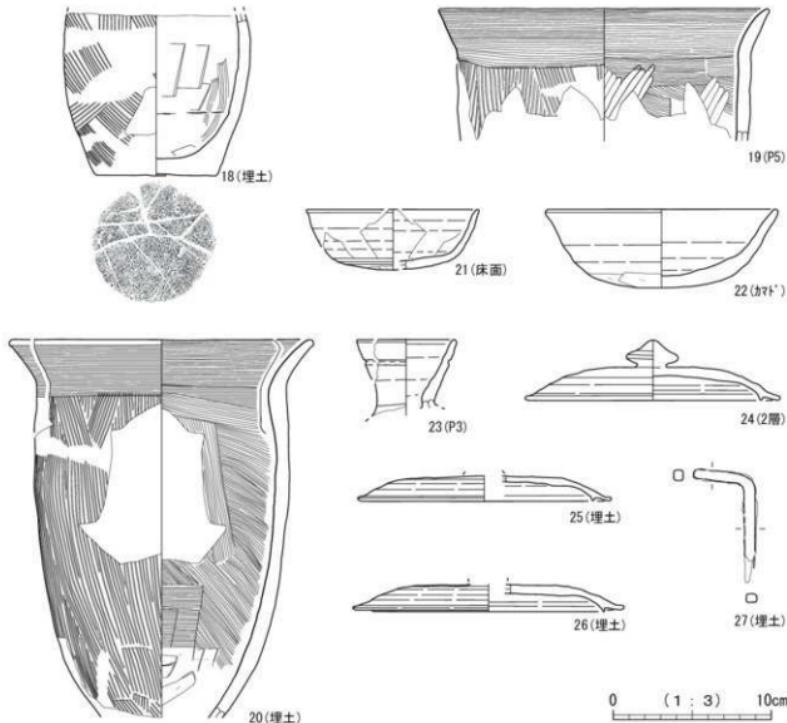
品種名	類別	土色	土性	備考	
				地主層	10YR5/4プロック混、5YR3/3地主・炭化物混入
P5	1	5YR2/3 黄褐色	地主層	10YR5/4プロック混、5YR3/3地主・炭化物混入	
	2	10YR4/2 灰褐色	シルト	10YR5/4プロック混	
	3	10YR5/3 にふい・黄褐色	シルト(若干砂質)		
P6	1	10YR5/4 にふい・黄褐色	シルト(底灰層)	地主層・炭化物积淀	
	2	10YR4/1 黄褐色	シルト		
	3	5YR3/3 黄褐色	地主層	10YR5/3プロック混、5YR3/6地主・炭化物混入	
P7	1	5YR3/3 黄褐色	地主混層	5YR4/4地主・炭化物、10YR5/4にふい・黄褐色疊状に混入	
P8	1	5YR3/3 黄褐色	地主層	炭化物・地主(5YR4/6)混入	
P9	2	10YR4/1 黄褐色	シルト	炭化物・地主・粒混入	
P10	1	7.5YR2/3 黑色	シルト	5YR3/3地主プロック、炭化物混入	
SK1	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	地主層・炭化物粒混入層、セクション写真あり	
	2	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR1/3、5YR3/3地主・粒混層、炭化物积淀	
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	地主・炭化物粒混入層、10YR5/4プロック混入	
SK2	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	10YR5/4プロック混、炭化物混入	
	2	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物积淀	
	3	7.5YR2/2 黑褐色	シルト	10YR1/2プロック混	
SK3	1	10YR5/4 にふい・黄褐色	シルト	5YR2/3地主・粒混入、炭化物混入、10YR5/4プロック混	
	2	10YR5/4 にふい・黄褐色	シルト		
	3	7.5YR2/2 黑褐色	シルト		

S445 地質観察表

地質名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	
				地質名	平面図
P1	円形	67 × 60	67.6	P6	不整形
	柱範囲9×7			P7	不整形
P2	円形	61 × 58	60.8	P8	円形
	柱範囲			P9	円形
P3	椭円形	66 × 57	63.3	P10	円形
	柱範囲14×13			SK1	椭円形
P4	方形	49 × 45	52.5	SK2	椭円形
	柱範囲21×22			SK3	椭円形
P5	円形	65 × 57	33.4		



第164図 SI44竪穴住居跡出土遺物(1)



第165図 SI44竪穴住居跡出土遺物(2)

国際 番号	出土根 数	形状	被 覆	器 種	口径×底面×高さ(cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考	写 真 番 号	
1	C-146	SI44	土縫器	片	(0.5) × × 4.4	11縫部～底部33°、底面～99°	11縫部～底部33°、内面黑色處理	63		
2	C-148	SI44	土縫器	片	11.7 × × 3.2	11縫部33°、底面～底部33°	11縫部～底部33°	63		
3	C-150	SI44	17層	土縫器	(0.8) × × 3.6	11縫部33°、底面～底部33°	11縫部～底部33°	63		
4	C-127	SI44	#10	土縫器	(12.3) × × 4.6	11縫部～底部33°、底面～99°	11縫部～底部33°	63		
5	C-123	SI44	#12	土縫器	(12.3) × × 4.0	11縫部～底部33°、底面～99°	11縫部～底部33°	63		
6	C-130	SI44	土縫器	片	(0.5) × × 0.4	11縫部～底部33°、底面～99°	11縫部～底部33°	63		
7	C-136	SI44	17層	土縫器	(0.6) × × 0.8	11縫部～底部33°、底面～99°	11縫部～底部33°	内面黑色處理	63	
8	C-131	SI44	17層	土縫器	(0.6) × × 3.6	11縫部～底部33°、底面～底部99°	11縫部～底部33°	内面黑色處理	63	
9	C-137	SI44	#10	土縫器	(0.6) × × 5.4	11縫部33°～-83°、底面～底部99°	11縫部～底部99°	内面黑色處理	63	
10	C-140	SI44	土縫器	片	(0.5) × × 0.0	11縫部33°、底面～99°	11縫部～底部33°、内面99°	63		
11	C-141	SI44	17層	土縫器	(0.5) × × 4.2	11縫部33°、底面～99°	11縫部～底部33°	63		
12	C-142	SI44	土縫器	片	(0.4) × × 0.2	11縫部33°、底面～99°	11縫部～底部99°	63		
13	C-129	SI44	土縫器	片	(2.0) × × 0.2	11縫部33°、底面～99°	11縫部33°、底面～99°	63		
14	C-144	SI44	土縫器	片	(0.3) × × 3.4	11縫部33°～-83°、底面～底部99°	11縫部33°～-83°、底面～底部99°	63		
15	C-135	SI44	17層	土縫器	空	12.8 × × (10.6)	11縫部33°、側面99°	11縫部33°～-83°、側面99°→1	63	
16	C-128	SI44	P6	土縫器	(19.0) × × (15.8)	11縫部33°、側面99°	11縫部33°、側面99°	63		
17	C-130	SI44	土縫器	空	(14.5) × × 11.3	11縫部33°、側面99°	11縫部33°、側面99°	台付か	63	
18	C-133	SI44	土縫器	空	- × 7.6 × (10.1)	側面99°	側面99°	63		
19	C-143	SI44	P5	土縫器	空	20.8 × × 0.8	11縫部33°、側面99°	11縫部33°、側面99°→?	63	
20	C-149	SI44	土縫器	空	(18.8) × × (21.0)	11縫部33°、側面99°	11縫部33°、側面99°→下半部99°	63		
21	E-027	SI44	陶器	破壊	(0.8) × × 0.1	27調整、底面斜削	27調整	64		
22	E-029	SI44	陶器	破壊	(0.6) × × 5.0	27調整、底面斜削	27調整	64		
23	E-028	SI44	P3	破壊	(0.4) × × (4.8)	27調整、底面沈殿	27調整	内外面自然釉	64	

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種 別	器 形	口径×底径×器高(cm)	外 壁 調 整	内 壁 調 整	備 考	写真 図版
24	E-026	SH4	2層	須恵器	壺	(15.9) × × 3.8	0.70調整、天井削鉗輪×95°(0.6mm有)	0.70調整→0.73°(0.6mm有)		64
25	E-025	SH4	埋土	須恵器	壺	(16.0) × × 1.6	0.70調整、天井削鉗輪×95°(0.6mm有)	0.70調整、0.6mm有	外函自然軸	64
26	E-024	SH4	埋土	須恵器	壺	(17.2) × × 1.7	0.70調整、天井削鉗輪×95°(0.6mm有)	0.70調整→0.73°(0.6mm有)		64
図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種 別	器 形	口径×底径×器高(cm)	外 壁 調 整	内 壁 調 整	備 考	写真 図版
27	N-17	SH4	埋土	鉢類	碗	残存径6.9cm、幅3.7cm、厚0.6cm				64

SI45 穫穴住居跡(第166～170回)

[位置・確認面] 3A区中央部で検出した。

[規模・形態] 南北5.5m、東西5.45mの隅丸正方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-11°-Wである。

[堆積土・構築土] 22層に分層した。1～5層は住居埋土、6層はカマド内にのみ認められる埋土だが、いずれの層にも焼土・炭化物が含まれている。また、12・13層の周溝内の埋土にも同様に炭化物粒が含まれる。7～11層は煙道内埋土で7層は天井の残存部と考えられる。14・15層はカマドの被熱部位にあたり、16・17層はカマドの構築土である。18層～20層は掘り方の埋土で、焼土・炭化物粒の含有が認められる18・19層はカマドの焚き口付近に位置する。21・22層は、北辺中央部東側より検出された旧煙道内の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面とし、壁高は31cm～42cmが残存する。立ち上がりは垂直に近い。

[床面] 20層上面を床面とする。

[柱穴] P1～P12を検出した。P1～P4が主柱穴にあたり、いずれも柱の痕跡が認められる。また、P7～P12およびP4北側のピットは壁柱穴と考えられ、これらは、主柱穴の軸を延長する形で井桁状に位置している。P8・11・12には断面に柱の痕跡も認められた。P5は位置的に考えて、入り口施設の可能性がある。

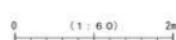
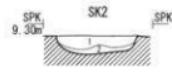
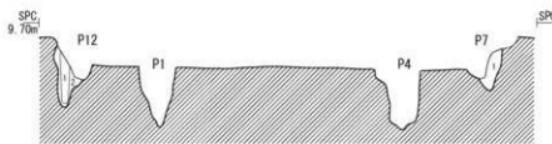
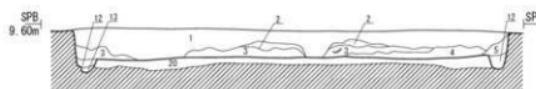
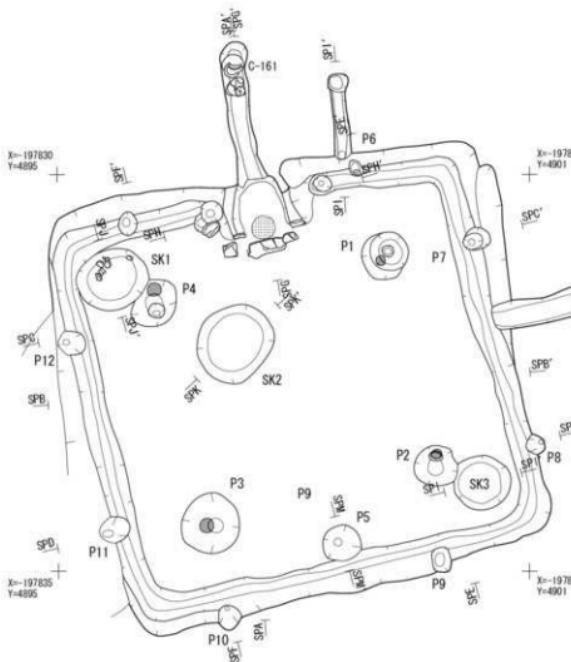
[周溝] カマドを除き、壁際を全周している。底面には上述の壁柱穴が認められる。幅13cm～30cm、深さ8.2cm～13.2cmである。

[カマド・煙道] 新田2基が認められた他、SM 44と先端部のピットが東壁中央に直行しており、これもこの住居に帰属するカマドの煙道である可能性も存在する。新しいカマドは住居北壁の中央部に設けられている。両袖はわずかに内湾しており、先端部には自然石が配されて補強される。加工された石を据えて支柱としており、焚き口付近からは構造の一部と見られる平板な石が検出されている。外幅117cm、奥行90cmで底面は6cm～7cm程度窪んでいる。焚き口の幅は、50cm前後と推定できようか。煙道は長さ174cm、幅28cmで、底面は先端部へ向かって低くなってしまっており、深さは8cm～20cmである。先端部は平面45cm×32cmで深さ54cmのピット状に窪み、土師器の甕が据えられる。旧煙道は北辺東側に位置し、長さ170cm、幅18cmで深さは10cm～24cmで、底面は新しいもの同様先端が深くなっている。先端は平面26cm×22cm、深さ27.3cmのピット状に窪む。主軸変更も伴った数度にわたるカマドの造り替えが行なわれたとも考えられる。

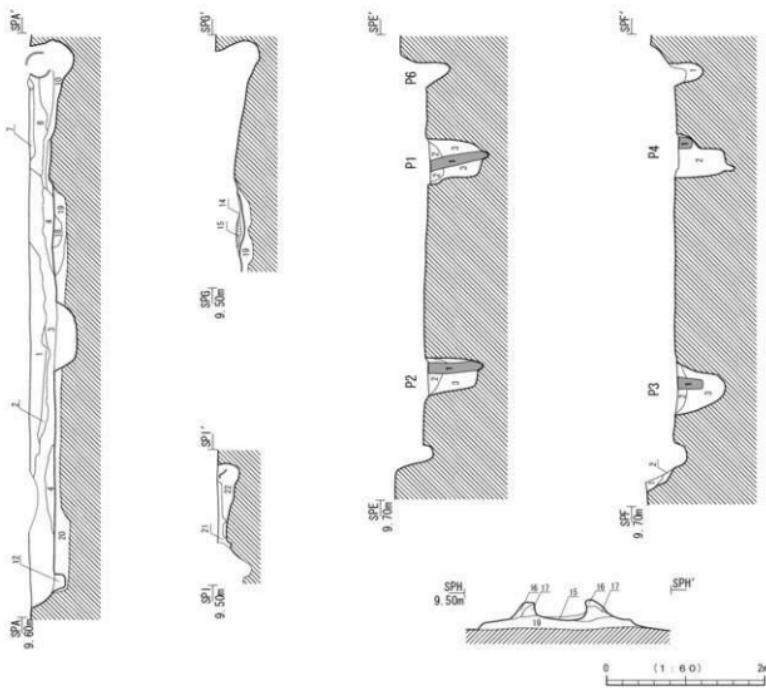
[その他の施設] SK 1～3を確認した。北西コーナーで検出されたSK 1は底面から破損した土器が検出されており、埋土中にも焼土・炭化物粒が多く認められることから、廃棄物を人為的に埋めたものとも考えられる。SK 3の埋土にも焼土・炭化物が含まれる。

[掘り方] 底面は、中央部から周辺部へ向かって緩やかに掘り下げられている。底面の落差は8cm前後である。

[出土遺物] 土師器塊1点、甕6点、須恵器壺3点、甕1点、砥石1点を掲載した。1は丁寧なヘラミガキを施す。口唇部がやや内傾気味に直立する。3、5は長胴甕である。7は外外面を丁寧にナデ、ミガキ状の調整を施している。胴部中央よりやや上位に2ヶ所焼成後穿孔がある。



第166図 SI45竪穴住居跡(1)



第167図 SI 45 穫穴住居跡(2)

S145 墓土記表

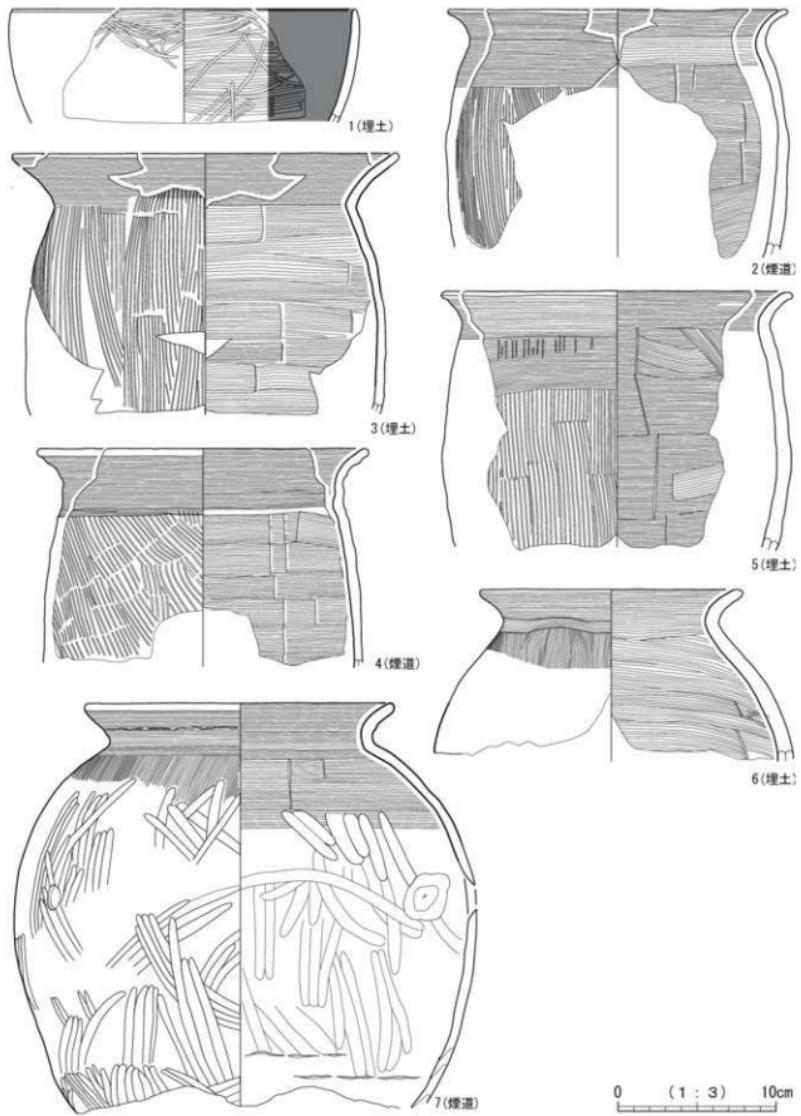
層位	号	色	性	備考
埋土	1	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	炭化物・埴土粒ブロックを少量含む
	2	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	炭化物ブロックを一部網目状に含む
	3	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	炭化物・埴土粒ブロックを少量含む
	4	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	灰黒褐色ブロックをやや多く含む
カマド	5	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	
	6	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	△5cm内の地土ブロック・炭化物ブロックを多量含む。カマド内のみの堆积
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地土ブロックを少量
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	△2cm内の地土ブロックをやや多く含む
カマド・便道	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	△1cm内の地土ブロックを多量含む
	10	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	植土・炭化物ブロックをやや多く含む
	11	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質土	繊維状・埴土ブロックを少量含む
	12	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	(便道全体を占める)炭化物粒を少量含む
便道	13	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含むこの部分のみに確認
	14	2.5YR4/6 水褐色		地成土
カマド	15	10YR4/2 灰褐色	シルト	5YR3/3地土ブロック・炭化物粒、2.5YR4/6地土粒混入
	16	10YR3/3 黄褐色	シルト	(住跡跡・土の残り?) 10YR5/4にぶい黄褐色混入
	17	10YR3/3 黄褐色	シルト	植土粒・炭化物粒混入
	18	10YR4/4 黄褐色	シルト	5YR3/3地土ブロック・炭化物粒混入
掘り方	19	10YR4/2 黄褐色	シルト	10YR5/4地土ブロック・地土粒・炭化物粒混入
	20	10YR3/2 黑褐色	シルト	赤・褐調では10YR3/3に近い色調。10YR5/3に近い黄褐色ブロック状に混入
旧便道	21	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	地土ブロックを箇所含む
	22	10YR2/2 黑褐色	シルト	△1m内の地土ブロックを多く含む

S445 施設樹土目記表

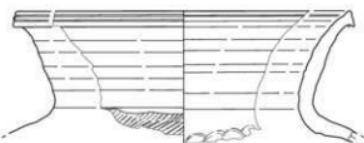
部 位	層 段	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/3 嫡褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
	2	10YR3/3 嫡褐色	シルト	炭化物粒少量、地山ブロックを微量含む
P2	1	10YR2/4 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロック・炭化物粒子少量含む
	2	10YR4/3 にぶい・嫗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
P3	1	10YR2/4 嫡褐色	シルト	炭化物粒子、少量含む
	2	10YR4/3 にぶい・嫗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
P4	1	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
	2	10YR4/3 にぶい・嫗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
P5	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	粒状に炭化物が混入、柱跡
	2	10YR4/3 にぶい・嫗褐色	シルト	粒状に炭化物が混入、10YR4/4地山が混入
P6	1	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	地山小ブロック・炭化物粒を少量含む
P7	1	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	炭化物粒を微量含む
P8	1	10YR2/4 嫡褐色	粘性シルト	
	2	10YR2/4 嫡褐色	シルト	地山小ブロック少量、炭・焦・土粒を微量
P9	1	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	
	2	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量
P10	1	10YR2/3 にぶい・嫗褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量
	2	10YR4/4 嫡褐色	砂質土	
P11	1	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	炭化物粒を微量
	2	10YR2/4 嫡褐色	砂質シルト	地山小ブロック・炭・地土粒を少量含む
P12	1	10YR2/2 黒褐色	粘性シルト	炭化物粒を少量
	2	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	地山小粒・地土粒・炭化物粒を少量
P13	1	10YR2/4 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量
P14	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	粒状炭・炭化物が混入
	2	10YR4/4 嫡褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状の地土・炭化物が多量混入
	2	10YR2/3 嫡褐色	シルト	10YR5/4地山が混入、粒状の地土・炭化物が混入
SK2	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	10YR4/4地山ブロック混入、粒状の地土・炭化物が混入
	2	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物が周辺部にブロック状に混入
SK3	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	10YR4/6地山のブロック状に混入、地土・炭化物が粒状に混入
	2	10YR2/3 嫡褐色	シルト	地土が粒状やブロック状に混入、周辺部に炭化物のかたまりあり、中央部は炭化が疎状にはなし

S45 海苔類発表

選択名	平面図	幅幅(cm)	深さ(cm)	備 考	選択名	平面図	幅幅(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	楕円形	64 × 55 柱距離 14 × 12	73.8		P8	楕円形	25 × 22	62.2	
P2	円形	36 × 53 柱距離 12 × 13	65.2		P9	貝形	32 × 22	62.4	
P3	円形	76 × 72 柱距離 19 × 19	63.3		P10	小貝形	35 × 30	35	
P4	楕円形	60 × 53 柱距離 16 × 16	71.3		P11	楕円形	40 × 33	59.4	
P5	円形	47 × 45 柱距離 13	44.3		P12	円形	35 × 30 柱距離 9 × 10	30.6	
P6	楕円形	(20) × 20	41.2		P13	楕円形	30 × 23	45.5	
P7	不整形	36 × 28	54.6		P14	-	-	-	
					SK1	円形	90 × 77	21.5	
					SK2	円形	100 × 90	22.7	
					SK3	円形	170 × 56	12.7	



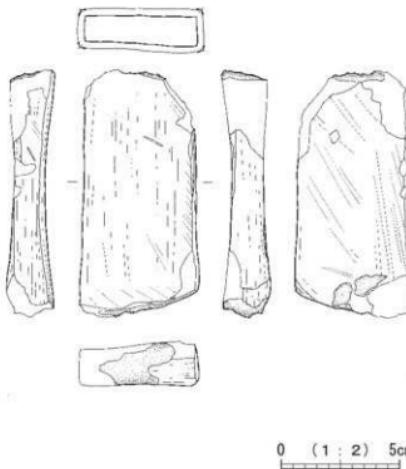
第168図 S145竪穴住居跡出土遺物(1)



0 (1 : 3) 10cm

第169図 SI45竪穴住居跡出土遺物(2)

図版 番号	登錄番号	出土遺跡	層位	核	判	器種	口径×底径×高さ(cm)	外観調整	内面調整	備考	写真 回数
1	C-160	SI45	埋土	土師器	周		(22.2) × × (7.2)	口縁部分削り、底部削り	口縁部～底部削り	内面黒色処理	64
2	C-152	SI45	埋道	土師器	周		(21.2) × × (6.5)	口縁部削り、脚部削り	口縁部削り、脚部削り		64
3	C-159	SI45	埋土	土師器	周		(24.4) × × (6.5)	口縁部削り、脚部削り	口縁部削り、脚部削り		64
4	C-154	SI45	埋土	土師器	周		(21.0) × × (3.9)	口縁部削り、脚部削り	口縁部削り、脚部削り		64
5	C-155	SI45	埋道	土師器	周		(22.2) × × (6.0)	口縁部削り、脚部削り→削り	口縁部削り、脚部削り		64
6	C-156	SI45	埋土	土師器	周		(16.3) × × (10.0)	口縁部削り、底部削り	口縁部削り、底部削り→削り		64
7	C-161	SI45	埋道	土師器	周		19.6 × × (25.6)	口縁部削り、脚部削り→削り	口縁部削り、脚部削り→下半部削り	地成後穿孔、周辺小切	64
8	E-011	SI45	埋土	陶器器	周	环	(13.4) × φ(8.0) × 3.3	口縫調整、底部削り→削り→削り	口縫調整	外面自然釉、内面火照釉	65
9	E-014	SI45	埋土	陶器器	周	环	× (11.0) × (9.1)	口縫調整、底部削り→削り→削り	口縫調整、足込み底部削り調整	高台	65
10	E-032	SI45	埋土	陶器器	周	环	× (10.8) × (2.7)	口縫調整、底部削り→削り→削り	口縫調整	高台	65
11	E-033	SI45	埋土	陶器器	周	环	(21.0) × × (6.7)	口縫調整、底部平行削り	口縫調整、底部削り	内面自然釉	65
12	E-030	SI45	埋土	陶器器	周	周	× × (17.0)	口縫調整	口縫調整	外面自然釉、表面疵	65
13	E-106	SI45	埋土	陶器器	周	周	× × (27.4)	口縫調整、底部平行削り	口縫調整、青海波文		65



第170図 SI45 穴住居跡出土遺物(3)

図版 番号	登錄番号	出土遺跡	層位	地区	核	判	器種	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	K-6-022	SI45	埋土	3A	石製品		石斧	B A2	10.2 × 5.0 × 2.9	135.39	珊瑚岩	完形品、面取り、板状、無孔、自然面あり	65

SI46 穴住居跡(第171～172図)

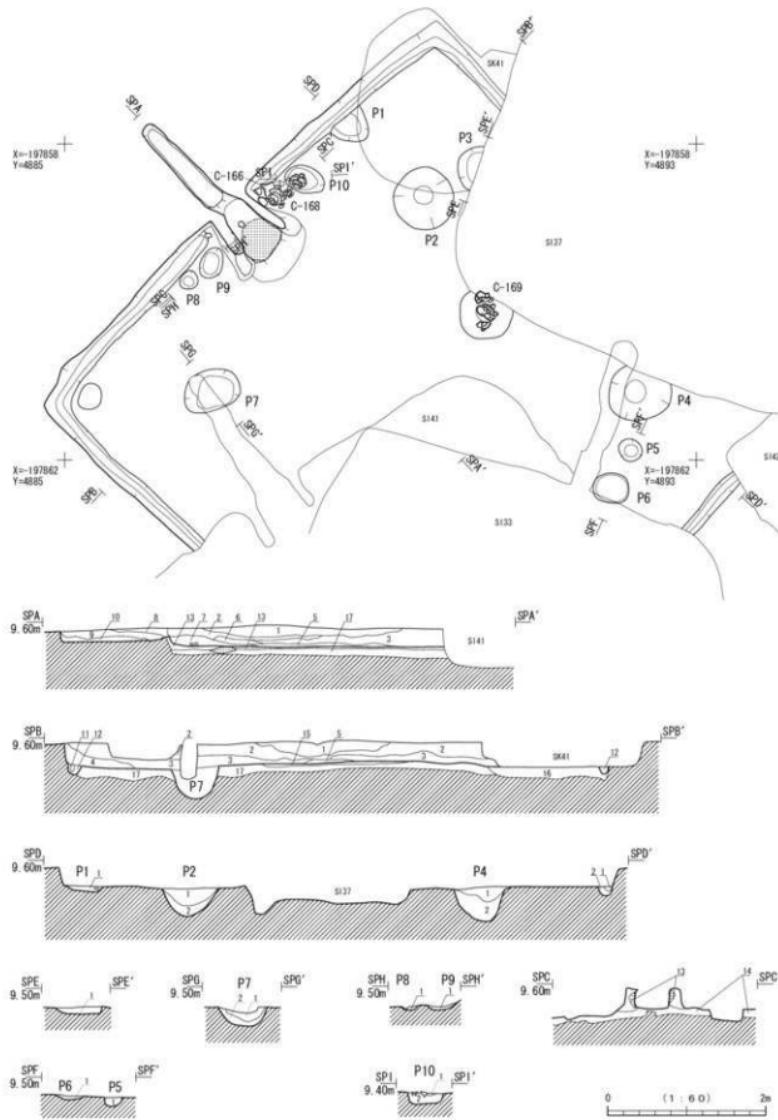
[位置・確認面] 3 A区南半部で確認した。比較的大型の住居跡であるが、南側はSI 33、SI 37、SI 41、SI 42の掘り方によって大きく搅乱を受けている。

[重複] SI33、SI37、SI41、SI42、SK41に切られる。

[規模・形態] 7.1m × 7.06m のほぼ正方形である。面積は50m²前後とみられる。

[方向] 主軸方位はN-43°-Wである。

[堆積土・構築土] 17層に分層した。1～5層は住居埋土、6～7層はカマド燃焼部付近の埋土にあたり、6層は焚き口の全面で認められた焼土と炭化物を含む土層である。8～10層はカマド煙道内部の埋土である。11～12層



第171図 SI46竪穴住居跡

SI46 塵土記録表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR3-2 黒褐色	シルト	10YR2/2黒褐色10YR4/3に似る黒褐色がブロック状に混入
	2	10YR4-3 に似る黒褐色	シルト	10YR3/3黒褐色シルトが層の下部にシジ状にはしる、10YR3/4黒褐色シルトが層の上部に多く混入
	3	10YR4-4 褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトが全般的に粒状に混入
	4	10YR2-2 黒褐色	シルト	層の上部に10YR3/3黒褐色シルトが混入
	5	10YR3-4 黒褐色	シルト	
カマド	6	10YR2-4 黒褐色	シルト	粒状の埋土・炭化物が混入
	7	10YR2-3 黑褐色	シルト	粒状ブロック状の埋土が多く混入、炭化物が多く混入
	8	10YR4-3 に似る黒褐色	シルト	炭化物が層状に混入、層の下部に地土あり
	9	10YR4-4 褐色	砂質シルト	ブロック状に炭化物が混入
窯 溝	10	10YR4-3 に似る黒褐色	砂質シルト	1層に炭化物の混入あり
	11	10YR2-3 黑褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトが混入、窯溝に並べた板の跡であると考えられる、窯溝の大部分で見られた
	12	10YR2-3 黑褐色	シルト	10YR4/4褐色地帯が混入
カマド・煙道	13	10YR4-4 褐色	砂質シルト	10YR2/2黒褐色地帯や砂質混入
	14	10YR2-4 黑褐色	砂	10YR4/4褐色地帯シルトを多く含む、基本層の15層に対応する
掘り方	15	10YR4-3 に似る黒褐色	砂質シルト	10YR3/3黒褐色シルトをブロック状に含む、張り床の層
	16	10YR4-4 褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトを多く含む
	17	10YR2-4 黑褐色	砂	10YR4/4褐色シルトを多く含む

SI46 燃設埋土記録表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2-2 黑褐色	シルト	埋土ブロックを多数混入、炭化物の層ピコ内から地盤土器が見つかるなど生活廃棄物を人為的に埋めたと考えられる
P2	1	10YR3-3 黑褐色	シルト	10YR2/2黒褐色がブロック状に混入、10YR4/4褐色地帯がブロック状に混入
P3	1	10YR4-3 に似る黒褐色	砂質シルト	10YR4/4褐色地帯、居住跡の柱穴と考えられる
P4	1	10YR2-3 黑褐色	シルト	10YR2/2黒褐色地帯に混入、10YR4/4褐色地帯が層に混入
P5	2	10YR4-3 に似る黒褐色	砂質シルト	10YR2/2黒褐色地帯部分に混入、※住居の柱穴と考えられる
P6	1	10YR3-3 黑褐色	砂質シルト	埋土・炭化物が層や混入
P7	1	10YR4-4 褐色	シルト	10YR5/4に似る黒褐色がブロック状に混入、炭化物がやや混入
P8	2	10YR3-3 黑褐色	砂質シルト	10YR3/3黒褐色地帯がブロック状に混入、10YR2/2黒褐色がブロック状に混入
P9	1	10YR2-2 黑褐色	シルト	埋土ブロックを多数混入、炭化物の層 ※地盤・炭化物を人為的に埋めたと考えられる
P10	1	10YR4-4 褐色	砂質シルト	埋土ブロック混入、炭化物を人為的に埋めたと考えられる
	2	10YR2-2 黑褐色	シルト	炭の層である、埋土ブロックを多数混入、燃置した土器が混入、壊棄したものと考えられる

SI46 燃設廃棄物表

遺物名	平面図	規模(cm)	深S(cm)	備 考	遺物名	平面図	規模(cm)	深S(cm)	備 考
P1	楕円形	(38) × 51	14.2		P7	楕円形	(22) × 52	35.6	
P2	円形	76 × 76	45		P8	円形	26 × 21	9.2	
P3	楕円形	58 × 126	13.4		P9	楕円形	40 × 28	11	
P4	楕円形	(65) × 74	46.9		P10	楕円形	50 × 26	14.8	
P5	円形	30 × 28	12.7						
P6	円形	44 × 42	6.1						

は周溝内の埋土にあたり、11層については壁材の痕跡と考えられる。13・14層はカマド構築土、15～17層は掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は東側と北側で22cm～24cm程度、西側に16.9cmが残存する。IV層中に構築されており、立ち上がりは垂直に近い。

【床面】 15層が貼床の層である。特に

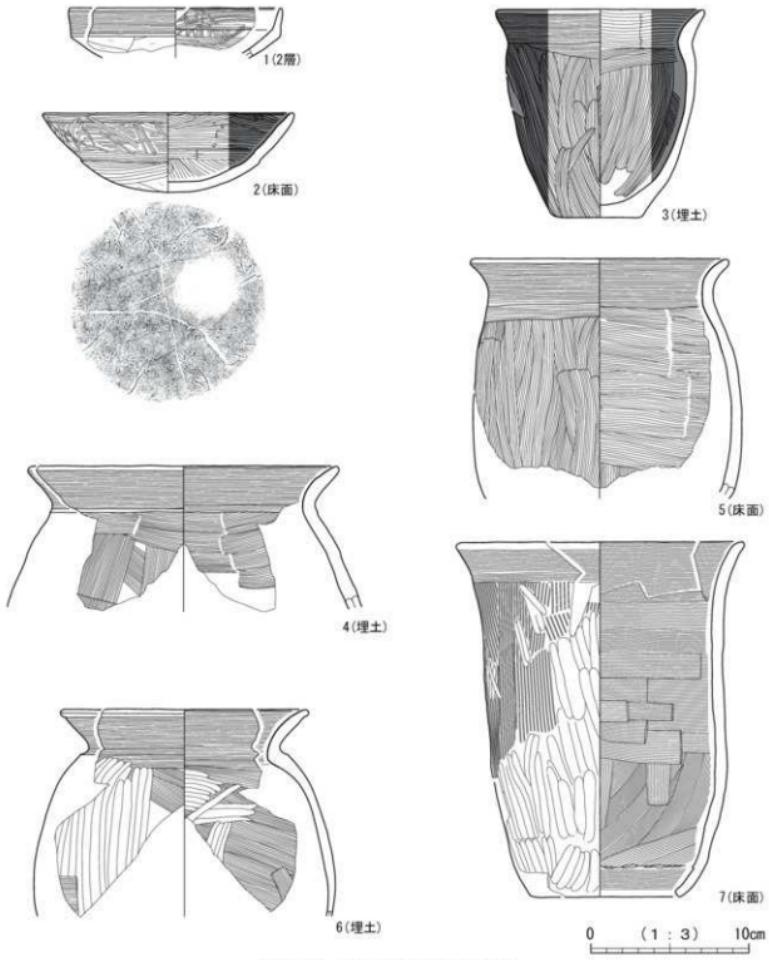
【柱穴】 P1～P9を確認した。P2、P4、P7が主柱穴となり、柱間は主軸・直行軸方向共に3.6mである。P9および周辺から多量の遺物を検出したP10はカマドの両脇に位置し、何らかの付帯施設と捉える事も出来る。

【周溝】 検出部分をほぼ全周している。幅は12cm～19cm、深さは10cm前後である。

【カマド・煙道】 北辺のほぼ中央部に設けられている。両袖の平面形はやや直線的で、外側へ小さく広がる。外幅は104cmで奥行は88cmで、燃焼部の奥には自然石が配され支柱としている。煙道は長さが142cmで幅16cm、深さは15cm前後で底面は平坦である。

【掘り方】 南半はほぼ失われているが、カマドの前方を長方形の島状に残して周囲を掘り廻めた状況が認められた。底面の落差は9cm前後である。

【出土遺物】 土師器壺2点、甕4点、瓶1点を掲載した。1は関東系土師器の壺である。2は体部と底部の境目に稜を持ち、底部にヘラ記号が観察される。3・5・6の胴部外面は丁寧なヘラナデあるいはナデ状のミガキが施されている。



第172図 SI46竪穴住居跡出土遺物

回復 番号	登録番号	出土遺物	形状	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外 観 摘 要	内 観 摘 要	備 考	写真 回数
1	C-163	SI46	2層	土器器	环	(33.6) × × (3.2)	[口部]23°, 体部△9°, 环	[口部]～[底部]△9°		65
2	C-168	SI46	床面	土器器	环	36.0 × × 5.0	[口部]23°, 体部△9°→△15°, 环△9°△9°	[口部]～[底部]△9°	外面赤茶, 内面黑色處理, 亂層構造	65
3	C-170	SI46	埋土	土器器	束	13.2 × 5.9 × 13.2	[口部]23°, 腹部～底部△9°	[口部]△9°, 腹部～底部△9°	内外面黑色處理	65
4	C-164	SI46	埋土	土器器	束	(39.7) × × (6.2)	[口部]23°, 腹部△9°	[口部]△9°, 腹部△9°		65
5	C-166	SI46	床面	土器器	束	(36.4) × × (15.2)	[口部]23°, 腹部△9°	[口部]△9°, 腹部△9°		65
6	C-167	SI46	埋土	土器器	束	(35.4) × × (13.1)	[口部]23°, 体部△9°→△15°	[口部]△9°, 腹部△9°→△15°		65
7	C-169	SI46	床面	土器器	瓶	38.2 × 9.6 × 22.5	[口部]23°, 体部△9°→△15°→△18°, 底圓△9°	[口部]23°, 腹部△9°		66

SI47 穫穴住居跡(第173~174図)

【位置・確認面】 3A区中央部で確認された。

【重複】 SI48を切る。

【規模・形態】 主軸を南北にとり、南北方向で3.35m、東西4.75mの主軸直行方向が長軸となる隅円長方形を呈する。

【方向】 主軸方位は真北、N-0°である。

【堆積土・構築土】 14層に分層した。1・2層は住居埋土であり、大部分を占める1層中には少量だが焼土・炭化物粒が認められた。3層はカマド内の埋土である。カマドの焼き口前面から広がり、炭化物の含有が顕著な4層は、貼床あるいは床面直上の堆積と考えられる。5~7層はカマド煙道内部の埋め土、8層~12層はカマドの構築土にあたる。13・14層は掘り方の埋土である。

【壁面】 上部は大きく削平されているものと考えられる。IV層中を壁面とし、やや外反しつつ立ち上がる。壁高は13cm~23cmが残存する。

【床面】 4層付近が床面と考えられる。

【柱穴】 P1、P2を確認した。共に柱の痕跡が認められ、特に顕著なP1は、住居の南北ほぼ中央、西よりに位置する。

【カマド・煙道】 北辺西側に設けられている。両袖は直線的に開き、左袖部の内側には焼けた煙が認められた。外幅は110cm、奥行60cmである。煙道は長さ143cm、幅60cmで底面は先端部へ向けて傾斜し、深さは7.8cm~17cmを計る。煙道の先端部はピット状に窪んでいる。

【その他の施設】 南側の壁沿いで浅いSK1とした浅い掘り込みを確認した。

【掘り方】 底面は中央部から周辺部へむけて緩やかに傾斜している。落差は最大で10cm程度である。

【出土遺物】 土師器環2点、甕1点、須恵器蓋1点を掲載した。2は平底状の底部から緩やかに立ち上がり口唇部にいたる。3は長胴甕で胴部に横位のナテの後、縦位のヘラケズリを施す。4は口径が大きく、甕の蓋か、カエリが退化し、口唇部に位置したものである。

SI48 穫穴住居跡(第175~176図)

【位置・確認面】 3A区中央部で確認した。

【重複】 SI47に切られる。

【規模・形態】 規模は、主軸方向は4.6m、主軸直行方向で4.35m、平面形状は隅円方形となる。

【方向】 主軸方位はN-20°-Wである。

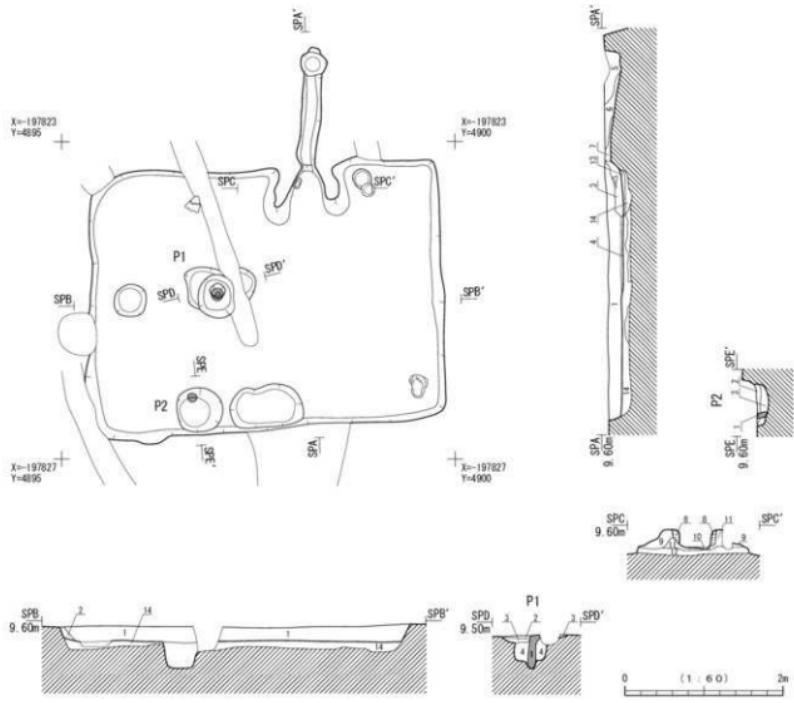
【堆積土・構築土】 23層に分層した。1~5層は住居埋土である。4層は住居の南側で僅かに認められ、少量だが焼土・炭化物を含んでいる。5層は床面直上の薄い堆積である。6~11層はカマド内の埋土にあたるが、このうち7層は3層と同一の層である可能性も存在する。12~16層は煙道内の埋土である。17~19層は周溝の埋土にあたる。ただし、これら大部分は18層が占めている。20~22層はカマドの構築土、24層は掘り方の埋土である。

【壁面】 IV層中を壁面としており、壁高は、最も状態のよい東壁で40cm~42cm、一部に擾乱を受けている北壁でも31cm~35cmが残存する。立ち上がりは垂直に近いが、北側のみは緩やかに広がる形となる。

【床面】 5層付近、あるいはその直下を床面とする。

【柱穴】 P1~P7を確認した。位置関係と形状から、住居南側のP1・P2が主柱穴となる可能性がある。ただし、北側の床面には柱穴が認められない。P3~P5はP1の周囲を住居のコーナーに沿う形で、ほぼ等間隔に設けられている。

【周溝】 カマドを除き全周している。壁の立ち上がりの形状から、北側ではやや壁から離れる形となるが、概ね壁



第173図 SI47堅穴住居跡

SI47 墓土註記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR3/-3 黄褐色	砂質シルト	地山小ブロック・炭化物鉱・地土少量、人骨灰少しき小形
	2	10YR4/-4 黄褐色	砂質シルト	
カマド	3	10YR4/-2 黑灰褐色	シルト	φ1cm内の地土ブロック少量、炭化物鉱や多く含む、カマド内側のみの埋土
	4	10YR2/-1 黒褐色	シルト	炭化物層
カマド・煙道	5	10YR2/-3 黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の地土ブロックや多く、炭化物鉱少量含む
	6	10YR2/-4 黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の地土ブロックや少く、炭化物鉱少量含む
カマド・ツバ	7	10YR4/-3 にぶい黄褐色	砂質土	地土層
	8	5YR3/-2 黄褐色	砂質シルト	
カマド・ツバ	9	10YR4/-4 黄褐色	シルト	10YR1/-3 黄褐色シルトが混入
	10	10YR2/-4 黄褐色	砂質シルト	10YR2/-3 黄褐色がまばらに混入
掘り方	11	10YR4/-4 黄褐色	砂質シルト	
	12	10YR4/-6 黄褐色	砂質シルト	10YR4/-4 黄褐色砂が少し混入
掘り方	13	10YR2/-4 黄褐色	砂質シルト	10YR2/-3 黄褐色シルトを小ブロック状に含む
	14	10YR4/-3 にぶい黄褐色	砂質シルト	

SI47 施設埋土註記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/-3 黄褐色	シルト	炭化物鉱を微量含む
	2	10YR1/-3 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭灰を微量
	3	10YR4/-4 黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量
	4	10YR2/-3 黄褐色	砂質シルト	砂粒を少量
P2	1	10YR2/-3 にぶい黄褐色	砂質シルト	柱灰跡少しき小形
	2	10YR2/-3 黄褐色	砂質シルト	炭灰微量
	3	10YR4/-4 黄褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR2/-2 黑褐色	砂質シルト	

際を巡る形となる。幅10cm～30cm、深さは10cm～30cmである。

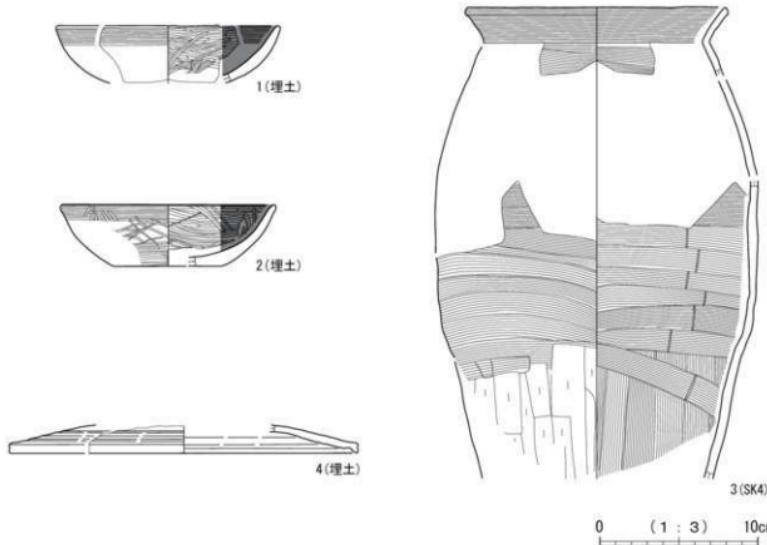
〔カマド・煙道〕 北辺の中央部より東側に設けられる。両袖の平面形はやや内湾している。外幅110cm、奥行47cmで、底面から袖部内面は顯著に被熱している。煙道は長さ212cm、幅30cmで底面は先端へ向かって傾斜しており、深さは21cm～40cmを計る。先端部は平面55cm×45cm、深さ46.6cmのピット状に窪んでいる。

〔掘り方〕 底面はほぼ平坦だが、周辺部の底面がやや深く掘り込まれている。落差は最大で10cm前後となる。

〔出土遺物〕 土器壺5点、甕1点、須恵器蓋1点を掲載した。1は器高の低い皿状で、2・3・4は、体部と底部の境に段を持つ比較的口徑の大きいものである。5は平底の底部から緩やかに内湾しつつ、口唇部にいたる。掘り方出土の7は疑宝珠状つまみが崩れ、ほとんどボタン状に見える。退化したカエリが外側に移行し、やや垂下し始めている。

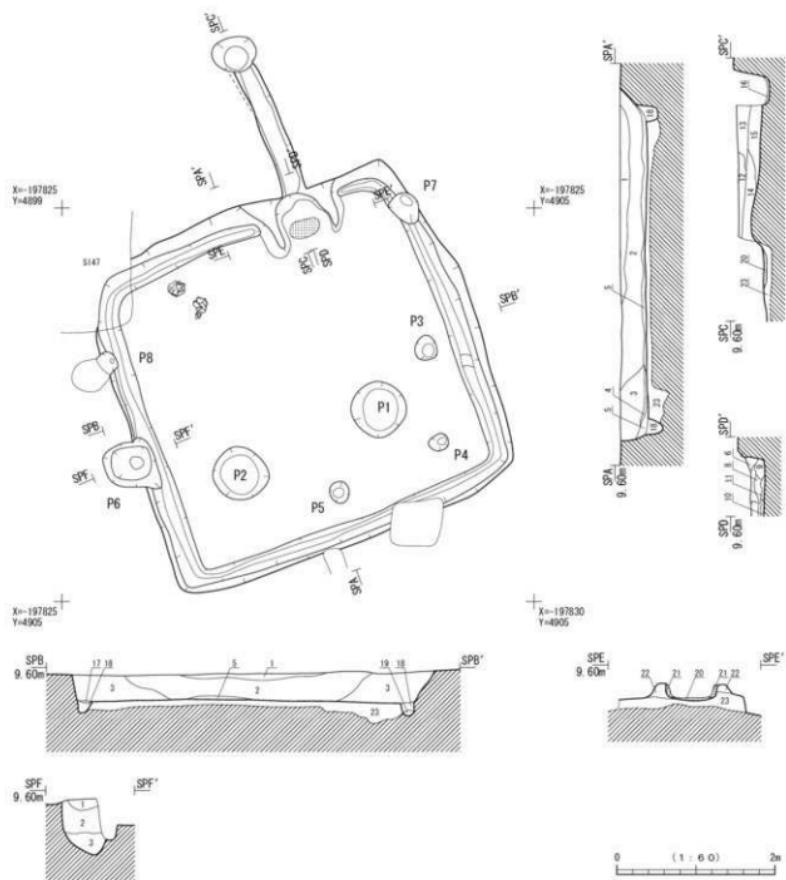
SI47 挖出物図表

遺物名	平面図	規格(cm)	深さ(cm)	備考	遺物名	平面図	規格(cm)	深さ(cm)	備考
P1 不整形	80×60 柱軸跡12×32		32		P2	円形	60×57	18.9	
					SK1	楕円形	93×55	9.6	



第174図 SI47竪穴住居跡出土遺物

国版 番号	登録番号	出土遺物	部位	種別	器種	口径×底径×器高(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 図版
1	C-171	SI47	埋土	土器器	环	(41.0)×(3.0)×(3.6)	口縁部30cm、外縁部瓦	口縁部～体部シザーカット	内面黒色処理	66
2	C-173	SI47	埋土	土器器	环	(13.0)×(6.0)×(3.9)	口縁部30cm、外縁部瓦	口縁部～体部シザーカット	内面黒色処理	66
3	C-172	SI47	SK4	土器器	甕	(16.2)×(29.8)	口縁部30cm、外縁部瓦	口縁部～体部シザーカット～下半シザーカット	内面黒色処理	66
4	E-005	SI47	埋土	須恵器	蓋	(23.0)×(17.7)	口縁部30cm、外縁部瓦	口縫部調整、天井部斜面削除	内外面自然釉	66



第175図 SI48竪穴住居跡

SI48 墓土跡記表(1)

部	分	層	位	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	堆山小ブロックを少量含む	
	2	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	△ 1cm内の堆山ブロックを多量に含む(一部堅状をなす)	
	3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	△ 1cm内の堆山ブロックをやや多く含む(堅固やや明るい色調)	
	4	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	炭化物・焼土粒を少量含む	
	5	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	(堆山のうつり層)	△ 1cm内の堆山ブロックを一部含む
カマド	6	10YR4/4	褐色	砂質土		
	7	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	自然3層とみられる	
	8	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	△ 暗褐色の焼土ブロックを多量含む	
	9	7.5YR2/2	暗褐色	砂質シルト	焼土ブロック層	
カマド・煙道	10	10YR3/2	黒褐色	シルト	△ 5cm内の焼土ブロックを多く含む,灰を含む	
	11	10YR3/3	暗褐色	シルト	△ 5cm内の焼土ブロックを多く含む,灰を含む	
	12	10YR3/3	暗褐色	シルト	10YR5/4に、△い、黄褐色ブロック面、煙道穴井部残存	
	13	10YR4/2	灰青褐色	シルト	5YR3/3暗赤褐色焼土ブロック面、炭化物灰混	
	14	10YR3/4	暗褐色	シルト		

SI48 墓土封記表

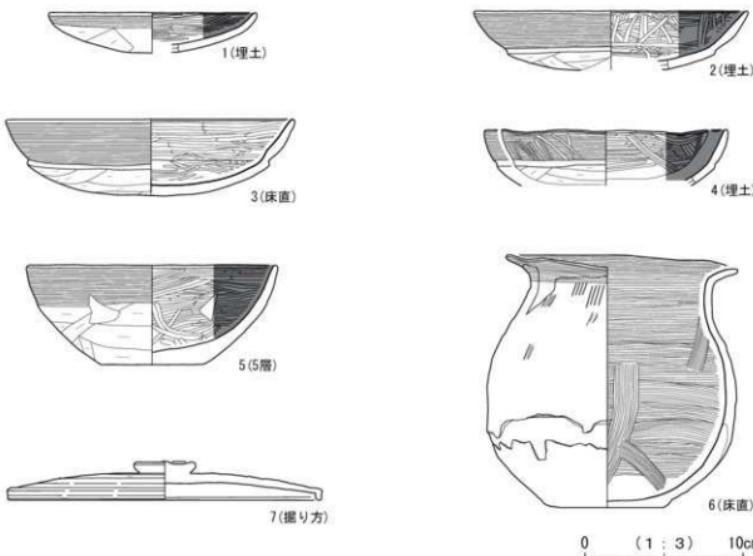
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
カマド・煙道	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	上面に5YR3/3暗赤褐色底面のこる、燒土ブロック灰化物粒混
	16	10YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	灰化物粒混
回溝	17	10YR2/3 黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量含む
	18	10YR4/4 褐色	砂質シルト	φ1cm内地山ブロックを多量含む
	19	10YR4/6 褐色	シルト	地山ブロック十層
カマド・ツヅ	20	5YR3/4 暗赤褐色	焼け面	
	21	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	2.5YR5/6明赤褐色焼土粒・灰化物粒混入
振り方	22	2.5YR4/2 黄褐色	シルト	東そで方に焼土ブロック混入
	23	10YR4/2 黄褐色	シルト	10YR3/2黒褐色、10YR4/4にぶい黄褐色ブロック混入

SI48 地盤埋土封記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1				
P2				
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	地山ブロック多量含む
P5	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	灰化物・燒土粒をやや多く含む
P6	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	燒土粒を微量含む
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	下平地山ブロックをやや多く含む
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	
P7	1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	SI必西面に切り合って検出され壁柱の可能性も考えられるが…瓶立の柱穴とみられる
	2	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	φ1cm内地山ブロックを多量
	3	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量含む
壁柱P6	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	SI必西面に切り合って検出され壁柱の可能性も考えられるが…瓶立の柱穴とみられる
				灰化物粒混入

SI48 施設剖面図

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	平面図 矢印				P6	不整形	(64) × 55	82	
P2	矢印				P7	不整形	42 × 33	33.2	
P3	円形	30 × 27	25.2		壁柱P6	不整形	25 × 20	34.2	
P4	椭円形	25 × 19	24.3		P7	長方形	44 × 39	18	
P5	円形	27 × 25	16.4						



第176図 SI48堅穴住居跡出土遺物

国版 番号	登録番号	出土遺物	層位	種 類	器 種	口径×底径×高さ(cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考	写真 回数
1	C-181	SH48	埋土	土師器	环	(13.2) × × 6.8	口縁部ヨリ、体部～底部△9cm	口縁部～底部△9cm	内面黒色処理	66
2	C-180	SH48	埋土	土師器	环	(17.2) × × 6.7	口縁部～体部ヨリ、底部△9cm	口縁部～底部△9cm	内面黒色処理	66
3	C-178	SH48	床直	土師器	环	(18.2) × × 11.8	口縁部～体部ヨリ、底部△9cm	口縁部～底部△9cm	内面黒色処理	66
4	C-179	SH48	埋土	土師器	环	(15.2) × × 3.5	口縁部ヨリ、底部△9cm	口縁部～底部△9cm	内面黒色処理	66
5	C-175	SH48	5層	土師器	环	(15.6) × 8.4) × 6.2	口縁部ヨリ、体部～底部△9cm	口縁部～底部△9cm	内面黒色処理	66
6	C-177	SH48	床直	土師器	束	14.7 × 7.5 × 16.0	口縁部ヨリ、体部～底部△9cm	口縁部ヨリ、体部～底部△9cm	内面黒色処理	66
7	E-036	SH48	掘り方	陶器部	壺	(9.7) × × 2.5	口縁部ヨリ、体部～底部△9cm	口縁部ヨリ、体部～底部△9cm	内面黒色処理	66

SI49 壁穴住居跡(第177～178図)

【位置・確認面】 3A区南半部の調査区西壁沿いで確認した。壁面の状況から、Ⅱ層あるいはⅢ層によって上部を削平されており、住居内へのⅢ層の落ち込みは認められない。

【重複】 SI32、SI39に切られる。

【規模・形態】 規模は未検出を含む推定主軸方向で4.3m、直行方向で6.2mを計り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東辺の傾きはN-35°-Eを指すが、カマドは未検出の北西部に位置していたと推定できる。

【堆積土・構築土】 10層に分層した。1～6・9層が住居埋土で、特に3層からは多量の土器片が出土している。

7・8層は周溝の埋土にあたる。7層については壁材の痕跡と考えられようか。10層は掘り方の埋土である。

【壁面】 壁高は32.7cm～34.2cmが残存しており、壁面の立ち上がりは緩やかだが、周溝内の堆積状況から、内側に壁が存在していた可能性も指摘できる。

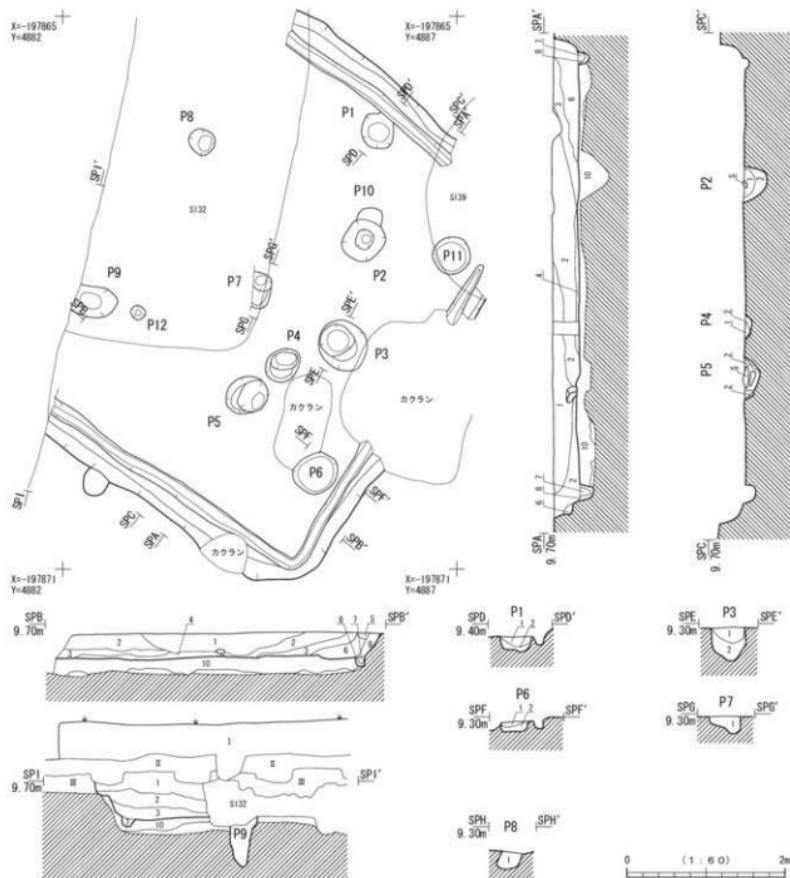
【床面】 西側が失われている。床面上から多数の礫が検出されている。

【柱穴】 P1～P11を確認した。位置関係から、P8、P2、P5、P9が主柱穴に当たると考えられ、柱間は2.4m前後である。P2、P5内にも礫の落ち込みが認められた。

【周溝】 検出部を全周しており、東側コーナー付近では壁から僅かに離れる。幅は15cm～20cm、深さは8cm～14.7cmである。

【掘り方】 周囲から中央部へ向かって掘り窪められている。底面の落差は10cm前後である。

【出土遺物】 土師器壺4点、壺もしくは鉢2点、高壺1点、甕1点を掲載した。1・3は、体部と底部の境目に段を有する。2・4は、丸底の底部から緩やかに内湾する。7の高壺は脚部が短く太い。



第177図 SI49竪穴住居跡

SI49 竪穴住居跡

部 位	層 位	土 色	土 性	特 考
埋 土	1	10YR3/3 單褐色	砂質シルト	10YR4/4 單色シルトが少し混入
	2	10YR3/4 單褐色	シルト	10YR4/4 單色シルトがやや多く混入。10YR2/3 黒褐色シルトを部分的にブロック状に混入
	3	10YR3/3 單褐色	シルト	部分的に粘状或化物が混入。10YR1/4 單色シルトが少し混入、土器の混入が多く見られる。
	4	10YR4/4 單褐色	シルト	10YR2/3 黑褐色シルトが多めに混入
	5	10YR3/4 單褐色	シルト	
	6	10YR4/4 單褐色	砂質シルト	10YR3/3 シルト層の大半部分にスジ状に走る
回溝	7	10YR4/4 單褐色	砂質シルト	10YR2/2 黒褐色シルトがブロック状に混入
	8	10YR3/4 單褐色	シルト	10YR2/3 黑褐色シルトが較強に混入
	9	10YR4/4 單褐色	シルト	10YR3/4 黑褐色砂質シルトが混入
廻り方	10	10YR3/3 單褐色	砂質シルト	10YR5/4(5) 黒褐色地山ブロック層。10YR2/3 黑褐色土柱状に混入

S49 馬踏理土柱記録

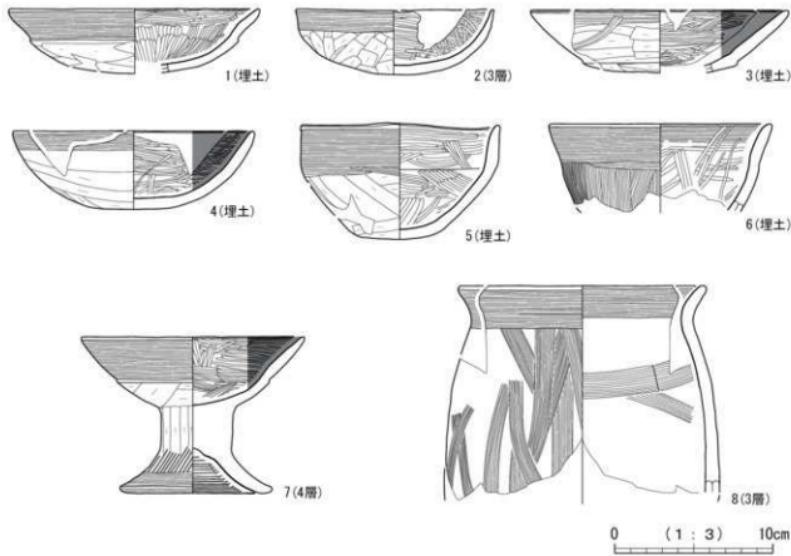
部 位	層 位	土 色	土 性	特 考
円	1	10YR3/3 單褐色	シルト	10YR4/4 にぶい黄褐色シルトが混入
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR3/4 單褐色シルトが混入

SI49 地質土柱記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P2	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR4-4 シルトが粒状に混入。
	2	10YR3/4 嫌褐色	シルト	10YR3/3 シルトが粒状に混入。
P3	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	粒状の炭化物が混入。10YR4-4 シルトが粒状に混入。
	2	10YR3/3 嫌褐色	シルト	10YR4-3 シルトがプロック状に混入。
P4	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4-4 シルトがプロック状に混入。
	2	10YR4/4 嫌色	シルト	10YR2-2 シルトがプロック状に混入。
P5	1	10YR2/3 嫌褐色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR4-4 シルトが粒状に混入。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR3-3 シルトが混入。
P6	1	10YR2/4 嫌褐色	シルト	粒状に炭化物が混入。
	2	10YR4/4 嫌色	砂質シルト	10YR2-2 シルトが部分的にプロック状に混入。
P7	1	10YR4/4 嫌色	シルト	粒状炭化物が混入。10YR2/3 シルトがプロック状に混入。
P8	1	10YR3/4 嫌褐色	シルト	炭化物が部分的に混入。
P9	1	10YR2/3 嫌褐色	シルト	炭化物が粒状に混入。
P10	1	2.5 YR3/2 嫌赤褐色	砂質シルト	10YR3-3 プロック混。
P11	1	10YR2/3 嫌褐色	シルト	10YR2-2 シルトがプロック状に混入。10YR4-4 嫌色が混入。

SI49 地質觀察表

遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	長方形	43 × 39	18		P7	長方形?	45 × (25)	24	
P2	円形	53 × 48	40.2		P8	円形	34 × 31	37.6	
P3	円形	65 × 59	40.4		P9	椭円形	(53) × 39	37.7	
P4	円形	46 × 40	9.8		P10	円形?	32 × (18)	-	
P5	円形	53 × 50	49.2		P11	-	-	-	
P6	円形	54 × 49	14.6						



第178図 SI49堅穴住居跡出土遺物

回版番号	立替番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外観調査	内面調査	備考	写真回数
1	C-183	SH49	埋土	土器器	环	(36.0) × × (4.0)	口縁部凹凸、底部～底盤ハサエ型	口縁部～底盤ハサエ型		66
2	C-184	SH49	3層	土器器	环	32.4 × × 4.1	口縁部凹凸、底部～底盤ハサエ型	口縁部～底盤ハサエ型		66
3	C-186	SH49	埋土	土器器	环	(36.2) × × 3.9	口縁部凹凸、底部～底盤ハサエ型～S字型	口縁部～底盤ハサエ型	内面黒色処理	66
4	C-191	SH49	埋土	土器器	环	(35.3) × 5.0 × 5.0	口縁部凹凸、底部～底盤ハサエ型	口縁部～底盤ハサエ型	内面黒色処理	66
5	C-187	SH49	埋土	土器器	环	32.7 × 5.8 × 7.3	口縁部凹凸、底部～底盤ハサエ型	口縁部～底盤ハサエ型	内外面に墨面、小型鉢	66
6	C-182	SH49	埋土	土器器	环	(34.0) × × (5.5)	口縁部凹凸、底部ハサエ型	口縁部凹凸～S字型、底部ハサエ型		66
7	C-185	SH49	4層	土器器	高环	(14.2) × 9.6 × 10.3	口縁部凹凸、底部～脚柱状底部ハサエ型～S字型	環部～1層目S字型	環部内面墨面処理	67
8	C-190	SH49	3層	土器器	束	(35.7) × × (3.8)	口縁部凹凸、脚柱型	口縁部凹凸、脚柱型		67

SI50 穫穴住居跡(第179図)

[位置・確認面] 3 A区中央部の調査区西壁沿いでコーナー部分のみを確認した。大部分は調査区外となる。壁面の状況から、上部はⅢ層ないしⅡ層によって削平されている。住居埋土中へのⅢ層の落ち込みは認められない。

[規模・形態] 認証できた範囲は南北で2.15m、東西で1.54mである。

[方向] 東壁を基準とした主軸方位はN-40°-Eである。

[堆積土・構築土] 7層に分層した。1～4層は住居埋土である。床面上の4層には炭化物が顕著に含まれており、全体的な堆積状況から、竪穴住居跡が人為的に埋められている可能性を指摘できる。5層は周溝の埋土、6・7層は掘り方の埋土である。

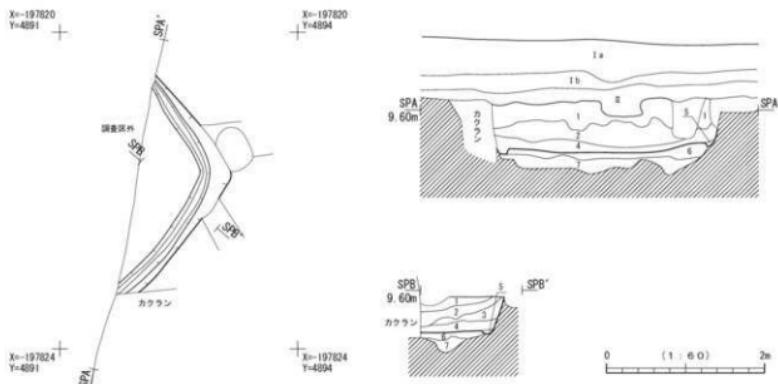
[壁面] IV層中を壁面としており、調査範囲となった東側コーナーでは42cmが残存する。立ち上がりは直線的で、外側へ向かって傾斜する。

[床面] 大部分が調査範囲外となり、詳細は不明である。

[周溝] 調査範囲は一部であるが、壁の直下を幅15cm～16cm、深さ5.8cm～8.2cmの溝が設けられている。

[掘り方] 大部分の詳細は不明だが、壁際にピット状の掘り込みが認められる。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。



第179図 SI50竪穴住居跡

SI50 墓跡記録表(1)

部 分	層 位	土 色	土 质	備 考
埋 土	1	10Y3/4 明褐色	砂質シルト	地山ブロックをや多く含む
	2	10Y3/4 明褐色	砂質シルト	炭化物粒を少し含む
	3	10Y3/4 明褐色	砂質シルト	地山ブロックを少し含む
	4	10Y3/4 明褐色	砂質シルト	地山ブロックを少し、炭化物ブロックをや多く含む※全層にわたり、人為埋土の可能性あり

S50 理土目記(断面)

部 位	層 号	土 色	土 性	備 考
削 壁	5	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	
削り方	6	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	地山・黒褐色シルトブロックをやや多く含む
	7	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	δ 5cm内の黒褐色シルトブロックを層上手に含む

S151 積穴住居跡(第180~182図)

【位置・確認面】 3A区中央部で確認した。

【重複】 S156, S157を切る。

【規模・形態】 南北にとる主軸方向の方がやや大きく、主軸方向で5.75m、直行方向で5.3mの隅円方形を呈する。

【方向】 主軸方位はN-7°-Wである。

【堆積土・構築土】 20層に分層した。1~5層が住居理土である。全体に焼土・炭化物を含んでおり、堆積状況などから考えても、廃絶時以後、人為的に埋められた可能性が高い。また、4層については貼床の層と考える事も出来る。6~8層はカマド内に堆積する焼土の層、9層~13層は煙道内の埋土である。14~15層は周溝内の埋土であり、特に14層は壁材の痕跡とも考えられる。16層~17層はカマドの構築土、18層から20層は掘り方の埋土である。

【壁面】 IV層中を壁面としている。上部は大きく削平されているものと考えられるが、壁高は25.8cm~28.1cmが残存する。

【床面】 19層、20層の上面、あるいは4層を床面としている。

【柱穴】 P1~P14を確認した。位置関係からP1~P4が主柱穴にあたると考えられる。住居の平面形との相対的位置関係は、ほぼ左右均等となり、いずれも東西の周溝の縁から90cm前後内側に設けられている。柱間は主軸、両辺共に約3mとなる。カマドの右側から検出されたP5の埋土中には、少量だが焼土・炭化物が認められた。P7~P14は周溝底面または壁際で確認されたピットで、いずれも壁柱穴と考えられる。P8と東辺のピットとの距離は1.8m、P10と南東コーナー部ピットとの距離も同じく1.8mで、P10、P11間およびP12、P13間は2.4mである。各ピット間距離の最大公約数は、ほぼ30cm前後になるものとみられ、平面設計に対する尺貫法の使用も想定できようか。

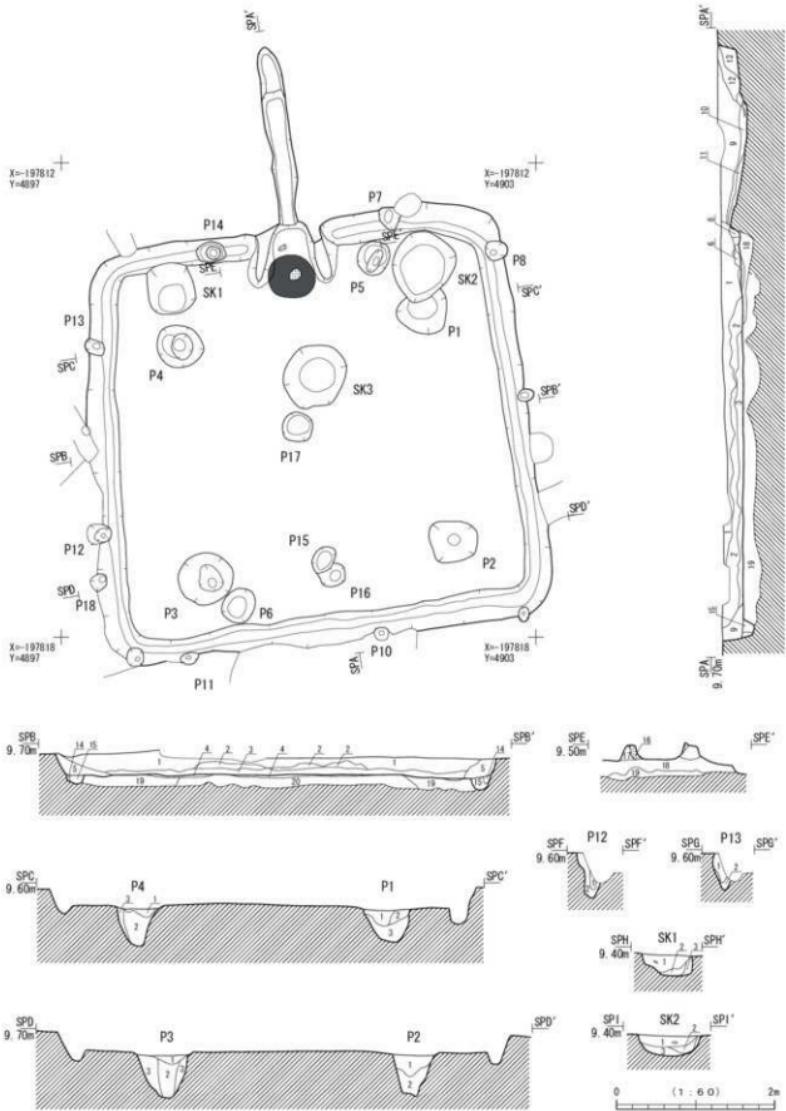
【周溝】 カマド部分を除き、壁際を全周している。底面には複数のピットが認められた。幅18cm~23cm、深さは12.1cm~17.8cmである。

【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられる。袖は直線的にやや外側へ開いており、カマド前庭部付近には焼土が広がる。外幅は110cm、奥行72cmで、底面は住居床面との高低差を持たず、奥壁近くに自然石を据えて支柱としている。煙道の長さは170cm、幅は30cmである。底面は先端部へ向けて低くなっており、深さ20cm~39.7cmを計る。

【その他の施設】 SK1~SK3を確認した。SK1とSK2は、それぞれカマドの左右、主柱穴の外側に位置し、平面形上の相対的な位置関係はほぼ均等となっている。共に埋土中には焼土が多く含まれる。SK3は掘り方底面からの検出である。

【掘り方】 P12とP13の間から中央部付近にかけて舌状に掘り残しているが、底面は概ね平坦で最大落差は5cm前後である。

【出土遺物】 土師器壺3点、壺1点、甕1点、須恵器壺3点、甕1点、砥石1点を掲載した。1は、丸底から緩やかに内湾し口唇部に至る。2は平底の底部から直立気味の口唇部に至る。4は大型の短頸壺である。6・7は底部整形が手持ちヘラケズリ整形である。8は底部回転ヘラ削り整形で、法量と器形から8世紀第3四半期にまで下がるものである。他の遺物は、ほとんどが7世紀後半から8世紀前半代でおさまる時期の須恵器壺である。



第180図 SI51豎穴住居跡

S50 地質記録表

部 位	層 段	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/4 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロックをやや多く含む
	2	10YR3/4 嫡褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
	3	10YR3/4 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量含む
炭塊	4	10YR3/4 嫡褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量、炭化物ブロックをやや多く含む半盤にわたり、人為埋土の可能性あり
	5	10YR4/4 嫡褐色	砂質シルト	
覆り方	6	10YR4/4 嫡褐色	砂質シルト	地山・黒褐色シルトブロックを層上半に含む
	7	10YR4/4 嫡褐色	砂質シルト	φ5cm内の黒褐色シルトブロックを層上半に含む

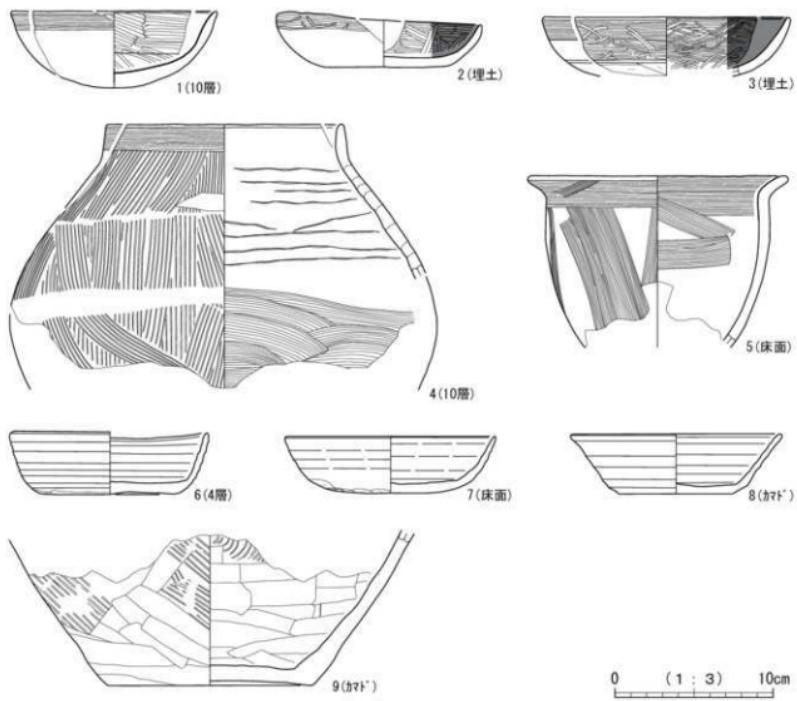
S51 施設埋土記録表

部 位	層 段	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 嫡褐色	シルト	炭化物・地土粒を少量含む
	2	10YR4/3 にぶい・黒褐色	砂質シルト	φ1cm内の地山ブロックを間に含む
	3	10YR4/3 にぶい・黒褐色	砂質シルト	φ3cm内の地山ブロック・嫡褐色シルトブロックを間に含む
P2	1	10YR4/2 にぶい・黒褐色	砂質シルト	地山ブロック・灰黃褐色シルトブロックを間に含む
	2	10YR4/4 黒褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを少量含む
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物・地土粒を微量含む
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロックを多量に含む柱状
	3	10YR4/4 黑褐色	砂質土 (プロック)	
P4	1	10YR2/4 嫡褐色	シルト	炭化物・地土粒を少量含む
	2	10YR2/4 嫡褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロックを多量に含む
	3	10YR5/4 にぶい・黒褐色	砂質シルト	地山の大型ロックを間に含む
P5	1	10YR4/3 にぶい・黒褐色	砂質シルト	部分的に地土・炭化物ブロックを少量含む
P6	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	地山ブロックを微量含む
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山小ブロックを多量に含む、炭化物を微量含む
P8	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	下半に地山ブロックを少量含む
P9	1	10YR2/4 嫡褐色	砂質シルト	
P10	1	10YR4/3 にぶい・黒褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量に含む
P11	2	10YR2/3 嫡褐色	シルト	炭化物粒を少量含む
P12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	柱状、裏面風化あり
P13	2	10YR3/2 嫡褐色	砂質シルト	炭化物粒を少量含む
P14	1	10YR4/2 黒褐色	シルト	炭化物を微量含む
P15	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	地山ブロックを少量化し現入
P16	1	10YR3/3 嫡褐色	シルト	地山ブロックを少量化し現入
P17	-	-	-	
P18	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	上半に地山ブロックを多く含む(壁中)
P19	1	10YR2/4 嫡褐色	砂質シルト	(壁)Q2
P20	-	-	-	
SK1	1	10YR2/3 嫡褐色	砂質シルト	φ1cm程の地土ブロックがやや多い
	2	10YR4/4 黑褐色	砂質シルト	地山ブロック層
	3	10YR2/3 嫡褐色	シルト	
SK2	1	10YR2/3 嫡褐色	シルト	φ2cm内の地土ブロックがやや多い
	2	10YR2/2 黑褐色	シルト	φ1cm程の地土ブロックがやや多く炭化物粒は少量
	3	10YR4/4 黑褐色	砂質シルト	地山ブロック密
SK3	-	-	-	

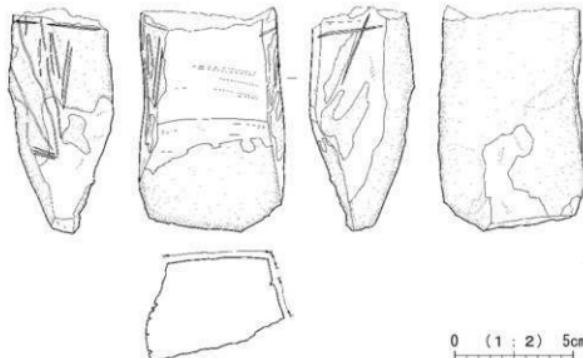
S51 施設細部表

造形名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形	64 × 62	65.2	
P2	方形	63 × 50	73.9	
P3	円形	柱距離13 × 10	71.5	
P4	円形	60 × 54	79.7	
P5	椭円形	43 × 39	29.5	
P6	椭円形	43 × 42	13	
P7	不規形	28 × 26	58.5	
P8	椭円形	28 × 23	41.5	
P9	椭円形	19 × 18	43.8	
P10	方形	18 × 16	21.3	
P11	椭円形	21 × 15	33.5	
P12	椭円形	31 × 25 柱距離5	64.9	

造形名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
P13	椭円形	25 × 19	51	
P14	椭円形	35 × 27	51	
P15	椭円形	37 × 36	18	
P16	不規形	32 × 29	14.1	
P17	円形	38 × 36	21.3	
P18	方形	21 × 21	30.4	
P19	円形	24 × 21	51.5	
P20	椭円形	20 × 14	52	
SK1	方形	64 × 59	30.9	
SK2	円形	89 × 80	29	
SK3	円形	79 × 78	14.1	



第181図 SI51竪穴住居跡出土遺物(1)



第182図 SI51竪穴住居跡出土遺物(2)

国版 番号	登録番号	出土遺物	部位	種 別	器 形	口径×底径×高さ(cm)	外 国 調 整	内 国 調 整	備 考	写 真 回数		
1	C-197	SES1	10層	土師器	环	(13.0) × × 4.8	[1]縁部2.0mm、体部～底部断続 [1]縁部2.0mm、体部～底部断続	[1]縁部～底部2.0mm [1]縁部～底部2.0mm	67			
2	C-193	SES1	埋土	土師器	环	(12.9) × 7.5 × 3.0	[1]縁部2.0mm、体部～底部断続 [1]縁部2.0mm、体部～底部断続	[1]縁部～底部2.0mm [1]縁部～底部2.0mm	67			
3	C-194	SES1	埋土	土師器	环	(15.8) × × 0.7	[1]縁部2.0mm～1.8mm、体部～底部2.0mm～1.8mm [1]縁部2.0mm～1.8mm、体部～底部2.0mm～1.8mm	[1]縁部～体部2.0mm [1]縁部～体部2.0mm	67			
4	C-198	SES1	10層	土師器	壺	15.0 × × (6.7)	[1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm [1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm	[1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm [1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm	67			
5	C-192	SES1	床面	土師器	壺	(16.4) × × (10.8)	[1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm [1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm	[1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm [1]縁部2.0mm～1.8mm、脚部2.0mm	67			
6	E-017	SES1	4層	須恵器	环	(12.2) × 8.4 × 4.0	20mm調査、各部下端～底部手持ち～9.0cm 20mm調査、各部下端～底部手持ち～9.0cm	20mm調査 20mm調査	67			
7	E-038	SES1	床面	須恵器	环	13.3 × 8.2 × 3.6	20mm調査、各部下端～底部手持ち～9.0cm 20mm調査、各部下端～底部手持ち～9.0cm	20mm調査 20mm調査	67			
8	E-040	SES1	IV層	須恵器	环	13.2 × 7.0 × 3.8	20mm調査、各部下端～底部手持ち～9.0cm 20mm調査、各部下端～底部手持ち～9.0cm	内外面火照張 内外面火照張	67			
9	E-039	SES1	IV層	須恵器	壺	— × 13.0 × 0.5	側面平行引き目、外底～底部2.0mm 側面平行引き目、外底～底部2.0mm	側面浅火文、側部下端～2.0mm 側面浅火文、側部下端～2.0mm	67			
測量 番号	登録番号	出土地点	部位	地区	種 別	器 形	分類	長さ・幅・厚さ cm	重 量(g)	石 有	備 考	写 真 回数
1	K-023	SES1	埋土	3A	石製品	砾石	1 A2	9.1 × 5.8 × 4.2	300.46	複数点	欠損品、自然石、板状、無色、自然面あり	67

SI52 穫穴住居跡(第183～184図)

【位置・確認面】 3A区北半部、調査区に西壁沿いでカマド付近のみを確認した。埋土中にはⅢ層の落ち込みが認められる。

【重複】 SI53、SI54を切る。

【規模・形態】 検出部は南北で2.5m、東西1.5mである。平面形は隅円方形と推定される。

【方向】主軸方位はN-77°-Eである。

【堆積土・構築土】 8層に分層した。1層と2層は住居埋土で3層、4層はカマドの焚き口付近の堆積である。5層は煙道先端のピット状窪みの埋土と考えられる。6・7層は掘り方の埋土である。

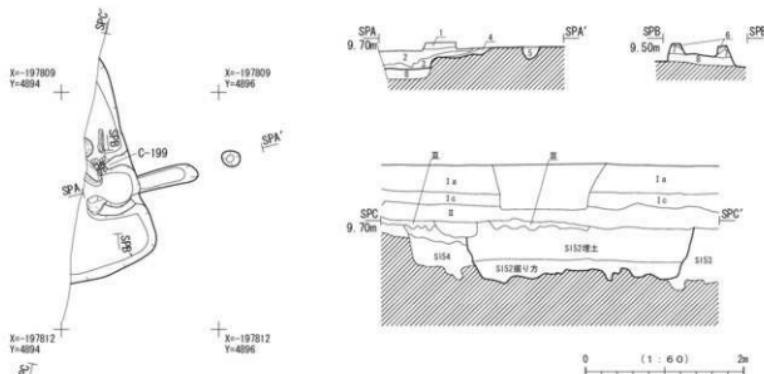
【壁面】 IV層中を壁面としており、東側で24.7cm、南側で22cmが残存する。

【床面】 8層上面を床面としている。

【カマド・煙道】 東辺中央部より南側に寄りに設けられているものと考えられる。袖部は内湾しており、右側の先端部に自然石、左側には自然石と土器が配されている。外幅85cmで、左袖部の脇からは木片が検出された。煙道は上部が削平を受けているものとみられるが、長さ73cm、幅は30cm、深さ平均16.8cmが残存する。底面は先端へ向けて浅くなっていると推定できる。

【掘り方】 大部分が調査区範囲外となるため、詳細は不明である。

【出土遺物】 土師器環2点、壺2点、ロクロ土師器環1点、須恵器壺1点を掲載した。1は平底で、手持ちヘラ削

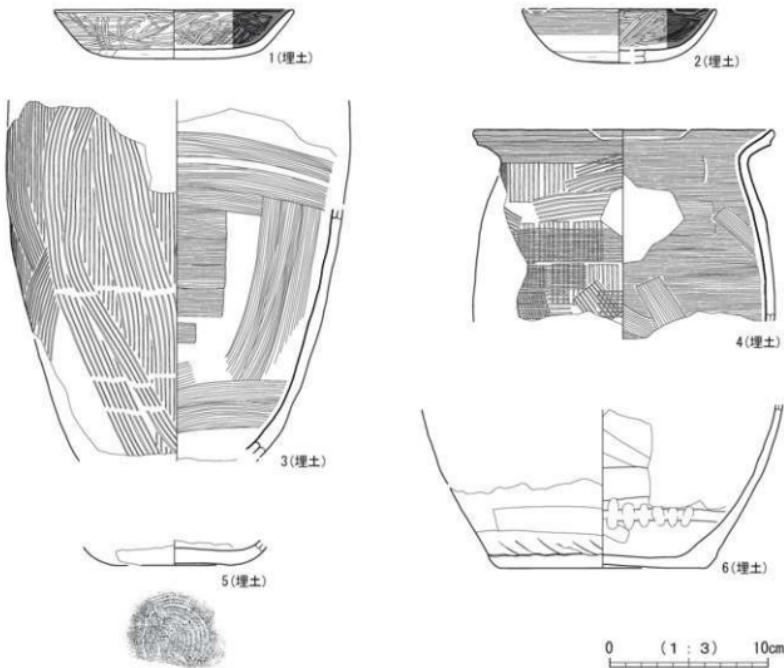


第183図 SI52竪穴住居跡

り整形。4は、外面縦位のタタキ整形の後、横位のハケメ調整を施す。器形は長胴で口唇部に段をもつ、いわゆる受け口状口縁で、北陸系もしくは陸奥型などの搬入された壺であろう。5は底部整形が回転糸切りである。

SI52 埋土目記録

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR4/3 にほい黄褐色	砂質シルト	下面に他面らしきものあり(天井面?)
	2	10YR4/3 12.45-黄褐色	砂質シルト	炭化物・地土ブロックを少量含む
	3	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の地土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む
	4	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	炭化物粒を少額含む
	5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物・地土粒をやや多く含む
	6	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	φ2cm内の地土ブロックを多く含む
	7	10YR4/3 にほい黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを少量
	8	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・地土ブロックを少量含む



第184図 SI52竪穴住居跡出土遺物

国版 番号	登録番号	出土遺唐	層位	種 别	器 形	口径×底径×高さ cm	外 面 整 塑	内 面 整 塑	備 考	写 真 枚
1.	C.200	SI52	埋土	土器器	壺	(15.2)×(8.0)×3.1	口縁部～全体約1/4、底部約1/2	口縁部～底部約1/4、底部約1/2	内面黒色处理	68
2.	C.202	SI52	埋土	土器器	壺	(12.4)×(5.5)×3.5	口縁部約1/4、全体摩滅、底部少少加工	口縁部約1/4、全体摩滅、底部少少加工	内面黒色处理	69
3.	C.199	SI52	埋土	土器器	壺	-(x)-(23.0)	側面約1/4～1/2	側面約1/4～1/2	側面糸切り	69
4.	C.203	SI52	埋土	土器器	壺	(9.9)×(4.3)2	口縁部約1/4、側面約1/4～1/2	口縁部約1/4、側面約1/4～1/2	内面黒色、側面糸切り	68
5.	D.02	SI52	埋土	砂質土器器	壺	-(x)(7.6)×(1.6)	口縫調整、底部斜面削り	口縫調整、底部斜面削り	内面糸切り	67
6.	E.042	SI52	埋土	陶器器	壺	-(x)13.0×(10.0)	外縁調整、外縁～底部約1/2	外縁調整～糸切り、側面丁字～底部 側面調整	内面糸切り	67

SI53 壁穴住居跡(第185~186図)

[位置・確認面] 3A区北半部、調査区西壁沿いで住居東辺の一部を確認した。上部をⅡ層ないしⅢ層によって削平されている。住居埋土へのⅢ層の落ち込みはみられなかった。

[重複] SI52、SK42に切られ、SI54を切る。

[規模・形態] 調査範囲となったのは南北3.8m、東西0.35mの範囲である。平面形は隅円方形を呈するものと考えられるが詳細は不明。

[方向] 東壁を基準にした主軸方位はN-5°-Eである。

[堆積土・構築土] 4層に分層した。1層は住居埋土にあたり、微量ではあるが、焼土・炭化物が含まれている。2層は周溝内の埋土、3・4層は掘り方の埋土である。

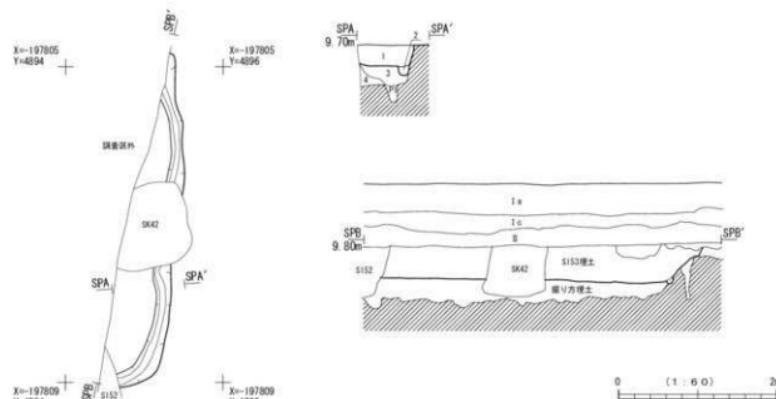
[壁面] IV層中を壁面といており、壁高は28.3cm ~ 32.3cmが残存する。床面付近の立ち上がりはやや急角度である。

[床面] 3層上面を床面とするが、大部分は調査区外であり、詳細は不明。

[周溝] 壁際に確認した。幅13cm ~ 20cm、深さ9.2cm ~ 9.8cmである。

[掘り方] 大部分は不明だが、底面よりピットが検出された。

[出土遺物] 土師器杯1点を掲載した。平底状の底部から緩やかに立ち上がり、直立する口唇部にいたる。



第185図 SI53壁穴住居跡

SI53 墓土記録表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/3 明褐色	シルト	燒土・炭化物を微量
回溝	2	10YR3/3 明褐色	シルト	堆山小プロックを少量
貼土	3	10YR3/3 明褐色	シルト	堆山プロックが混入、粒状焼土炭化物が混入
掘り方	4	10YR3/3 明褐色	シルト	堆山プロックが少し混入

SI53 残部埋土記録表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	I	10YR3/4 明褐色	シルト	10YR2/2黒褐色シルトプロックが少し混入

SI53 施設埋土記録表

遺物名	手出尺	厚層(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円筒形	20 × 15	34	



第186図 SI53竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	基部	口径×底径×器高(㎝)	外面調整	内面調整	備考	写真版
1	C-203	SI53	I層	土器器	环	11.6×6.4×2.7	口縁部20°+, 体部-底部45°+	口縁部-底部45°+	内面黑色処理	68

SI54 竪穴住居跡(第187図)

[位置・確認面] 3A区北半部、調査区西壁沿いで、住居の東側コーナー部のみを確認した。西側の大部分は調査区外となる。埋土中へは、わずかではあるがⅢ層の落ち込みが認められる。

[重複] SI52、SI53に切られる。

[規模・形態] 調査範囲は南北2.6m、東西2.3mで平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

[方向] 東壁を基準として、主軸はN-25°-Wを向くと推定できる。

[堆積土・構築上] 5層に分層した。1・2層は住居埋土である。床面上の堆積である2層には焼土・炭化物が含まれる。3層は周溝の埋土、4・5層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面とする。壁高は24.5cm～25.5cmが残存しており、立ち上がりは、やや外反するが垂直に近い。

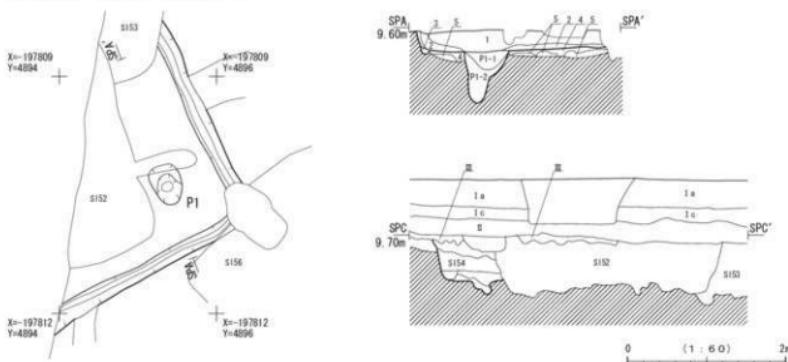
[床面] 4層上面を床面とする。検出部も、大部分がSI52の掘り方によって搅乱を受けている。

[柱穴] P1を確認した。位置関係、形状等から東側の主柱穴にあたるものと推定される。

[周溝] 検出部全体で壁際に確認できた。幅11cm～13cm、深さ3.8cm～6.5cmである。

[掘り方] 大部分が調査区外であり、また、SI52の搅乱を受けているため詳細は不明である。

[出土遺物] 掘柵した遺物はない。



第187図 SI54竪穴住居跡

SI54 埋土鉛記録

部位	層位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	10YR5/4により黒褐色ブロック混入、焼土粒・炭化物粒混入
埋土	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土・炭化物粒混入
埋土	3	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	10YR3/3 黃褐色シルトが小ブロック状に混入
掘り方	4	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR2/3 黃褐色シルトがまばらに混入、粒状炭化物が少し混入
掘り方	5	10YR4/3 にまぶし 黄褐色	砂	10YR4/4 黄褐色シルトがまばらに混入

SI54 施設埋土目記表

部 位	層 号	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 嘴褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトが小ブロック状に混入、鉄状氧化物が少し混入
	2	10YR4/3 にぶい・嘴褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトがまばらに混入、鉄状氧化物が少し混入

SI54 施設側面表

造構名	平面図	幅員(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	他円形	52×36	65	

SI55 穫穴住居跡(第188~190層)

【位置・確認面】 3A区北半部でプランを確認した。

【重複】 SI56, 57, 62を切る。

【規模・形態】 主軸を東西にとる。東西4.18m、南北4.68mで、主軸直行方向がやや大きい隅円方形を呈する。

【方向】 主軸方位は、N-90°-Eである。

【堆積土・構築土】 11層に分層した。1・2層は住居埋土にあたり、1層には少量だが焼土・炭化物が含まれております。堆積状況からも人為的な埋め戻しが行われた可能性を指摘できる。3・4層はカマドの前部で認められた焼土と炭化物の層である。5層は煙道天井の残存部で、6~9層が煙道内部の埋土にあたる。9層は周溝の埋土、10層はカマドの構築土、11層は掘り方の埋土である。

【壁面】 IV層および、SI56, SI57, SI62の埋土を壁面としており、壁高は最も状態の良い西壁で28.9cmが、大きく削平を受けている北側でも16.9cmが残存する。

【床面】 11層上面を床面とする。

【柱穴】 P1~P3を検出した。いずれも壁際に位置する。主柱穴とも考えられるが、掘り込みは浅い。

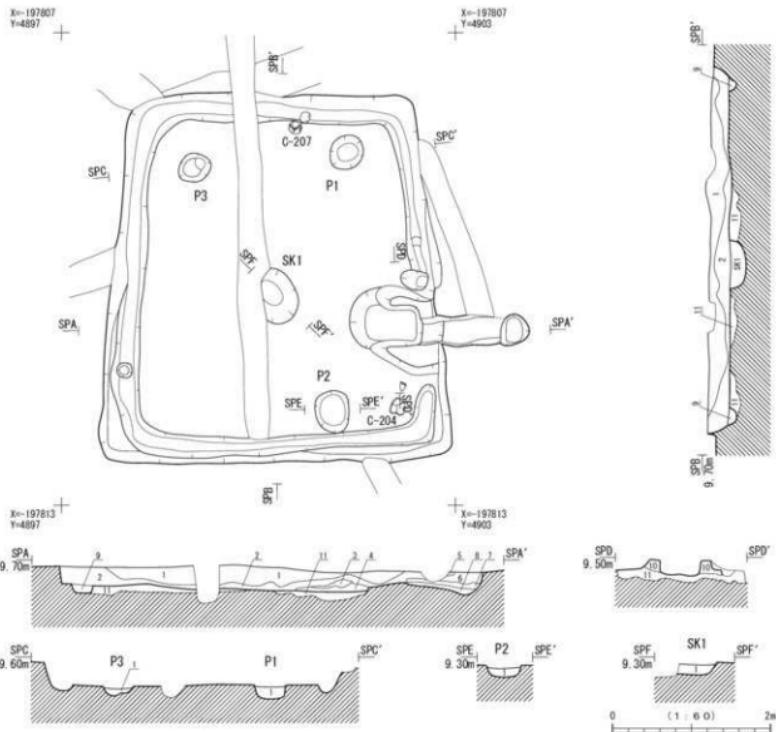
【周溝】 北側では壁際に設けられているが、南半部、特にコーナー付近ではやや住居の内側に入り、カマドの右袖からは離れている。幅は18cm~28cm、深さ8.4cm~10.2cmで、西側の底面にはピットが認められた。

【カマド・煙道】 東辺中央よりやや南側に設けられる。両袖はわずかに内湾している。外幅100cm、奥壁も竪穴の内側に入っています。奥行きは65cm、底面はわずかに窪んでいます。堆積状況から考えて、廃絶時に天井を破壊されたものとみられる。煙道は長さ108cm、幅36cmで、底面は先端へ向けて緩やかに低くなっています。深さは20cm前後です。先端部は平面規模にして37cm×36cm、深さ32.4cmのピット状に窪む。

【その他の施設】 床面中央部に炭化物を含む掘り込みであるSK1を確認した。

【掘り方】 底面は概ね平坦である。床面から掘り方底面までは非常に浅い。

【出土遺物】 土師器壺1点、塊1点、甕1点、鉢1点、須恵器壺6点、鉢1点、壺1点、鉄滓1点、紡錘車1点、石製模造品1点を掲載した。1は、体部と底部の境目に段を持つ皿形である。3は、内面黒色処理後、非常に丁寧なヘラミガキ調整が施されている。須恵器壺身の5・6・9は、底部整形が回転ヘラ切りである。10は底部回転糸切り後、外周回転ヘラケズリであり、8世紀後半期以降の底部整形技法が用いられている。11は、大型の鉢で、胎質や整形技法は須恵器であるが、口縁部外面に赤彩が施されている。12は短頸壺である。



第188図 SI55竪穴住居跡

SI55 墓土記載表

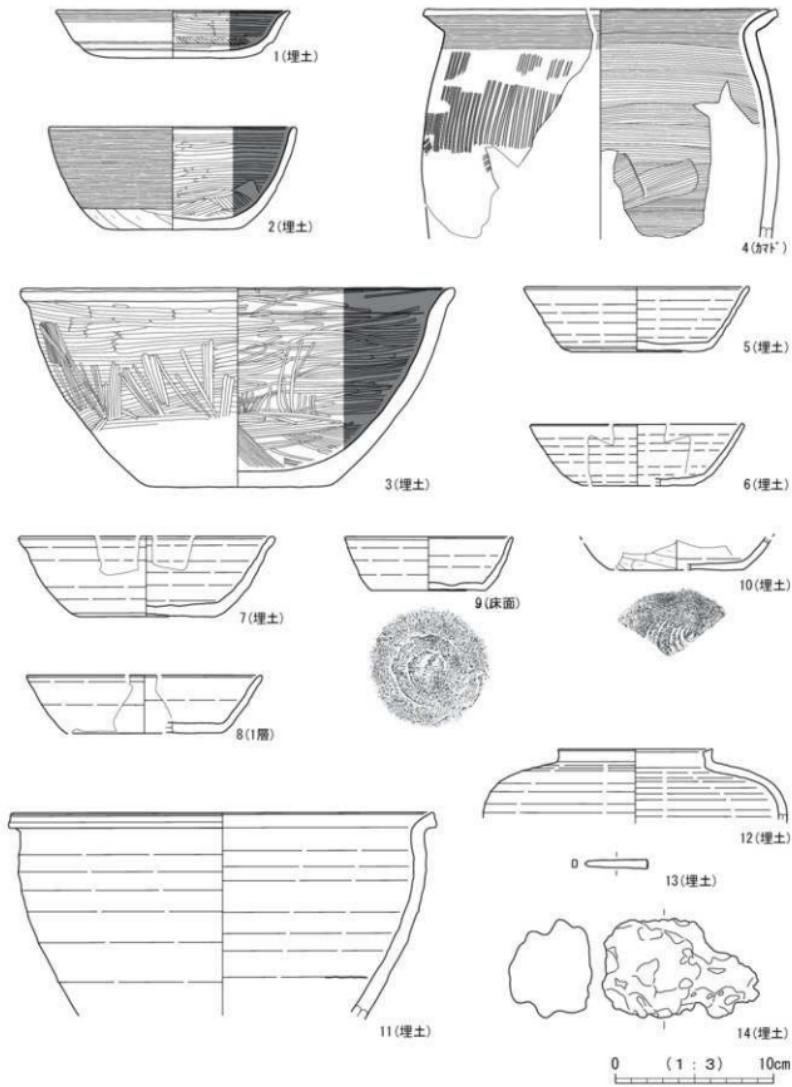
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
理 土	1	10YR3/3 嫌褐色	砂質シルト	炭化物・燒土ブロックを少量含む
	2	10YR3/3 嫌褐色	砂質シルト	φ 2cm内の焼山ブロックを少量含む。人為的理土の可能性もあり
カマド	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	φ 1cm内の焼土ブロック・炭化物を多量含む
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	φ 1cm内の焼土ブロック・炭化物を多量含む
火馬土	5	10YR3/2 嫌褐色	砂質シルト	天井残存部
	6	10YR4/4 嫌褐色	砂質シルト	φ 1cm内の焼土ブロックを量
堆積土	7	10YR4/4 嫌褐色	砂質シルト	φ 5cm内の焼土ブロックやや多い、天井底落堀面含む
	8	10YR4/4 嫌褐色	砂質土	
周溝	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	φ 2cm内の焼山ブロック・嫌褐色シルトブロックを多量含む
	10	10YR3/3 嫌褐色	砂質シルト	10YR5/4 にぶい黄褐色ブロック混、燒土灰混
掘り方	11	10YR3/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/3 嫌褐色ブロック混、ペルト西側では10YR5/3にぶい黄褐色、10YR3/2 黒褐色ブロック層になら

SI55 施設埋土記載表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 嫌褐色	砂質シルト	焼山ブロックを多量に含む
P2	1	10YR4/3 12.45-黄褐色	砂質シルト	焼山ブロックを多量に含む
P3	1	10YR3/4 嫌褐色	砂質シルト	
SK1	1	10YR3/4 嫌褐色	砂質シルト	焼山小ワッカを多量に含む、炭化物ブロックを微量含む

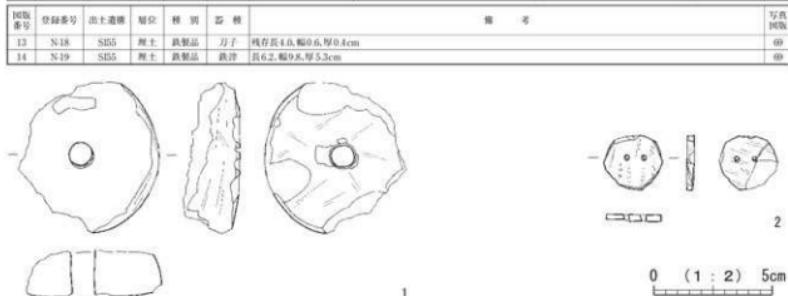
SI55 施設埋土記載表

部 位	平面図	規 模(cm)	深 底(cm)	備 考
P1	円形	46 × 41	21	
P2	椭円形	53 × 43	17.2	



第189図 SI55竪穴住居跡出土遺物(1)

回数 番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×厚さ(cm)	外観調整	内面調整	備考	写真 回数	
1	C-305	SI55	埋土	土器	土器	环	14.5 × 10.8 × 3.0	口縁部のけずり、底部へ瓦張剥離、剥落	口縁部へ瓦張りせず	内面黒色處理	68
2	C-307	SI55	埋土	土器	土器	环	(15.0) × 9.0 × 6.5	口縁部へ一部瓦張れ、底部へ瓦張り	口縁部へ瓦張りせず	内面黒色處理	68
3	C-304	SI55	埋土	土器	土器	环	(27.5) × (12.0) × 12.5	口縁部へ底部へ瓦張り、剥落	口縁部へ瓦張りせず	内面黒色處理	68
4	C-306	SI55	埋土	土器	土器	环	(22.4) × (14.8) × 10.0	口縁部のけずり、剥離	口縁部のけずり、剥離せず	内面黒色處理	68
5	E-043	SI55	埋土	土器	土器	环	(14.0) × (8.0) × 4.1	口縁部、底面剥離のけずり	口縁調整	内外面大擦痕	68
6	E-045	SI55	埋土	土器	土器	环	(13.4) × (7.2) × 3.9	口縁部、底面剥離のけずり	口縁調整	外沿大擦痕	68
7	E-046	SI55	埋土	土器	土器	环	(16.0) × (8.0) × 3.9	口縁部、底面剥離のけずり→修理	口縁調整	68	
8	E-047	SI55	埋土	土器	土器	环	(14.8) × (8.0) × 3.7	口縁部、底面剥離のけずり	口縁調整	68	
9	E-049	SI55	埋土	土器	土器	环	10.8 × 7.2 × 3.6	口縁部、底面剥離のけずり	口縁調整	底部へ削除	68
10	E-050	SI55	埋土	土器	土器	环	-(8.4) × (9.1)	口縁部、底面剥離のけずり→外周削除	口縁調整	68	
11	E-068	SI55	埋土	土器	土器	环	(26.4) × (12.8)	口縁調整	外周赤鉛	69	
12	E-044	SI55	埋土	土器	土器	环	(6.0) × -(4.9)	口縁調整	内面自然輪、剥離	69	



第190図 SI55 穫穴住居跡出土遺物(2)

回数 番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Kd-025	SI55	埋土	3A	石製品	石製品	—	6.4 × 5.8 × 2.3	54.66	凝灰岩 欠損部、最大径6.6cm、厚さ径1.1cm	69
2	Kd-024	SI55	埋面	2B	石製品	石製品	II B1	2.2 × 2.4 × 0.3	2.44	凝灰岩 穴開口部、内径、外径、穿孔径6.2cm、孔深さ0.5cm	69

SI56 穫穴住居跡(第191~192図)

[位置・確認面] 3A区北半部でカマド付近を中心確認した。

[重複] 大部分をSI51、SI55に切られる。

[規模・形態] 北西から南東方向を主軸としており、規模は主軸方向で4.68m、主軸直行方向で4.5mである。平面形は隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-46°-Wである。

[堆積土・構築土] 15層に分層した。1~5層は住居埋土で、床面上に堆積する4層には炭化物粒が混入している。6層は焼土・炭化物を多く含み、堆積状況から煙道天井部の崩落土と考えられる。7層は煙道内の埋土で、8~10層はカマド内部と焼き口付近に広がる灰と焼土の層である。12層はカマド構築土、11層は周溝内の埋土にあたり、13~15層は掘り方の埋土である。

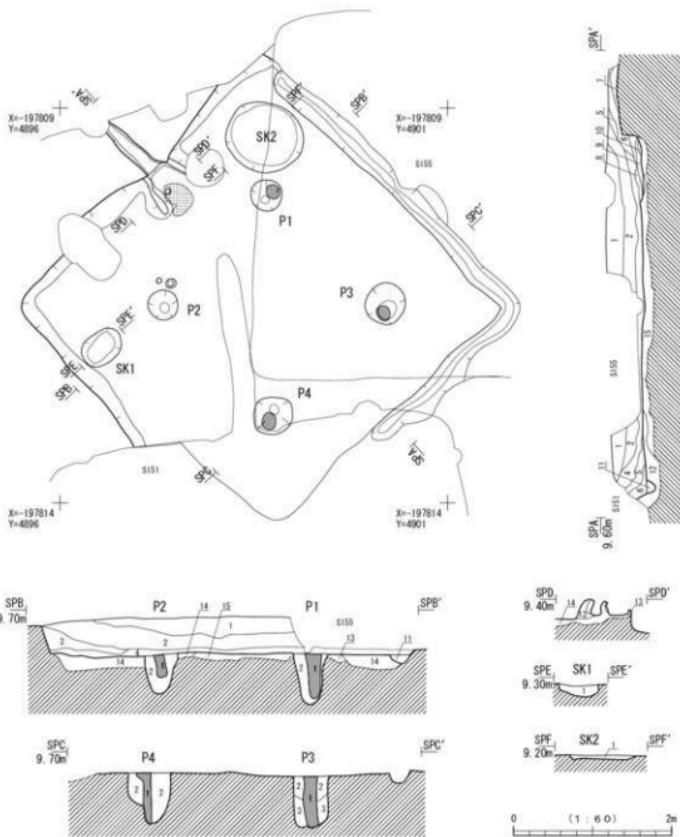
[壁面] IV層中を壁面としている。東側と南側は上面の遺構によって大きく搅乱されているが、西側と北側では33cm~45cmが残存する。残存部の立ち上がりはやや外反するが垂直に近い。

[床面] 14層上面を床面としている。

[柱穴] P1~P4を確認した。4基共に柱の痕跡が認められる。位置や形状などからも、主柱穴と考えられる。柱間は210cmで位置は住居の中央に寄っている。

[周溝] 東側から南側にかけて検出した。幅8cm~17cm、深さ10cm~15cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられる。袖は外側へわずかに開いており、右側内部には自然石を据えて支柱と



第191図 SI56竪穴住居跡

SI56埋土跡記表

部	社	層	付	土	色	土	性	備	考
埋土	1	10YR2/2	-	シルト	10YR3/4暗褐色シルトがまばらに混入。粒状炭化物が微量混入				
	2	10YR2/4	-	シルト	10YR2/4暗褐色シルトがプロック状に混入。粒状地土が微量混入				
	3	10YR4/4	-	シルト	10YR4/4暗褐色シルト				
	4	10YR3/4	-	シルト	10YR4/4まばらに混入。粒状炭化物がやや混入				
	5	10YR2/3	-	シルト	10YR4/3にまぶす黄褐色シルトが混入				
カマド・煙道	6	10YR2/4	-	シルト	灰化物。地土を小ブロックに多數混入。煙道の灰分が削落したものと考えられる				
	7	10YR4/4	-	シルト	10YR4/4暗褐色が部分的に混入				
	8	10YR2/4	-	シルト	機上ブロックが多數混入。地土ブロックの留				
カマド	9	10YR4/1	-	乾粘土	灰の層。粒状地土が微量混入				
	10	10YR4/4	-	粘性シルト	灰が少し混入				
回溝	11	10YR2/4	-	シルト	約1cm内の堆山ブロックを多量				
	12	5YR3/6	-	砂質シルト	地土基層。13層				
カマド・ゾー	13	10YR4/4	-	砂質シルト	堆積ブロック焼土・灰化物ブロックを少量				
	14	10YR4/4	-	砂質土	灰白色地山ブロックを多量含む				
	15	10YR5/4	にぶい	黄褐色	細粒シルト	細粒砂質土ブロックを多く含む			

SI56 施設埋土記録

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 咸褐色	シルト	
	2	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	灰青褐色シルトブロックを多量に含む
P2	1	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	灰青褐色シルトブロックを多量に含む
	2	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	灰青褐色シルトブロックを多量に含む
P3	1	10YR3/4 咸褐色	シルト	
	2	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	砂質シルト
P4	3	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	灰青褐色シルトブロックを多量に含む
	1	10YR3/4 咸褐色	シルト	
	2	10YR4/4 浅褐色	砂質シルト	灰青褐色シルトブロックを多量に含む
SK1	1	10YR2/-3 黑褐色	粘土シルト	灰青褐色シルトブロックを多量に含む
SK2	1	10YR5/4 にじみ黒褐色	砂質シルト	地山ブロックを多く含む

SI56 施設埋土剖面

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形 直径×高さ 44×40 柱直径18×18		58		P4	円形 柱直径22×19	52×50 44		
P2	円形 柱直径18×15	48×38	37		SK1	楕円形 柱直径24×16	54×40 36		
P3	円形 柱直径21×18	53×49	59		SK2	円形 柱直径21×18	95×89 33		



第192図 SI56 穴穴住居跡出土遺物

国版 番号	登録番号	出土遺物	層位	種 别	器 様	口徑×底径×高さ(cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考	写真 回数
1	E-651	SI56	埋土	須恵器	环	×9.8×(3.4)	DP0調整、底部手付9.8×9.8×3.4	DP0調整		00

している。右側袖部が失われており全体の把握は難しいが、外幅90cm、奥行き78cmと推定される。煙道も先端部が失われているが、長さ77cmが残存し、幅は29cm、深さ9cm～17cmである。

【その他の施設】 SK I・2を確認した。SK Iは西壁沿いでP1、P2の延長線上に位置する楕円形の掘り込みで、SK 2はカマド右側の壁沿いで検出された浅い落ち込みである。

【掘り方】 底面はほぼ平坦だが、カマドの周囲を残して縁辺部がやや低くなっている。

【出土遺物】 須恵器環1点を掲載した。底部前面に手持ちヘラ削り調整が施される。

SI57 穴穴住居跡(第193～194図)

【位置・確認面】 3A区北半部で確認した。

【重複】 SI51、SI55に切られる。

【規模・形態】 北西から南東に主軸をとり、規模は、主軸方向4m、主軸直行方向で4.2mと正方形に近く、平面形は隅円方形を呈する。

【方向】 主軸方位はN-32°Wである。

【堆積土・構築土】 9層に分層した。1層は住居埋土、2層は周溝内の埋土である。堆積状況から、人為的な埋め戻しが行われた可能性も指摘できる。3・4層はカマド内の灰と焼土の層で、3層からは骨片も検出された。5層は貼床の層とも考えられる。6・7層はカマドの構築土、8・9層は掘り方の埋土で8層の床面付近はグライ化を起こしている。

【壁面】 IV層中を壁面としており、壁高は東側と南側で20cm～21.5cm、北側と西側で14cm程度が残存しており、床面付近の立ち上がりは緩やかに広がる形を呈する。

【床面】 グライ化した8層上面、あるいは地山ブロックで構成される5層を床面とする。床面上には柱穴が認められなかった。

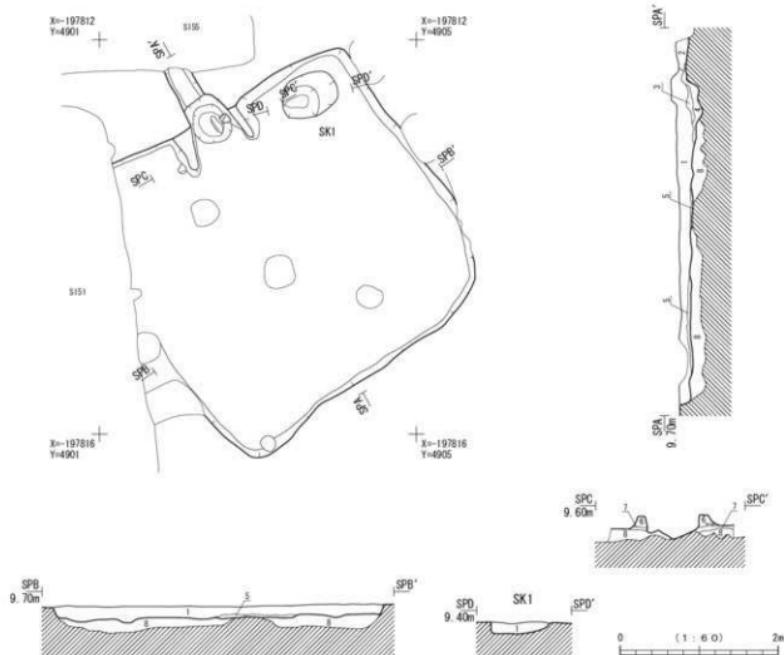
【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられる。袖は北壁に対しほば直行してする。外幅は110cm、奥行75cmで、底

面は6cmから7cm程度窪んでおり、中央部に自然石を据えて支柱としている。煙道は先端部がSI 55によって破壊されているが、長さ53cmが残存する。煙道の幅は32cm、深さ12.6cmである。

【その他の施設】カマドの右側、北東部コーナー付近で浅い掘り込みであるSK 1を確認した。

【掘り方】西側から東側に向かって舌状に掘り残して周辺部を掘込んでいる。底面の落差は7cm前後である。

【出土遺物】土師器坏器3点、ミニチュア土器1点、甕2点、ロクロ土師器蓋1点、須恵器甕1点を掲載した。1は須恵器蓋模倣と考えられる。2は体部と底部の境目に段を持つ。7は口径が大きく、盤などの蓋と考えられる。



第193図 SI57堅穴住居跡

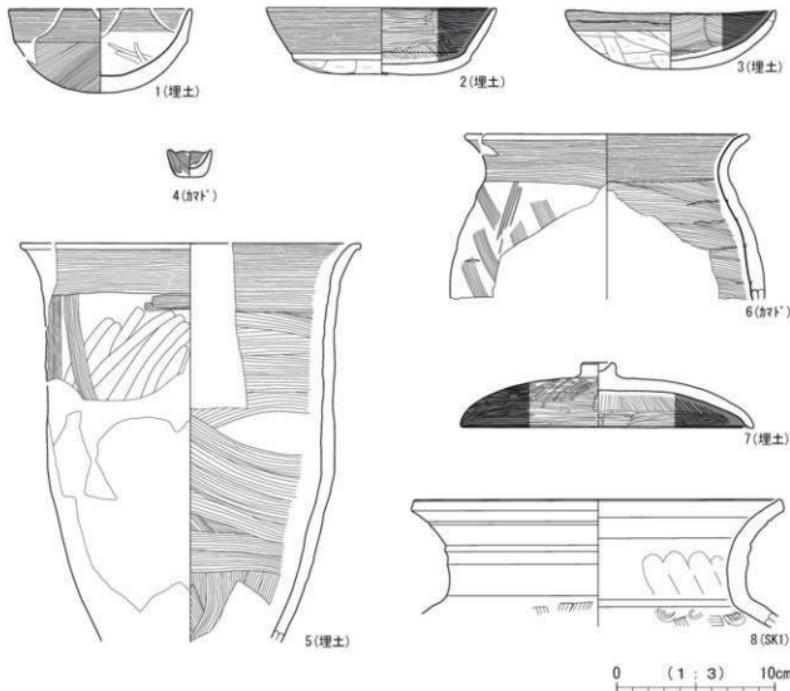
SI57 墓土目記表

部	状	様	土	色	土	性	備	考
灰土	1	10YR2/4	暗褐色		砂質シルト		地山微少ブロックを全体に少含む、自然か人為か判別できず	
カマド・煙道	2	10YR1/2	灰黄褐色		砂質シルト		φ2cm内の地土ブロックをやや多く含む	
	3	10YR1/2	にぶい黄褐色		シルト		φ1cm程の地土ブロックを含む、K-巻片を含む	
カマド	4	10YR2/1	黒褐色		シルト		φ1cm程の地土ブロックを含む	
粘土床	5	10YR4/4	褐色		シルト		地山ブロックを多量	
	6	10YR3/4	暗褐色		シルト		炭化物・地土粒を少量含む	
カマド・フサ	7	10YR2/3	黒褐色		シルト		炭化物を多含む	
掘り方	8	10YR4/1	褐灰色		シルト		地山ブロックを多く含む、床面層グライ化して(下位層と同一と見られるが床層の為)	
	9	10YR2/3	暗褐色		シルト		地山ブロックを多量含む	

SI57 施設埋土目記表

部	状	様	土	色	土	性	備	考
SK1	1	10YR3/4	暗褐色		シルト		φ5cm内の地山ブロック・炭化物・地土ブロックを少量含む、人為灰土	

SI57 施設類器物		
遺物名	平面図	規格(cm)



第194図 SI57竪穴住居跡出土遺物

回収 番号	登録番号	出土遺物	部位	種 别	器 様	口徑 × 底径 × 厚さ(cm)	外 形 構 造	内 面 構 造	備 考	写真 回数
1	C-209	SI57	埋 土	土加器	环	(11.4) × - × 5.3	口縁部凹付、底部一級膨らみ	1級膨らみ付、底部一級膨らみ付、黒色		⑨
2	C-211	SI57	埋 土	土加器	环	(11.4) × - × 4.2	1級膨らみ付、底部凹付	1級膨らみ付、底部凹付	内面黒色処理	⑨
3	C-215	SI57	埋 土	土加器	环	13.2 × - × 1.6	1級膨らみ付、底部一級膨らみ付	1級膨らみ付、底部一級膨らみ付	内面黒色処理	⑨
4	C-212	SI57	埋 土	土加器	环	2.6 × 1.3 × 1.7	1級膨らみ付	1級膨らみ付		⑨
5	C-213	SI57	埋 土	土加器	束	(21.6) × - × 65.7	1級膨らみ付、側面八分付	1級膨らみ付、側面八分付		⑨
6	C-214	SI57	埋 土	土加器	束	(17.8) × - × (10.4)	1級膨らみ付、側面八分付	1級膨らみ付、側面八分付		⑨
7	C-216	SI57	埋 土	土加器	束	18.4 × - × 4.1	天井部一級膨らみ付、側面八分付	天井部一級膨らみ付	内外面黒色処理	⑨
8	E-002	SI57	SK1	崩壊部	束	(22.8) × - × (6.0)	口加厚部、崩壊部分付	口加厚部、崩壊部分付	内外面自然釉、背面流水支	⑨

SI58 壁穴住居跡(第195~197図)

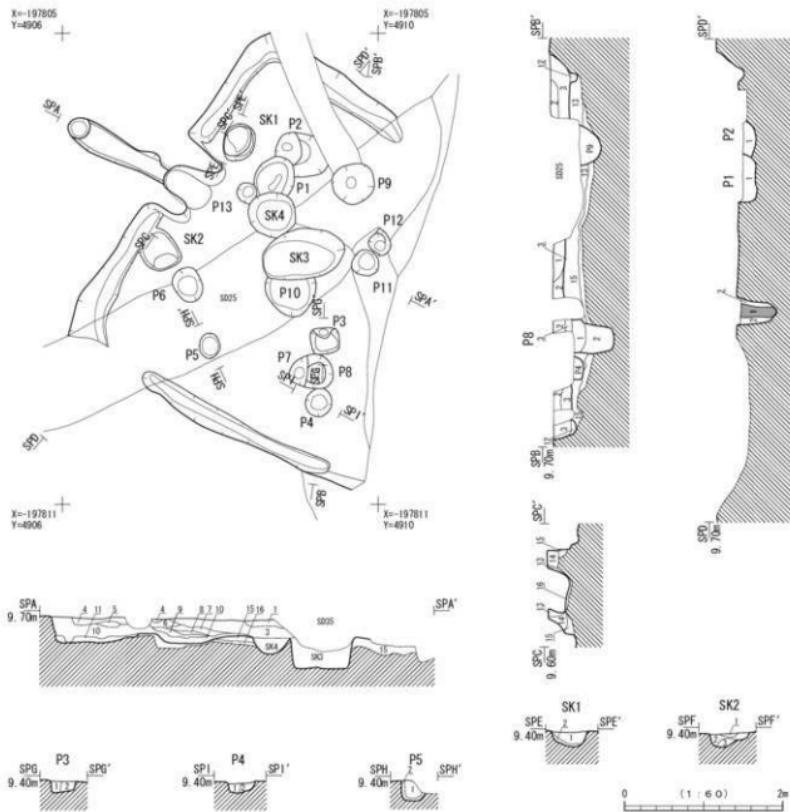
[位置・確認面] 3A区北半部、東側の搅乱沿いで住居の西半分を確認した。

[重複] SI59を切り。中央部をSD25によって切られる。

[規模・形態] 主軸を北西から南東にとる。南東部が失われた主軸方向は2.9mが残存し、主軸直行方向は4.6である。平面形は偏円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-62°Wである。

[堆積土・構築土] 16層に分層した。1~3層は住居埋土で、床面上の2層と3層には炭化物が混入している。4層は下面に被熱の痕跡を有しており、煙道の天井部分と考えられ、5層もこれに関連するものと推定できる。6~9層はカマド内および焚き口前面の灰や炭化物の層である。10~11層は煙道内部の埋土であり、12層は周溝内の埋土、13~14層はカマドの構築土にあたる。15~16層は掘り方の埋土である。



第195図 SI58壁穴住居跡

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は23cm～26cmが残存する。立ち上がりは緩やかに外反している。

[床面] 15層上部を床面とするものと考えられるが、SD 25による搅乱や、多数検出されたピット、土坑などにより、詳細な状況は不明である。

[柱穴] P1～P13を確認した。床面上から掘り込まれていることが明らかなるものは、この内、P1～P6である。形状、位置関係から、P2、P6が主柱穴となる可能性がある。

[周溝] 基本的には検出された壁際を巡っているが、西壁の一部で途切れている可能性も指摘できる。幅は14cm～20cm、深さ10cm～11cmである。

[カマド・煙道] 西辺中央部に設けられる。袖は壁に対して直行している。外幅は94cm、奥行62cmで、底面は住居床面から10cm前後窪んでいる。煙道には天井部が残り、長さは88cmで、幅は25cm、深さは31cmを計る。煙道先端部はピット状に窪む。

S158 墓土記表

層	位	土色	土性	備考
埋土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR4/3に似る黄褐色シルトが多めに混入
	2	10YR3/3 明褐色	シルト	炭化物が軽度に混入、10YR4/3に似る黄褐色がやや混入
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・硬土が軽度に混入
カマド・煙道	4	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR4/3に似る黄褐色シルトが混入、焼成の火痕がそのまま残ったものと考えられる。下部は焼け土が断続的に見られる
	5	10YR4/3 に似る黄褐色	シルト	10YR4/4黄褐色シルトがやや混入、炭化物が軽度に混入
	6	10YR3/4 明褐色	シルト	焼土がプロック状に混入、10YR4/3に似る黄褐色がやや混入
窯場	7	10YR3/2 黑褐色	シルト	焼土がプロック状に混入、炭化物・灰が混入、焼土・炭化物・灰の層
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土プロック(焼成)が多め混入、灰・炭化物が混入、特に焼土プロックが多く見られる層
	9	10YR3/2 黑褐色	シルト	地土・炭化物・灰の層
カマド・煙道	10	10YR3/3 明褐色	シルト	炭化物が軽度に混入、堆積区分では下部に多くの焼土が見られる
	11	10YR4/4 黄褐色	シルト	炭化物がプロック状に混入
	12	10YR3/4 明褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入
窯場	13	10YR3/3 明褐色	シルト	焼土プロックが多く混入
	14	10YR4/3 に似る黄褐色	シルト	約1m内の焼土・炭化物・プロックを少量
	15	10YR4/4 黄褐色	シルト	地山プロックと少量化し、ライ士を層間ににはさむ
掘り方	16	10YR3/4 明褐色	シルト	炭化物・焼土・プロックを少量

S159 独立土封記表

層	位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 明褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入
	2	10YR3/4 明褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入、10YR4/3明褐色がやや混入
P2	1	10YR3/3 明褐色	シルト	10YR4/4明褐色の軟岩に混入、柱跡
	2	10YR3/4 明褐色	シルト	10YR4/4明褐色の軟岩に混入、柱状炭化物が少し混入
P3	1	10YR3/3 明褐色	シルト	炭化物・焼土が軟岩にやや混入、柱跡
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR4/4明褐色の軟岩に混入、柱状炭化物が少し混入
P4	1	10YR3/3 明褐色	シルト	炭化物・焼土が軟岩にやや混入、柱跡
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	10YR4/4明褐色の軟岩に混入、柱跡
P5	1	10YR3/3 明褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
	2	10YR3/4 明褐色	シルト	10YR4/4明褐色の軟岩に混入
P6	1	10YR3/4 明褐色	シルト	焼土・炭化物が軟岩に混入、住居の主柱穴跡
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	炭化物・焼土が軟岩に混入
P7	-	-	-	-
P8	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	地山プロックを微量含む
	2	10YR3/4 に似る黄褐色	シルト	-
P9	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	下平に地山プロックを少量含む
P10	1	10YR3/4 明褐色	シルト	地山が地山・プロック状に混入、劣化あり
P11	1	10YR3/4 明褐色	シルト	地山が地山・プロック状に混入、辺縁のみ
P12	1	10YR3/3 明褐色	シルト	地山が少し混入、辺縁のみ
P13	1	10YR3/4 明褐色	シルト	焼土のプロックが軟岩に混入、粒状炭化物が混入、辺縁のみ
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物・焼土・地山の層、カマド内の纏繊物と考えられる
	2	10YR3/3 明褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入
SK2	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	焼土・炭化物がやや混入する
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	焼土・柱跡が軟岩に混入、炭化物がやや混入・サカマド内の纏繊物多数
SK3	1	10YR4/3 に似る黄褐色	シルト	約1m内の焼土・炭化物・プロックを多く含む
	2	-	-	-

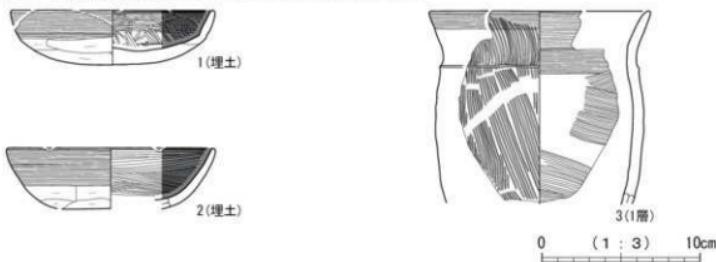
S160 地説細部表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備考
P1	扇円形	60×48	26	-	P8	扇円形	44×34	62	-
P2	不整形	70×54	47	-	P9	円形	54×52	16	-
P3	方形	44×34	15	18	P10	円形	60×46	18	-
P4	円形	30×30	17	14	P11	円形	34×32	10	-
P5	円形	30×28	26	-	P12	不整形	32×28	21	-
P6	扇円形	44×36	47	-	P13	円形	24×24	13	-
P7	不整形	34×22	17	-	SK1	扇円形	48×40	20	-
					SK2	扇円形	50×40	19	-
					SK3	扇円形	130×62	28	-
					SK4	円形	60×56	25	-

【その他の施設】 SK 1 ~ SK 4 を確認した。SK 1 と SK 2 は、それぞれカマドの左右、壁沿いに位置し、特に SK 2 にはカマドの灰や炭化物の残渣が認められた。SK 3・SK 4 は上部を SD 25 によって擾乱されており、帰属は不明である。SK 3 には焼土・炭化物が多く含まれる。

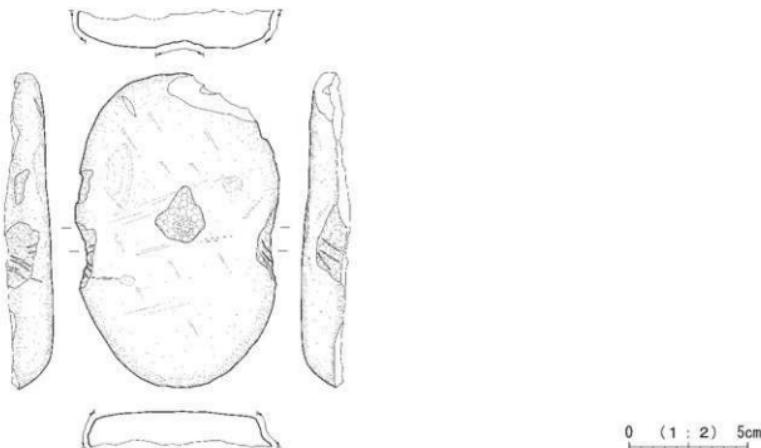
【掘り方】 底面は南側がやや低くなっているが、詳細は不明。落差は 6 cm 前後である。P7、P8、P11、P12 は掘り方底面からの検出である。

【出土遺物】 土師器杯 2 点、甕 1 点、石錘 1 点を掲載した。1 は体部と底部の境目に棱を有し、やや外傾して口唇部に至る。2 は平底状の底部から緩やかに外傾して口唇部に至る。



第196図 SI58堅穴住居跡出土遺物(1)

国版 番号	登録番号	出土遺物	形状	種別	基盤	1口径×底径×高さ(cm)	外面調整	内面調整	備考	写真 回数
1	C-218	SI58	埋土	土師器	甕	(12.8) × × 3.4	1)縁部2カ所、体部～底部へカズラ	1)縁部2カ所、体部～底部へカズラ	内面黒色處理	70
2	C-219	SI58	埋土	土師器	甕	(13.0) × × 0.9	1)縁部～体部3カ所、底部へカズラ	1)縁部～底部へカズラ	内面黒色處理	70
3	C-217	SI58	1層	土師器	甕	(13.7) × × (12.2)	1)縁部2カ所→2カ所、底部へカズラ	1)縁部2カ所→2カ所、底部へカズラ		



第197図 SI58堅穴住居跡出土遺物(2)

国版 番号	登録番号	出土地点	層位	地区	種別	器種	分類	長さ×幅×厚さ (cm)	重量(g)	石材	備考	写真 回数
1	Kd-026	SI58	埋土	3A	石製品	石錘	—	13.3 × 8.2 × 1.7	126.93	瑪瑙石	欠損品、棒円錐、円一頭(单)溝さ(左)、最(頭)箇所(程度)、短軸に二次加工あり	70

SI59 穹穴住居跡(第198~199図)

[位置・確認面] 3A区北半部、東側の擾乱沿いで確認した。

[重複] SI58に切られる。

[規模・形態] 南北に主軸をとり、一辺が3.5mの隅円正方形を呈する。

[方向] カマドの主軸方位はN-17°-Wを指す。

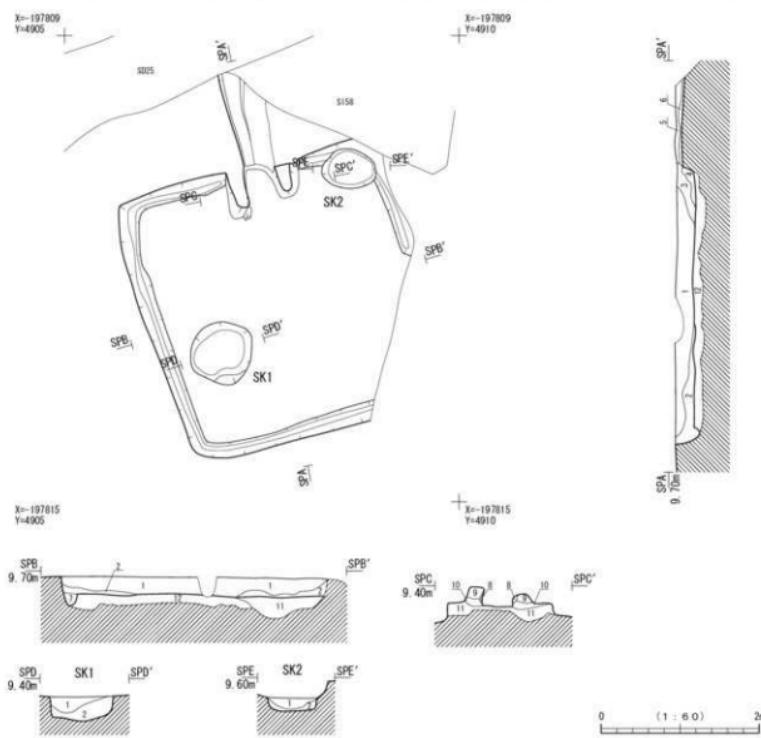
[堆積土・構築土] 12層に分層した。住居土壌にあたる1~5層の堆積状況から、人為的な埋め戻しが行われた可能性が強い。5・6層はカマド煙道内の埋土だが、6層については天井部分の崩落土と考えられる。7層は周溝内の埋土で、8~10層はカマドの構築土、11・12層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は21.2cm~23cmが残存する。床面付近の立ち上がりは垂直に近い。

[床面] 11・12層上面を床面とする。床面上に柱穴は認められなかった。

[周溝] カマドを除く、残存部の壁際を全周している。幅10cm~18cm、深さ8cm~13cmである。

[カマド・煙道] 北辺中央部に設けられており、両袖は北壁に対して直行している。外幅90cm、奥行50cmで、底面と住居床面に高低差は無い。煙道は先端部がSD 25に東側が小溝による擾乱を受けており、長さ140cm、幅



第198図 SI59 穹穴住居跡

21.2cmが残存する。底面は水平になるものとみられ、深さは8cm程度である。

【その他の施設】 SK 1は西壁沿いで検出された円形の掘り込みで、SK 2は北東コーナー部で周溝を切る形で検出されたSK 1同様の掘り込みである。

【掘り方】 西側の底面がやや低くなっている他、東側にもピット状の落ち込みが存在する。

【出土遺物】 土師器壺1点を掲載した。口唇部が緩やかに外傾する長胴壺である。

S159 墓土記録表

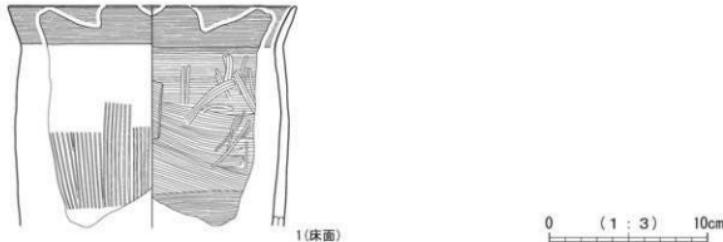
序 号	層 号	土 种	土 性	備 考
埋 土	1	10YR3/-3 黒褐色	砂質シルト	6.5cm内のブロックによる混合層、人為埋土の可能性強い。
	2	10YR4/-4 黒褐色	砂質シルト	地山ブロックを間に含む、人為埋土の可能性強い。
	3	10YR2/-3 黒褐色	砂質シルト	6.2cm内の地山ブロックを多量含む、人為埋土の可能性強い。
	4	10YR2/-3 黒褐色	シルト	地山小ブロック、貝化石を少量含む、人為埋土の可能性強い。
カマド・煙道	5	10YR2/-3 黒褐色	シルト	地山ブロックを多量含む
	6	10YR2/-3 黒褐色	シルト	天井構造土+ブロック一部崩壊にはさむ
烟道	7	10YR2/-3 黒褐色	シルト	地山ブロックを多量含む
	8	7.5YR4/-6 褐色	砂質シルト	地山の層
カマド・ツバ	9	10YR4/-4 褐色	砂質シルト	10YR2/-3黒褐色シルトが小ブロック状に混入
	10	10YR2/-3 黑褐色	シルト	10YR2/-3黒褐色シルトが小ブロック状に混入
掘り方	11	10YR2/-4 黑褐色	シルト	地山ブロックを多量含む
	12	10YR4/-4 褐色	砂質シルト	10YR4/-3にい黄褐色砂質シルトを少し含む

S159 残管埋土記録表

序 号	層 号	土 种	土 性	備 考
SK1	1	10YR2/-3 黑褐色	シルト	6.5cm内の地山ブロックを多量に含む
	2	10YR2/-3 黑褐色	シルト	6.5cm内の地山ブロックを多量に含む人為的に埋められたもの
SK2	1	10YR2/-4 黑褐色	シルト	地山ブロックを多量に含む
	2	10YR4/-4 褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量に埋められた

S159 地質観察表

遺物名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考	遺物名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
SK1	円形	80 × 80	33		SK2	椭円形	68 × 50	11	



第199図 S159竪穴住居跡出土遺物

回数	登録番号	出土遺物	層 号	種 别	器 形	器 種	1日目×成形径×器高(cm)	外 四 調 整	内 四 調 整	備 考	写真 枚数
1	C-223	SE9	床面	土師器	壺	壺	(38.2) × (14.0) × (11.0)	11縦2横2アガフ、脚部2アガフ	11縦2横2アガフ、脚部2アガフ		20

SI60 穹穴住居跡(第200~202図)

[位置・確認面] 3A区北半部で確認された。

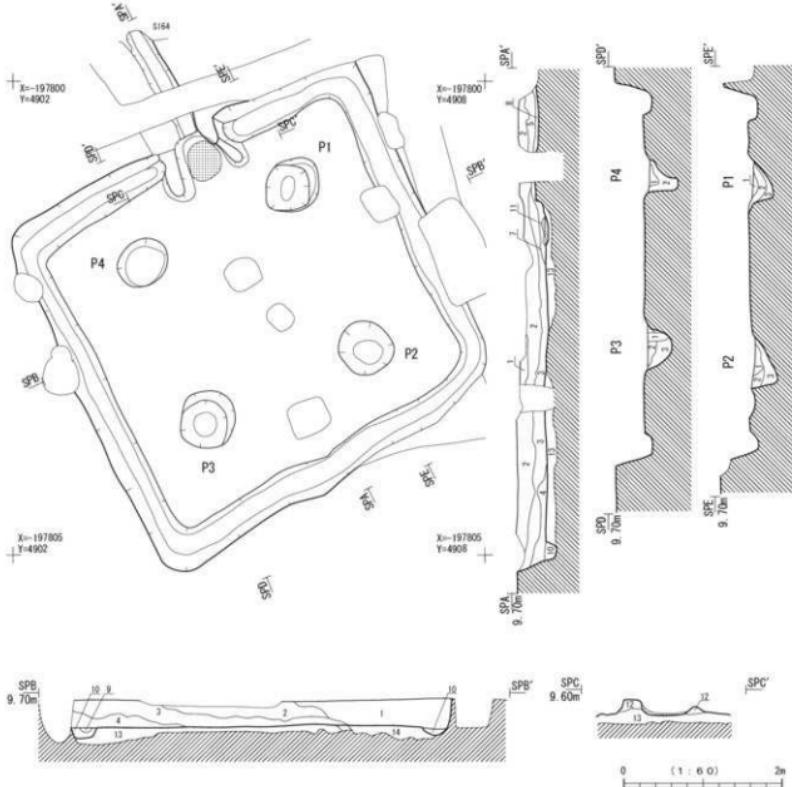
[重複] SI68を切る。

[規模・形態] 主軸を概ね南北にとり、一辺が4.3mの隅円正方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-30°Wである。

[堆積土・構築土] 14層に分層した。1~4層は住居埋土である。壁際に認められる4層には炭化物が混入しており、2層の堆積は煙道内部にまで至っている。全体に地山をブロック状に含んでおり、人為的な埋め戻しが行われた可能性が強い。5~8層はカマド内および煙道の埋土、あるいは崩落土である。9・10層は周溝内の埋土にあたり、9層は壁材の痕跡とも考えられる。11層はカマド底面の被熱部位で、12層はカマドの構築土、13・14層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中およびSI68の埋土を壁面としており、壁高は32.5cm~37.5cmが残存する。立ち上がりは垂直に



第200図 SI60穹穴住居跡

近い。

〔床面〕 13層上面を床面とする。

〔柱穴〕 P1～P4を確認した。形状および位置関係から主柱穴と考えられる。周溝からほど90cm内側に位置し、柱間は210cmである。

〔周溝〕 カマド部分を除き、壁際を全周している。幅は比較的大きく25cm～30cmで、深さは12.6cm～15.6cmである。

〔カマド・煙道〕 北辺中央部に設けられており、袖はハの字状に開く形を呈する。外幅113cm、奥行き63cmで底面が僅かに窪んでいる。煙道は先端部をSI 64によって破壊され、西側も搅乱を受けているが、長さ150cm、幅30cmが残存する。底面は水平で、深さ23.9cmを計る。

〔掘り方〕 底面は概ね平坦ではあるが、北東コーナー付近を残して縁部が低くなっている。落差は最大でも8cm前後である。

〔出土遺物〕 須恵器壺1点、土鉢1点、砥石1点を掲載した。1は肩部の沈線間に波状文を施した長頸瓶であろう。

S160 建物記表

部 位	規 格	土 色	土 性	備 考
埋 土	1 10YR2/4 暗褐色	シルト	少3m内の地山ブロックを多量含む、黒褐色シルトブロックを少量含む	
	2 10YR2/3 黄褐色	シルト	少3m内の地山ブロックを多量含む	
	3 10YR4/2 にぶい 黄褐色	シルト	少3m内の地山ブロックを多量含む	
	4 10YR4/4 褐色	砂質シルト	灰化物粒を少量含む	
カマド	5 10YR4/3 にぶい 黄褐色	砂質シルト	灰化物粒を少量含む	
	6 7.5YR2/4 暗褐色	砂質シルト	少3m内の地山ブロックを多量含む	
	7 10YR2/3 黄褐色	シルト	灰化物粒を多量に含む	
	8 10YR2/3 黄褐色	シルト	灰化物粒を多量に含む	
周溝	9 10YR4/4 褐色	砂質シルト	少3m内の地山ブロックを多量含む	
	10 10YR4/4 褐色	砂質シルト	少3m内の地山ブロックを多量含む	
	11 2.5YR2/4 暗褐色	砂質シルト	灰化物粒を含む	
	12 10YR4/2 黄褐色	シルト	10YR5/4縫隙に混入、焼土粒・灰化物粒を混入	
掘り方	13 10YR4/3 にぶい 黄褐色	砂質シルト	ベント土壁で構成の間に土をまきあげているため、10YR2/3 黄褐色がブロック状に混入している	
	14 10YR2/3 黑褐色			

S160 施設埋土記表

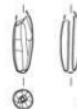
部 位	規 格	土 色	土 性	備 考
P1	1 10YR2/4 暗褐色	シルト	灰化物粒を微量	
	2 10YR2/3 黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量含む	
	3 10YR4/2 にぶい 黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量含む	
P2	1 10YR4/3 にぶい 黄褐色	粘性シルト		
	2 10YR4/2 黄褐色	砂質土	にぶい 黄褐色砂質土ブロックを少量含む	
	3 10YR4/4 褐色	砂質シルト	にぶい 黄褐色砂質シルトブロックを含む	
P3	1 10YR2/3 黄褐色	砂質シルト	にぶい 黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	
	2 10YR2/3 黄褐色	砂質シルト	にぶい 黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	
	3 10YR4/2 にぶい 黄褐色	砂質シルト	にぶい 黄褐色砂質シルトブロックを少量含む	※P1は全て埋土はゆるやかで浅いもの
P4	1 10YR4/4 褐色	シルト	灰白色シルトブロックを含む	抜き取りのある可能性
	2 10YR4/3 にぶい 黄褐色	砂質シルト		

S160 施設埋土記表

遺物名	平面圖	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	方形	68×67	30.9	
P2	方形	68×67	31.7	



1 (2層)



2 (2層)

0 (1 : 3) 10cm

第201図 S160 穴式住居跡出土遺物(1)

国版 番号	登録番号	出土遺物	層位	種 别	性 別	目 次	口徑×底径×高さ(cm)	外 壁 調 整	内 壁 調 整	備 考	写 真 回数
1	E-053	S160	2層	須恵器	壺	- × - (4.3)	□□調整、側部輪郭を波状文	□□調整			70
2	F-35	S160	2層	土製品	土鉢	0.61×径12×孔高0.3	5.5	ナメ、赤彩			70



第202図 S160竪穴住居跡出土遺物2)

図版 番号	登録番号	出土地点	層位	施 設	器 種	分類	長さ×幅×厚さ (mm)	重 量(g)	石 材	備 考	写真 回数
1	Kd-027	S160	地土	3A	石製品	砥石	8B2 3.8×4.7×2.6	75.77	礫砂岩	完形品、表面取り、柱状、無孔、溝状面あり、自然面あり	20

S161 竪穴住居跡(第203～204図)

【位置・確認面】 3A区北端付近、東側の搅乱沿いで住居の西側半分を確認した。

【規模・形態】 規模は、主軸方向が6mで、主軸直行方向は4.4mが残存する。平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

【方向】 カマドは、ほぼ真北N-8°-Wを向く。

【堆積土・構築土】 14層に分層した。1～3層は住居埋土である。層中には、焼土・炭化物粒が含まれており、堆積状況からも、人為的な埋め戻しが行われた可能性が高い。4～7層はカマド内および煙道内の埋土で、下面に被熱の痕跡を有する4層はカマド天井部の崩落土と考えられる。8層は周溝内の埋土で、9層はカマド底面の被熱部位である。10～11層はカマドの構築土で、13・14層は掘り方の埋め土である。

【壁面】 IV層中を壁面としており、壁高は北壁側で24.4cm、西壁と南壁では34.8～36.7cmが残存する。立ち上がりは床面付近から外反している。

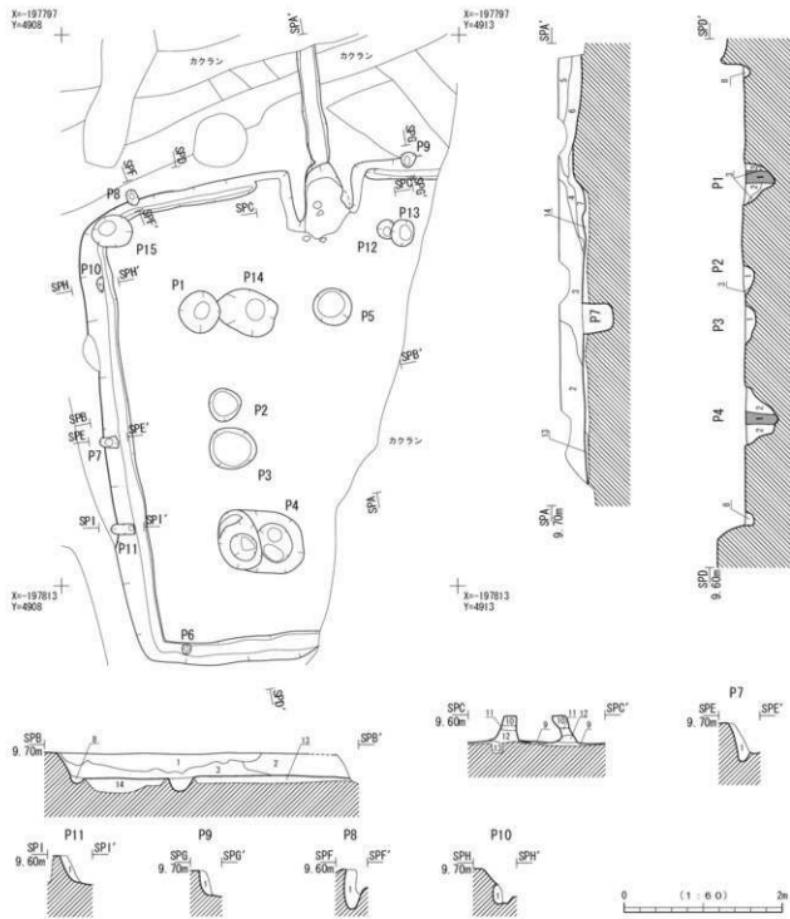
【床面】 13層上面を床面とする。

【柱穴】 P1～P15を確認した。P1、P14、P4が住居西側の主柱穴にあたるものと考えられる。P4は東西2つの柱穴が切り合っており、P14とP4東側、P1とP4西側をそれぞれ新旧の柱穴とする形で建て替えが行われている可能性もある。南北の柱間は約3mである。P1、P4には柱の痕跡も認められる。P6～P11は周溝の壁際底面から検出されており、壁柱穴と考えられる。P2、P3、P5からは焼土・炭化物が検出された。

【周溝】 カマドの左袖からやや離れている他は、残存部の壁際を通して確認された。底面に柱穴を有する。幅は10cm～25cmで、深さは西側で浅く5.6cm、南北では9.1cm～16.2cmである。

【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられており、袖は北壁に対して直行する。外幅100cm、奥行き73cmで底面がわずかに窪んでいる。煙道は先端部が搅乱によって失われており、長さ157cmが残存する。幅は26cmで、底面は先端部へ向けてやや低くなるものとみられ、深さは概ね16.2cmである。

【掘り方】 東半分が失われているが、底面は東西の縁辺部が10cm程度低くなるものと考えられる。P4付近の床



第203図 SI61整穴住居跡

面下からはピット状の掘り込みも検出された。

〔出土遺物〕 土師器坏2点、鉢5点、須恵器坏1点、壺1点、土製品は紡錘車1点、支脚1点、鉄製品は刀子1点、棒状鉄製品1点を掲載した。1は、体部と底部の境目に棱を持ち、外傾し、口唇部先端で僅かに内傾する。3の小型の鉢は、台状の底部を持ち、7は無頸壺とも考えられるが、内面黒色処理とヘラミガキ調整である事から、これも小型の鉢とした。8は、底部回転糸切り後未調整で、器形からも8世紀中頃まで下がる。9は長頸壺の下半部と思われる。

S61 署土註記表

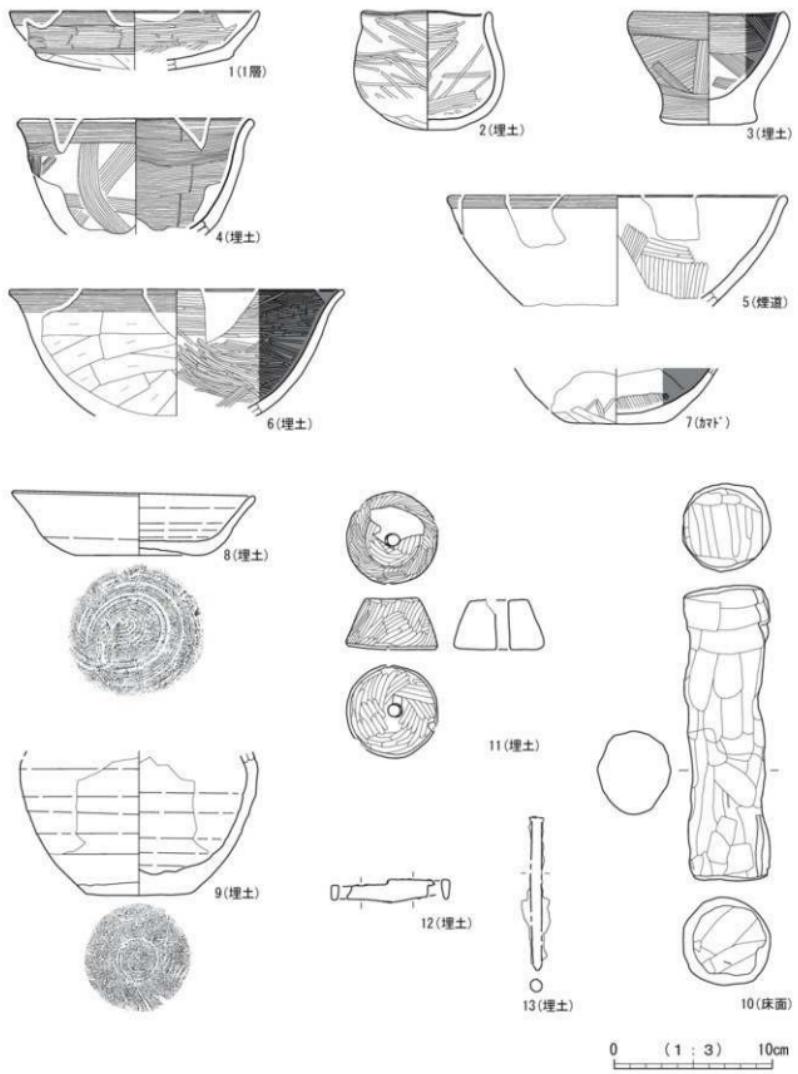
部 位	解 释	毛 の 性	毛 の 性	備 考
埋土	1 10YR2 / 3 黄褐色	シルト	粒状の塊-炭化物が混入、層の下部に炭化物の崩壊が見られる、人为的に埋めた層であると考えられる	
	2 10YR2 / 4 嫩褐色	シルト	10YR2 / 3 リットルが多めに混入しているところと、少なめに混入しているところがはっきりとはしないが層状に見られる	
	3 10YR3 / 3 黄褐色	シルト	炭化物炭酸化物が少く混入	
カマド	4 10YR4 / 3 に、10YR6 / 3 黄褐色	シルト	10YR4 / 3 リットルや中粗混入、層の下部に堆土が層状にある、カマドの天井部分の崩落土と考えることができる	
	5 10YR3 / 3 黄褐色	シルト	地盤上にリットルを撒き、煙道の天井土の上に土砂が混入したものと考えられる	
	6 10YR4 / 3 に、10YR6 / 3 黄褐色	シルト	煙道がスリットで2本に分かれていることより、煙道の崩壊が火薬飛耗によったと考えることができる	
	7 10YR2 / 1 黑色	筋性シルト	地盤上にリットルや炭化物の層-火薬飛耗による崩壊層と考えられる	
	8 10YR2 / 3 黄褐色	シルト	10YR4 / 4 リットルや混入	
	9 5YR3 / 3 嫩褐色	壤土層	2.5YR4 / 6 壤土層	
	10 10YR4 / 3 に、10YR6 / 3 黄褐色	シルト		
カモド・ゾーブ	11 5YR3 / 3 嫩褐色	シルト	2.5YR4 / 6 壤土-泥炭	
	12 10YR3 / 3 黄褐色		10YR4 / 3 リットル混入	
	13 10YR3 / 3 黄褐色		10YR5 / 4 リットル層	
覆 り 層	14 2.5YR3 / 2 黄褐色	シルト	炭化物炭酸、濃の例を作りあげてある	

S681 施設理士註冊表

部 級	解 释	毛 色	性 性	種 者
P1	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	斑化物がやや混入
	2	10YR3/4 黑褐色	シルト	斑化物・地土がやや混入。10YR4/4暗褐色が混入
	3	10YR4/4 黑褐色	砂質シルト	10YR2/4シルトが混入
P2	1	10YR4/4 黑褐色	シルト	地土プロックが混入。10YR3/2黒褐色が混入、斑化物が粒状に混入
	2	10YR3/3 黑褐色	シルト	
P3	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	10YR1/3砂質シルトが混入、幾十斑化物がブロック状に混入
P4	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	斑化物が多少混入
	2	10YR3/4 黑褐色	シルト	斑化物が比較的多く混入。地土が粒状に少し混入
P5	1	10YR4/3 にA5-黄褐色	砂質シルト	地土プロック混入
P6	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	斑の内
P7	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	斑化物がやや混入
P8	1	10YR3/4 黑褐色	シルト	地土がやや混入
P9	1			
P10	1	10YR3/4 黑褐色	砂質シルト	
P11	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトがやや混入
P12	1			
P13	1			
P14	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	地土プロックが混入
P15	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	

S61

造形名	平面図	幅版(cm)	墨版(cm)	備考
P1	円形	54 × 52	41.8	
	柱頭形16 × 36			
P2	円形	41 × 41	15.5	
P3	椭円形	59 × 51	13.9	
P4	椭円形	677 × 55 679 × 60 柱頭形17 × 47	43.7 42.5	
P5	円形	48 × 48	38	
P6	椭円形	13 × 11	53.8	
造形名	平面図	幅版(cm)	墨版(cm)	備考
P7	(椭)円形	13 × 25	47.8	
P8	椭円形	21 × 18	53.8	
P9	円形	26 × 18	29.8	
P10	(椭)円形	(50) × (19)	17.1	
P11	(椭)円形	(32) × 18	35.2	
P12	(椭)円形	23 × (18)	6.3	
P13	円形	34 × 28	8.4	
P14	椭円形	80 × 59	33	
P15	椭円形	32 × 42	13.8	



第204図 SI61 穂穴住居跡出土遺物

回数 番号	登録番号	出土遺構	層位	種 別	器 物	口径×底径×器高(cm)	外 国 調 整	内 国 調 整	備 考	写真 回数
1	C-222	SB61	1層	土器器	环	(15.8)×××(7.7)	口縁部付近、体部ハリ付、底部ハリ付	口縁部～底部ハリ付		20
7	C-229	SB61	埋土	土器器	环	×××(3.5)	体部磨耗、底部ハリ付	底部ハリ付		20
3	C-224	SM61	埋 土	土器器	环	Φ10.0×H7.3	口縁部付近、体部ハリ付、底部ハリ付	口縁部付近ハリ付→ハリ、体部～底部ハリ付		20
4	C-227	SB61	埋 土	土器器	环	(14.5)×××(7.3)	口縁部付近、底部ハリ付	口縁部付近ハリ付、底部ハリ付		20
5	C-226	SB61	埋 土	土器器	环	(21.0)×××(7.0)	口縁部付近、体部磨耗	体部ハリ付		20
6	C-233	SB61	埋 土	土器器	环	(21.0)×××(8.0)	口縁部付近、体部ハリ付、底部ハリ付	口縁部～底部ハリ付	内面黒色処理	20
2	C-225	SB61	埋 土	土器器	环	8.0×××7.5	口縁部～体部ハリ付、底部ハリ付	口縁部付近ハリ付、体部～底部ハリ付	内面黒色処理	20
8	E-055	SB61	埋 土	土器器	环	15.2×8.2×4.0	口縁部、底部付近、底部ハリ付	口縁部、底部付近ハリ付	外面一部自然釉	20
9	E-054	SB61	埋 土	土器器	环	×××(8.6)	口縁部、底部付近ハリ付	口縁部、底部付近ハリ付	口縁部調整	20

回数 番号	登録番号	出土遺構	層位	種 別	器 物	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備 考	写真 回数
10	P-37	SB61	床面	土製品	支撑脚	18.7×径4.7	630.6	ナギ、底面ケズリ、上半分剥落	20
11	P-36	SB61	埋 土	土製品	支撑脚	Φ5.8×厚3.3×高10.0	96.0	ナギ、黑色	20

回数 番号	登録番号	出土遺構	層位	種 別	器 物	備 考	写真 回数		
12	N-20	SB61	埋 土	鉄製品	刀子	片面、残存長5.1、幅1.5、厚0.5cm			20
13	N-21	SB61	埋 土	鉄製品	刀子	長9.7、径0.9cm			20

S162 積穴住居跡(第205～207図)

[位置・確認面] 3A区北半で確認した。

[重複] S155に切られ、SI68を切る。

[規模・形態] 北西から南東に主軸をとり、規模は主軸方向が4.1m、主軸直行方向が4.88mで、平面形は主軸直行方向がやや大きい隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN=35°Wである。

[堆積土・構築土] 19層に分層した。1～4層が住居埋土である。全体に炭化物粒を含む。炭化物は特に3層の上位で顕著に認められた。5層から12層は、カマドおよび煙道内の埋土にあたり、6・7層は天井部の崩落土と考えられる。13層は周溝内の埋土であり、14～16層は、カマドの構築土、17～19層は、掘り方の埋土にあたる。

[壁面] IV層およびSI 68の埋土を壁面としており、比較的の状態がよく、壁高は29cm～45cmが残存する。立ち上がりの床面付近はやや外反しているが、20cm前後より上は垂直に近くなる。北側と東側では立ち上がりの中腹から大きく外側へ開く形となっている。

[床面] 18層上面を床面としており、カマド右側の床面上からは土器が検出された。

[柱穴] P1～P4を確認した。位置関係と形状から、主柱穴と考えられる。柱間は広く、主軸方向で約240cm、主軸直行方向で約350cmで、全体的にコーナー近くに位置している。

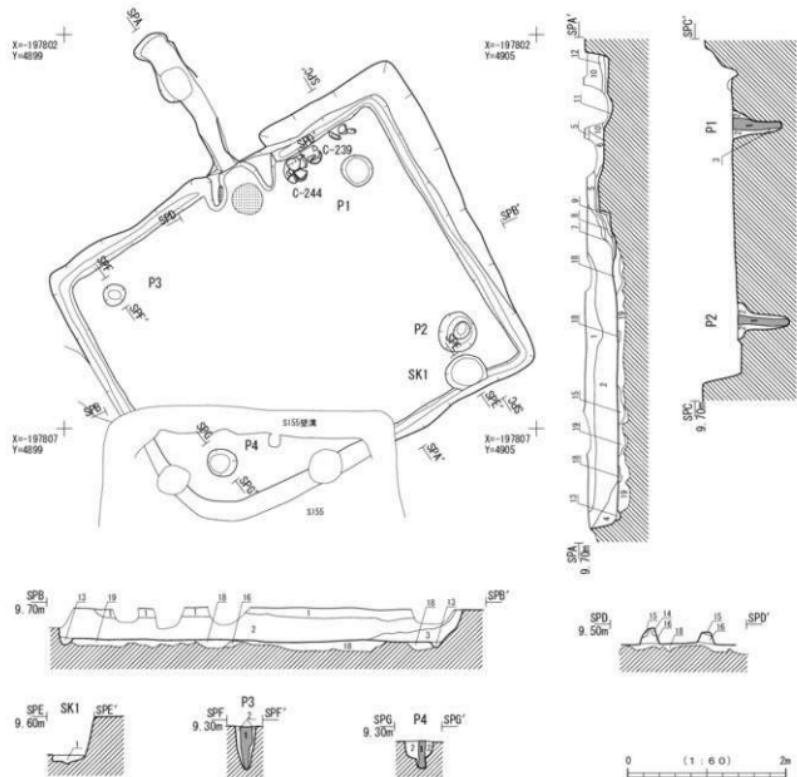
[周溝] 壁際を全周しているものと考えられる。幅は9cm～17cm、深さは全体に浅く、3cm～9cmである。

[カマド・煙道] 北辺の中央よりやや東側に設けられている。両袖は、わずかに内湾しており、やや右側の方が大きい。外幅111cmで奥行は65cm、燃焼部底面はわずかに窪んでいる。煙道は長さ196cm、幅27cmで、底面は先端部にかけて低くなっている、深さ13cm～30cmを計る。

[その他の施設] 南壁沿いで確認したSK 1は、埋土中に炭化物を含む浅い掘り込みである。

[掘り方] 底面は概ね平坦だが、南東コーナー付近が低くなっている、北西コーナー部にはピット状の掘り込みも認められる。

[出土遺物] 土師器壺5点、甕4点、須恵器壺1点、蓋1点、壺1点を掲載した。1は平底状の底部から外傾する箱型の小型の壺。2・5は体部と底部の境目に弱い段を持つ。3は関東系土師器であろう。7・8は長胴甕である。10は丸底状の底部から外傾し、体部中央で弱く屈曲し口唇部に至る。11はカエリが退化した後、垂下し始めている。12は、高台を有する事、また大きさから短頸甕と考えられる。



第205図 SI62竪穴住居跡

S62 墓土目記表

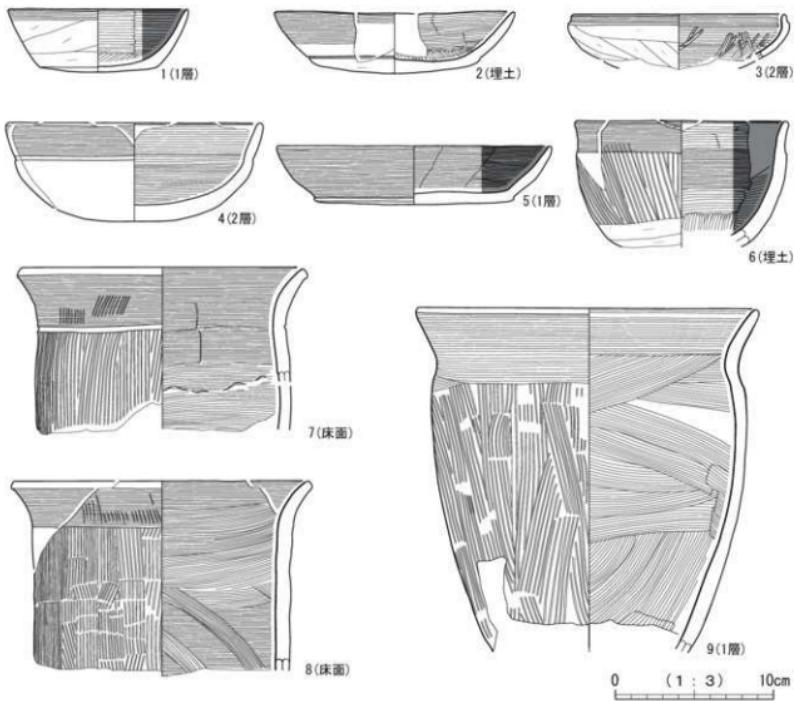
部位	層 次	土 色	主 性	備 考
埋 土	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物-堆土が少し混入
	2	10YR2/3 暗褐色	シルト	10YR4/4(4)質シートをブロック状に含む、粒状炭化物が少し混入
	3	10YR2/4 暗褐色	シルト	層の上部に灰の塊あり、粒状炭化物-堆土がやや多い
	4	10YR2/2 黒褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入
カマド	5	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR4/4(4)質シート
	6	10YR2/3 黒褐色	シルト	堆土ブロックが多く混入、粒状炭化物が少し混入、煙道天井の崩落土と考えられる
	7	10YR2/2 黒褐色	シルト	堆土ブロック炭化物が多數混入、カマド槽道の天井の崩落と考えられる
	8	10YR2/1 黑褐色	シルト	灰の層、堆土ブロックが多數混入
	9	10YR2/3 黑褐色	シルト	堆土ブロック、灰化物が混入
	10	10YR2/4 暗褐色	シルト	堆土ブロックがまばらに混入
	11	10YR2/1 黑色	粘質シルト	堆土とブロック炭化物の塊、焼け痕及び焼き土の崩落と見られる
	12	10YR1/4 黑色	シルト	瓦片物がやや混入、カマド・煙道とともに天井部分は崩落したものと考えられる
	13	10YR2/3 暗褐色	シルト	10YR4/4(4)質シートやや混入
	14	7.5YR2/4 暗褐色	シルト	堆土・基本層 10厚
窓 壁	15	10YR2/4 暗褐色	シルト	堆土・炭化物ブロックを少量
	16	10YR1/4 黑色	砂質シルト	堆山ブロックを置、灰状少量
	17	7.5YR2/4 暗褐色	シルト	堆山
掘り方	18	10YR2/3 暗褐色	シルト	堆山ブロックを多量含む
	19	10YR4/3 に赤い黒褐色	砂質シルト	ブロック土を密

SI62 施設埋土記録

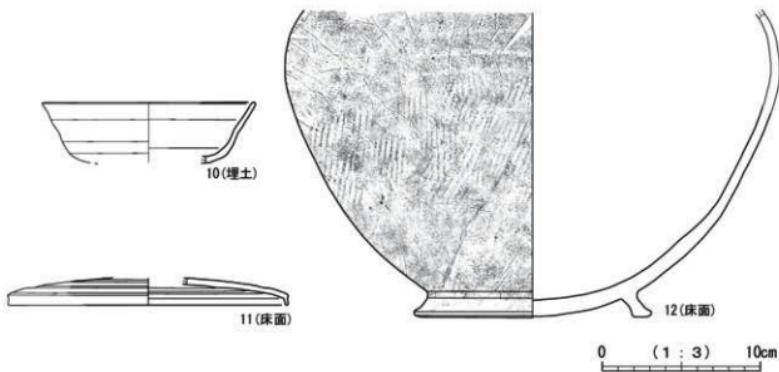
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/3 咖褐色	粘性シルト	粒状炭化物-焼土が混入、土がスカラスカ(空隙)のところがところどころあり
	2	10YR3/4 咖褐色	シルト	
	3	10YR4/4 咖色	砂質シルト	10YR4/3にない青褐色シルトが混入、粒状炭化物が少し混入
P2	1	10YR2/2 黒褐色	粘性シルト	粒状炭化物-焼土が混入
	2	10YR3/4 咖褐色	シルト	10YR4/4褐色シルトが少しへき状に混入
P3	1	10YR4/2 灰青褐色	粘性シルト	非常に多い焼土
	2	10YR4/4 咖褐色	シルト	10YR3/3褐色が少し混入
P4	1	10YR3/2 黑褐色	粘性シルト	炭化物ブロックを少量含む
	2	10YR4/6 咖色	砂質シルト	
SK1	1	10YR3/4 咖褐色	シルト	粒状炭化物が混入、粒状焼土が少し混入

SI62 施設輪廓図

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形	40 × 39	69	
P2	円形	48 × 48 柱直径 15 × 12	74	
P3	円形	29 × 26 柱直径 φ 15	55	



第206図 SI62 穴住居跡出土遺物(1)



第207図 SI62竪穴住居跡出土遺物(2)

登録番号	出土遺物	解説	種別	器 形	基 標	口径×底径×高さ(cm)	外 壁 調 整	内 壁 調 整	備 考	写真 出典
1	C-235	SH62	1層	土塗器	坪	11.4 × 7.0 × 4.0	[1]縦部23°#, 体部～底部5°#↑	[1]縦部～底部5°#↑	内面黒色地埋	71
2	C-236	SH62	理土	土塗器	坪	15.5 × 7.0 × 3.9	[1]縦部23°#, 体部～底部5°#↑	[1]縦部～底部5°#↑		71
3	C-237	SH62	2層	土塗器	坪	10.0 × 6.5 × 3.5	[1]縦部23°#, 体部～底部5°#↑	[1]縦部5°#↑, 体部2°#→5°#↑		71
4	C-238	SH62	2層	土塗器	坪	10.0 × 6.2 × 3.5	[1]縦部23°#, 体部～底部5°#↑	[1]縦部5°#↑, 体部～底部2°#		71
5	C-240	SH62	1層	土塗器	坪	17.4 × 12.5 × 3.7	[1]縦部～体部23°#, 底部5°#↑	[1]縦部5°#↑～底部5°#↑	内面黒色地埋	71
6	C-239	SH62	理土	土塗器	坪	13.3 × 8.0 × 8.0	[1]縦部23°#, 体部5°#↑, 底部5°#↑	[1]縦部5°#↑, 体部5°#↑～5°#↑	内面黒色地埋	71
7	C-239	SH62	床面	土塗器	裏	18.4 × 7.0 × 10.0	[1]縦部23°#, 製造時#↑			71
8	C-241	SH62	床面	土塗器	裏	19.0 × 7.0 × 12.2	[1]縦部23°#, 製造時#↑			71
9	C-243	SH62	1層	土塗器	裏	21.9 × 7.0 × 12.0	[1]縦部23°#, 製造時#↑			71
10	E-026	SH62	理土	土塗器	坪	13.0 × 6.8 × 3.8	5%調査	5%調査	外側一部自然軸	71
11	E-057	SH62	床面	灰土器	表	17.0 × 8.0 × 8.0	5%調査, 大井町駅前535号, 重ね焼き灰	5%調査, 製部下部斜面調整	外側一部自然軸	71
12	E-058	SH62	床面	灰土器	表	~(15.0) × (9.0)	5%調査, 製部平行時5号, 底部斜面5号, 灰土面付合	5%調査, 製部下部斜面調整	内面斜付合, 相應	71

S163 竪穴住居跡(第208~210図)

【位置・確認面】 3A区北端付近、調査区西壁沿いで住居の東半分を検出した。北西コーナー付近は調査範囲外となつた。床面下からも柱穴が検出されており、拡張に伴う建て替えが行われた可能性が強い。

【規模・形態】 主軸を東西にとり、規模は主軸方向で5.12m、直行方向が5.36mで、平面形は隅円方形を呈する。
【方向】 主軸方位はN-78°-Wである。

【堆積土・構築土】 25層に分層した。1~6層は住居理土であり、全体に炭化物を含んでいる。7~16層はカマドおよび煙道内の理土である。7層は煙道の天井部分、8~9層は崩落したカマドの天井と考えられ、11層も煙道内部の崩落土とみられる。12層はカマド内の灰と炭化物の層である。13層は床面下に落ち込む焼土・炭化物の層で、カマドが造り替えられているものとも推測できる。17層は周溝内の埋め土、18~19層は、カマドの構築土にあたる。20~25層は床面下に位置する掘り方の理土であるが、上部を20層によって削平される形となる22~24層までの堆積は住居の南側でのみ認められ、拡張前の住居の理土にあたるものと考えられる。

【壁面】 IV層中を壁面としており、壁高は22.9cm~37.3cmが残存する。立ち上がりは、やや外反する形を呈する。

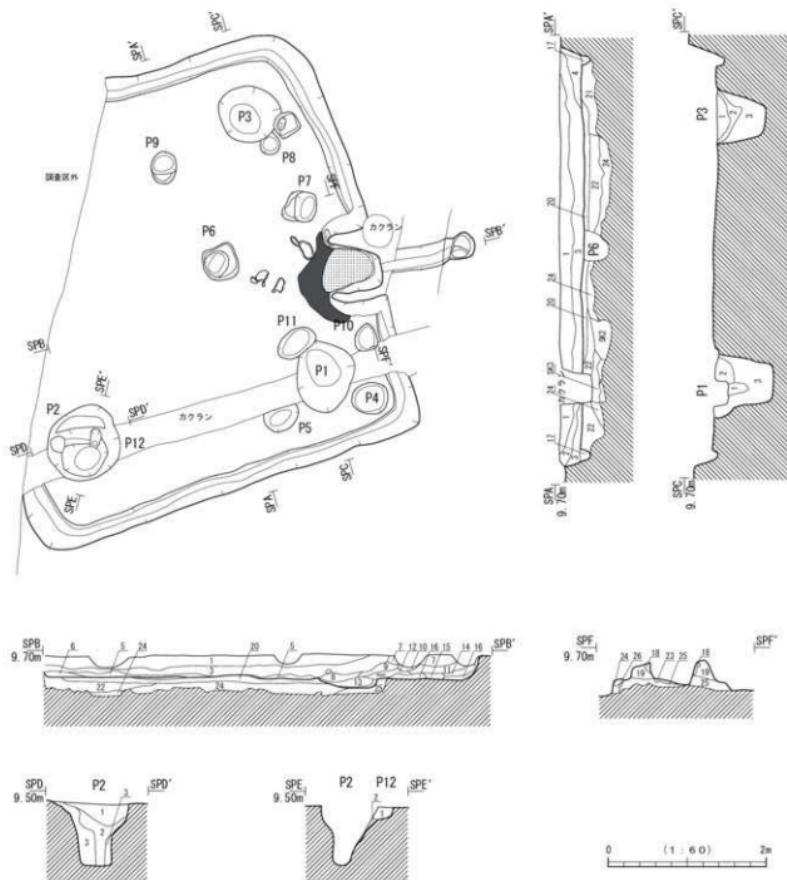
【床面】 20層上面を床面とする。拡張前の床面については、建て替えに伴って除去されている。

【柱穴】 床面上よりP1~P12を、床面下からはP13~P19を確認した。形状、位置関係から、P1、P2あるいはP12、P3が建て替え後の主柱穴とみられる。位置は全体にコーナー付近に寄っており、柱間は330cmとなる。

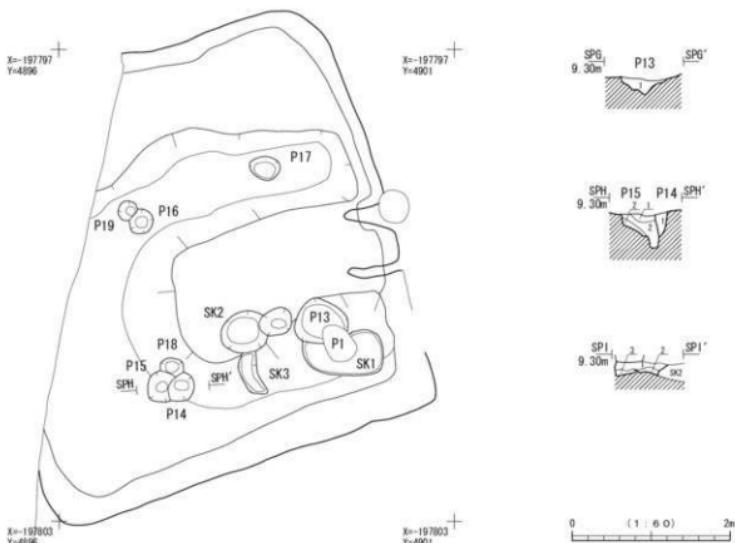
床面下検出のビットの内、建て替え前の主柱穴にはP13、P14・15・18、P16・19、P17があるものと考えられる。これらは、掘り方底面で認められた窪みの内側に位置し、柱間は210cmとなる。これらの位置関係から、当住居の建て替えは南東コーナーを軸とし、北方向と西方向へ向かって拡張を行ったものと推定することができる。

【周溝】 検出部では、拡張後の壁際をほぼ全周している。幅15cm～16cm、深さ7.8cm～11.3cmである。

【カマド・煙道】 東辺中央よりやや南側に寄った位置に設けられている。両袖は東壁に対して直行しており、左側の先端部には平板に加工した石が認められた。焚き口を構成していた一部と思われる。外幅110cm、奥行き65cmで、燃焼部底面は床面から7～8cm窪んでおり、被熱が非常に顕著で、前部にも焼土が分布している。煙道の



第208図 SI63竪穴住居跡(1)



第209図 Si63竪穴住居跡(2)

Si63 墓土跡記表

部 積	層 級	土 色	土 性	標 号
屋上	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR1/4砂質シルトが混入、粒状炭化物が少く混入、10YR2/2シルトがやや混入、部分的に粒状幾土が混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	10YR1/4砂質シルトが少く混入、10YR2/2シルトがやや混入、炭化物や粒状にやや混入
	3	10YR2/3 暗褐色	シルト	粒状炭化物が多め混入、幾土がやや混入、炭化物や粒状にやや混入
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	炭化物が多め混入、幾土がやや混入、10YR1/4砂質シルトが粒状にやや混入
	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	炭化物が少く混入
	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	10YR1/4の粒状に少し混入
カマド・煙道	7	10YR1/3 にぶい黄褐色	シルト	10YR2/2の砂やや混入、焼造の天井部分と考えられる
	8	10YR2/4 黑褐色	シルト	粒状炭化物・幾土が少し混入
	9	10YR2/3 黑褐色	シルト	地・プロックが少く混入、炭化物が混入、キヤドの天井部分の焼け面が強調したものと考えられる
	10	10YR3/4 暗褐色	シルト	地・プロック・炭化物が混入
	11	10YR2/3 黑褐色	シルト	別の上面に焼け面があり、トネネルの天井部分の内側が強調したものと考えられる、幾土も少し混入
	12	10YR2/2 黑褐色	シルト	地・プロックが少く混入、粒状炭化物が混入、灰・烟道、生活時の残存と考えられる
	13	10YR2/1 黑色	シルト	地・プロックが少く混入、炭化物が混入、10YR2/3シルトが颗粒状に混入
	14	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物の層、10YR2/3シルトが颗粒状に混入
	15	10YR3/1 黑褐色	シルト	10YR2/1シルトが颗粒状に混入
	16	10YR1/3 にぶい黄褐色	シルト	粒状に炭化物が混入
周溝	17	10YR2/3 黑褐色	シルト	粒状炭化物がやや混入
	18	5YR2/6 暗赤褐色	シルト	地・の壁の カラード内熱の影響による
	19	10YR4/6 暗赤褐色	シルト	モザイクのない大きい砂土
掘り方	20	10YR2/2 黑褐色	シルト	10YR4/4シルトと多少混入
	21	10YR4/6 黑褐色	砂質シルト	10YR2/4シルトと多少混入
	22	10YR4/4 黑褐色	シルト	10YR2/3シルトとプロック状に混入、粒状の幾土が少し混入
	23	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物・灰・機土・プロックばらに混入
	24	10YR4/6 黑褐色	シルト	10YR1/3の部分中に少し混入
	25	10YR4/4 黑褐色	シルト	

Si63 施設埋土跡記表(1)

部 積	層 級	土 色	土 性	標 号
P1	1	10YR4/4 黑褐色	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトがまばらに混入
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	粒状土・炭化物がやや混入
	3	10YR2/3 暗褐色	シルト	粒状土・炭化物が少く混入、10YR4/3シルトがまだらに混入
P2	1	10YR2/3 暗褐色	シルト	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトが少く混入
	2	10YR2/4 黑褐色	砂質シルト	10YR2/4黒褐色シルトがプロック状に少し混入
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/2黒褐色砂質シルトがやや混入

S963 施設埋土註記表(2)

部 位	層 位	千 色	土 性	備 考
P3	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	
	2	10YR2/7 黑色	鈍動粘土質	10YR2/4シルトがブロッカ状に混入、他土・変化物がやや混入、炭化物の層
	3	10YR4-4 黄色	砂質シルト	10YR4/3にいわゆる褐色をまばらに混入
P4	1	10YR5-3 黄褐色	シルト	地土・ブルゴーが混入、粘土・炭化物が混入、ゆるやかなくほみに上の土が混入したようだ
P5	1	10YR2-2 黑褐色	シルト	軟弱の地盤・変化物が多量混入、風の層
P6	1	10YR5-4 黄褐色	シルト	10YR4/3砂質シルトがブロッカ状に混入、他土・変化物が軟弱に混入
P7	1	10YR3-3 黄褐色	シルト	10YR4/4褐色地山とワタガラシ混入、粘土・炭化物がやや混入、ゆるやかなくほみに混入したようだ
P8	1	10YR2/2 黑褐色	シルト	地盤・軟弱の地盤物が多量混入、ゆるやかなくほみに混入
P9	1	10YR3-3 黄褐色	シルト	軟弱炭化物がやや混入
P10	1	10YR4-4 黄色	シルト	炭化物・他土や砂や土、泥などの土を多く含む
P11	1	10YR4-4 黄色	砂質シルト	炭化物・他土や砂や土、泥などの土を多く含む
P12	1	10YR4-4 黄褐色	砂質シルト	10YR4/3暗褐色シルトがブロッカ状に混入
	2	10YR4-2 黄褐色	シルト	
P13	1	10YR3-3 黄褐色	シルト	軟弱炭化物が少し混入
P14	1	10YR4-3 にいわゆる褐色	シルト	10YR2/4暗褐色層シルトが脱入
P15	1	10YR4-2 にいわゆる褐色	シルト	10YR4/4暗褐色シルトがブロッカ状に混入
	2	10YR3-4 類褐色	シルト	軟弱の地盤・炭化物が少し混入
	3	10YR6-6 褐色	シルト	10YR3/4暗褐色が一部に混入
P16	1	10YR3-4 類褐色	シルト	地山がまばらに混入
P17	1	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	10YR3/4暗褐色がまばらに混入
P18	-	-	-	
P19	-	-	-	
SK1	1	10YR4-3 にいわゆる褐色	砂質シルト	粘炭化物が少し混入
SK2	1	10YR3-3 黄褐色	シルト	軟弱炭化物が多量混入
	1	10YR4-3 にいわゆる褐色	シルト	10YR2/3暗褐色がまばらに混入
SK3	2	10YR3-3 黄褐色	シルト	他土・炭化物が混入
	3	10YR4-4 黄色	シルト	

S63 梅沙数据表

通路名	平面图	宽度(cm)	深度(S) (cm)	指 考
P1	(椭)圆形单孔	85 ~ 70	73	
P2	圆形单孔	95 ~ 92	75.1	
P3	圆形单孔	78 ~ 70	66.6	
P4	圆形单孔	47 ~ 41	14.9	
P5	(椭)圆形单孔	45 x 40	17.7	
P6	方形	44 x 44	28.3	
P7	方形	38 x 38	14.5	
P8	椭圆形	25 x 25	6.3	
P9	椭圆形	41 x 32	14.4	
P10	椭圆形	34 x 30	11.5	
P11	椭圆形	50 x 31	13.5	
通路名	平面图	宽度(cm)	深度(S) (cm)	指 考
P12	(椭)圆形单孔	(23) x 14	8.6	
P13	(椭)圆形单孔	(65) x 45	22.7	
P14	椭圆形	36 x 32	52.4	
P15	(椭)圆形单孔	40 x (36)	29.3	
P16	圆形单孔	31 x 30	46.6	
P17	椭圆形	39 x 30	39	
P18	(椭)圆形单孔	30 x (21)	43.4	
P19	(椭)圆形单孔	25 x 25	28.1	
SK1	(椭)方形	102 x 56	15	
SK2	圆形单孔	57 x 53	19.4	
SK3	4壁形	(57) x 23	5.2	

長さは120cm、幅は35cmである。底面はほぼ水平、深さは24.4cmを計る。煙道の先端は平面35cm×30cm、深さ23.3cmのピット状に寝む。

「その他の施設」 SK 1~3 は、いずれも床面下から検出された焼土・炭化物を含む掘り込みである。

〔掘り方〕 カマドの前面を長方形に掘り残す他、北側が一段高くなっている事が認められた。段差は主軸に平行しており、拡張に伴う建て替えの痕跡と考えられる。

〔出土遺物〕 土師器坏3点、壺1点、甕1点、瓶1点、須恵器甕1点、土製紡錘車1点を掲載した。1・2は底部と部体の境目に段を持ち、3は部体と口縁の境目に段を持つ。4の小型短頸甕は、内面に丁寧なヘラミガキが施される。6は、多孔の瓶の底部である。

S164 積穴住居跡(第211~214図)

〔位置・確認面〕 3A区北端部で確認した。

〔重複〕 SI72を切り、SI77に切られる。

〔規模・形態〕 東北を主軸としており、一边が5.2m～5.3mの正方形に近い隅田方形を呈する。

「左向」 主軸方位は N 18° W である

〔堆積土・構築土〕 17層に分層した。1~6層は住居埋土である。全体に焼土・炭化物を含んでおり、4層については、煙道がSI 77に破壊された際の崩落土と考えられる。堆積状況から人為的な埋め戻しが行われた可能性を指摘できる。7~8層はカマド底面の焼土と炭化物の堆積である。9~12層は周塀内の埋土であり、10層は壁材の

痕跡と考えられる。13・14層はカマド内部の被熱部位、15・16層はカマド構築土にあたる。17層は掘り方の埋土である。

【壁面】 IV層およびSI72の埋土を壁面としており、壁高は17.2cm～26.1cmが残存する。立ち上がりは垂直に近い。

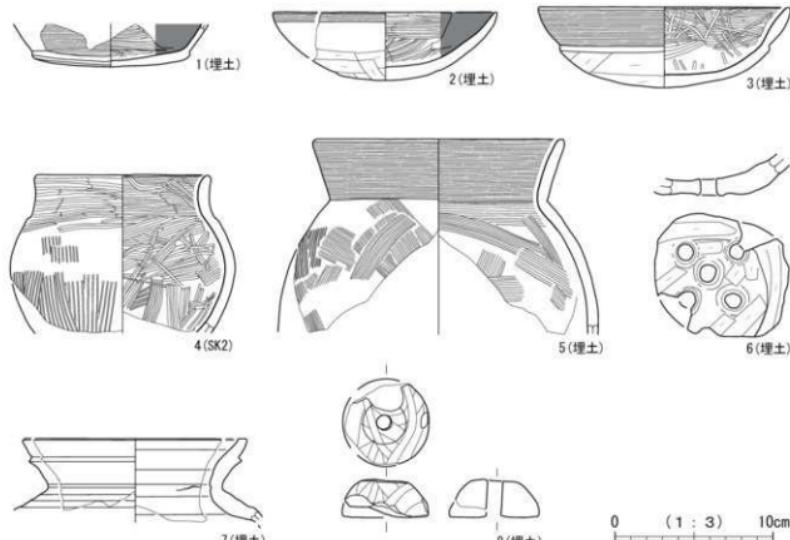
【床面】 17層上面を床面とする。床面上には土器・石などが多く認められた。

【柱穴】 P1～P4を確認した。位置関係と形状から、主柱穴と考えられ、P3、P4からは柱の痕跡が検出されている。柱間は約300cmで、全体的な位置はコーナー付近に寄っている。また、各柱穴の埋土上層からは、複数の石が検出された。

【周溝】 壁際を全周している。幅15cm～20cm、深さ5.4cm～12.6cmを計る。

【カマド・煙道】 北辺中央部よりやや東により設けられている。両袖は、北壁に直行し、右側がやや大きい。外幅120cm、奥行55cm、で顯著に被熱する底面は、住居床面より6～7cm程度窪んでいる。煙道はSI77によって先端部を破壊されており、長さ68cmが残存する。幅は47cmで東側の壁面は被熱痕跡が顯著である。深さは22.7cmを計る。

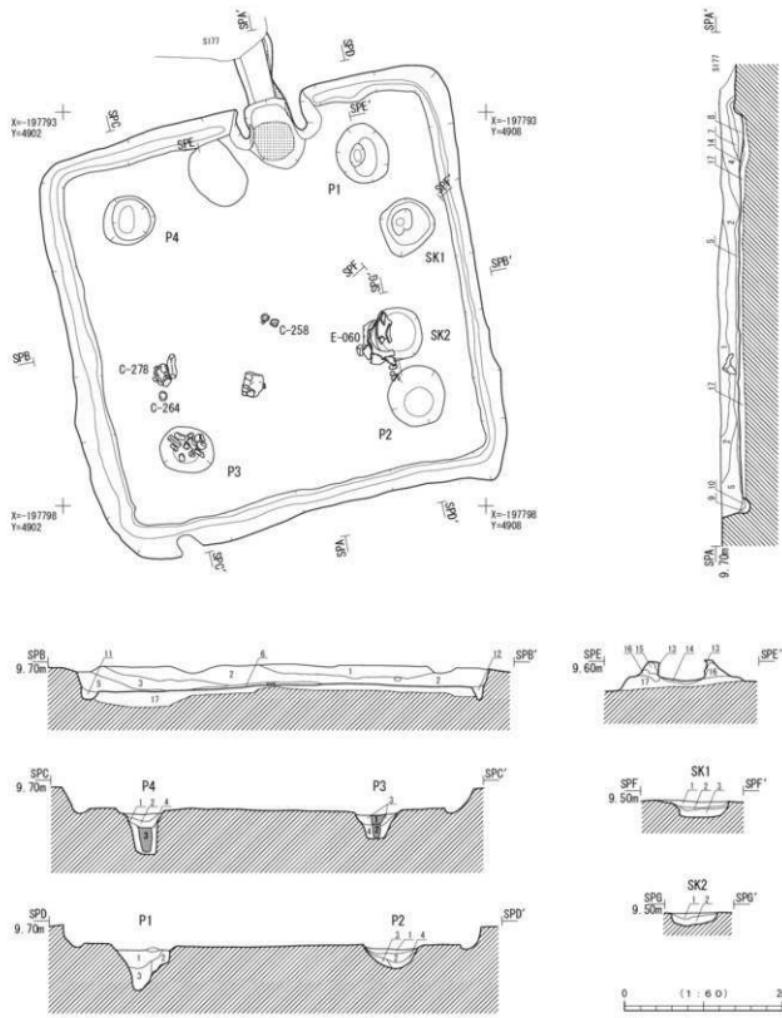
【その他の施設】 住居東側でSK1とSK2を検出した。共に内部からは焼土・炭化物が検出されている。SK2直上



第210図 SI63竪穴住居跡出土遺物

国版 番号	登録番号	出土遺物	短径	横 径	芯 径	口径×底径×芯高(cm)	外 周 調 整	内 周 調 整	備 考	写 真 回数
1	C245	埋土	土質砂	环		~10.0×2.7	体部のカブ、底部ハリエリ	体部～底部ハリエリ	内面黒色化理	72
2	C249	埋土	土質砂	环	(14.2)×6.0×4.2	(14.2)×6.0×4.2	(14.2)×底部ハリエリ	(14.2)×底部ハリエリ	内面黒色化理	72
3	C250	埋土	土質砂	环		16.0×~5.1	(16.0)×底部ハリエリ、体部～底部ハリエリ	(16.0)×底部ハリエリ	内面黒色化理	72
4	C253	埋土	土質砂	環	(10.8)×~(10.0)	(10.8)×~(10.0)	(10.8)×(10.0)、側部ハリエリ	(10.8)×(10.0)、側部ハリエリ	内面黒色化理	72
5	C254	埋土	土質砂	環	(16.0)×~(12.2)	(16.0)×~(12.2)	(16.0)×(12.2)、側部ハリエリ	(16.0)×(12.2)、側部ハリエリ	内面黒色化理	72
6	C246	埋土	土質砂	環		底部ハリエリ	底部ハリエリ	多孔	72	
7	E059	埋土	土質砂	環	(14.0)×~(6.3)	(14.0)×(6.3)	円柱調整	内外面自然地	72	

国版 番号	登録番号	出土遺物	短径	横 径	芯 径	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備 考	写 真 回数
8	P38	埋土	土質品	粘土質		(15.5)×厚2.3×孔径1.0	50.7	ナ	72



第211図 SI64 竪穴住居跡

からは須恵器が出土した。

【掘り方】 カマドの右側から住居中央部を残し、周辺部を大きく掘り込んでいる。底面の比高差は15cm前後である。

【出土遺物】 土師器壺12点、壺4点、甕4点、鉢1点、ミニチュア土器1点、蓋1点、須恵器壺2点、壺1点、土錐1点、鉄滓1点が出土した。1は丸底から緩やかに立ち上がり、口唇部の先端で直立する。4～8・10・14・15は平底状の底部である。16は小型の片口鉢である。18は高台付きの塊か。内面は黒色処理後、非常に丁寧なヘラミガキが施されている。24は、ロクロ土師器で盤や皿の蓋であろう。25は底部突出型の高台付きの壺身である。

S64 墓土記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR4/3 嘴褐色	砂質シルト	約1cm内の炭化物・焼土ブロックを少量含む、東ペルト中にはやや大きめの焼土ブロックが下部に層間に なって残っている
	2	10YR4/3 にぶい黒褐色	砂質シルト	約1cm内の炭化物・焼土ブロックを少量含む
	3	10YR4/3 黒褐色	砂質シルト	約2cm内の炭化物ブロックをやや多く、焼土ブロックを少量含む
	4	10YR2/4 嘴褐色	シルト	下面に厚さ15cm程の天井漆喰層あり
	5	10YR2/4 嘴褐色	シルト	炭化物・焼土粒子を少量含む
	6	10YR2/4 灰黒褐色	砂質シルト	
カマド	7	10YR2/4 嘴褐色	砂質シルト	約1cm内に焼土ブロックや多く、炭化物粒を少量含む
	8	10YR2/3 嘴褐色	砂質シルト	約1cm内に焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む
窓 壁	9	10YR1/3 にぶい黒褐色	砂質土	
	10	10YR2/2 嘴褐色	砂質シルト	窓枠・埴小少ブロックを少量
	11	10YR1/2 灰黒褐色	砂質土	焼土ブロックを少量
	12	10YR1/2 嘴褐色	砂質シルト	
カマド・ツバ	13	2.5YR4/4 にぶい黒褐色	焼成地化面	
	14	2.5YR3/2 灰赤褐色	焼成面	
	15	2.5YR3/2 灰褐色		
カマド・ツバ	16	10YR5/4 にぶい黒褐色	砂質シルト	10YR4/2ブロック裏
	17	10YR2/3 嘴褐色	砂質シルト	10YR5/4ブロック層炭化物混、内側は下層の窓の埋土(10YR1/2黒褐色)をまきあげている

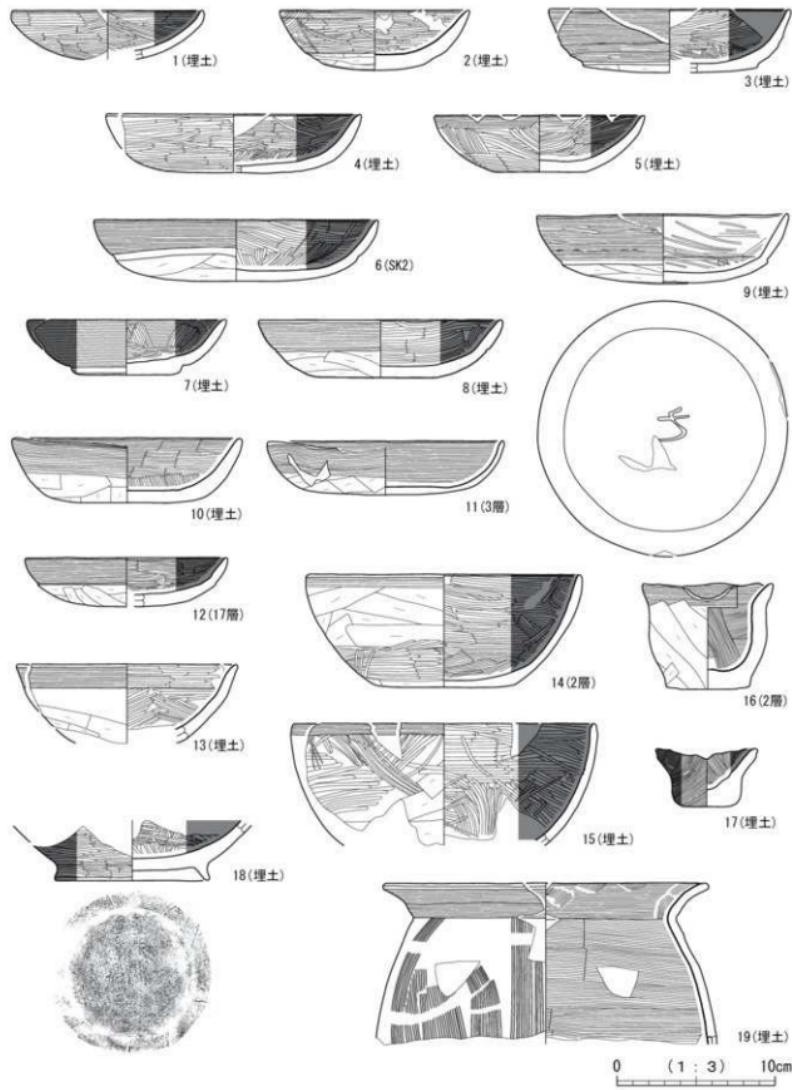
S64 槽設埋土記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	炭化物粒混
	2	10YR4/3 にぶい黒褐色	砂質シルト(項目の順)	10YR1/2灰黒褐色ブロック裏
	3	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物粒若干混
P2	1	10YR2/2 灰黒褐色	シルト	炭化物粒若干混
	2	10YR2/3 嘴褐色	砂質シルト	
	3	10YR2/3 にぶい黒褐色	砂質シルト	10YR3/3嘴褐色ブロック裏
	4	10YR2/2 黑褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR2/3 嘴褐色	砂質シルト	灰ブロック少量
	2	10YR2/3 黑褐色	砂質シルト	灰粒微量
	3	10YR4/3 にぶい黒褐色	砂質シルト	焼土ブロック少量
P4	1	10YR2/2 嘴褐色	砂質シルト	焼土ブロック少量
	2	10YR4/4 嘴褐色	砂質シルト	焼土ブロック少量
	3	10YR4/3 にぶい黒褐色	シルト	
SK1	1	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	炭化物粒混
	2	10YR5/4 にぶい黒褐色	砂質シルト	
SK2	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	灰の量稍少、焼土粒混入
	4	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	炭化物粒混
	5	10YR2/2 黑褐色	シルト	焼土・灰混入層、5YR3/6灰赤褐色焼土ブロック裏

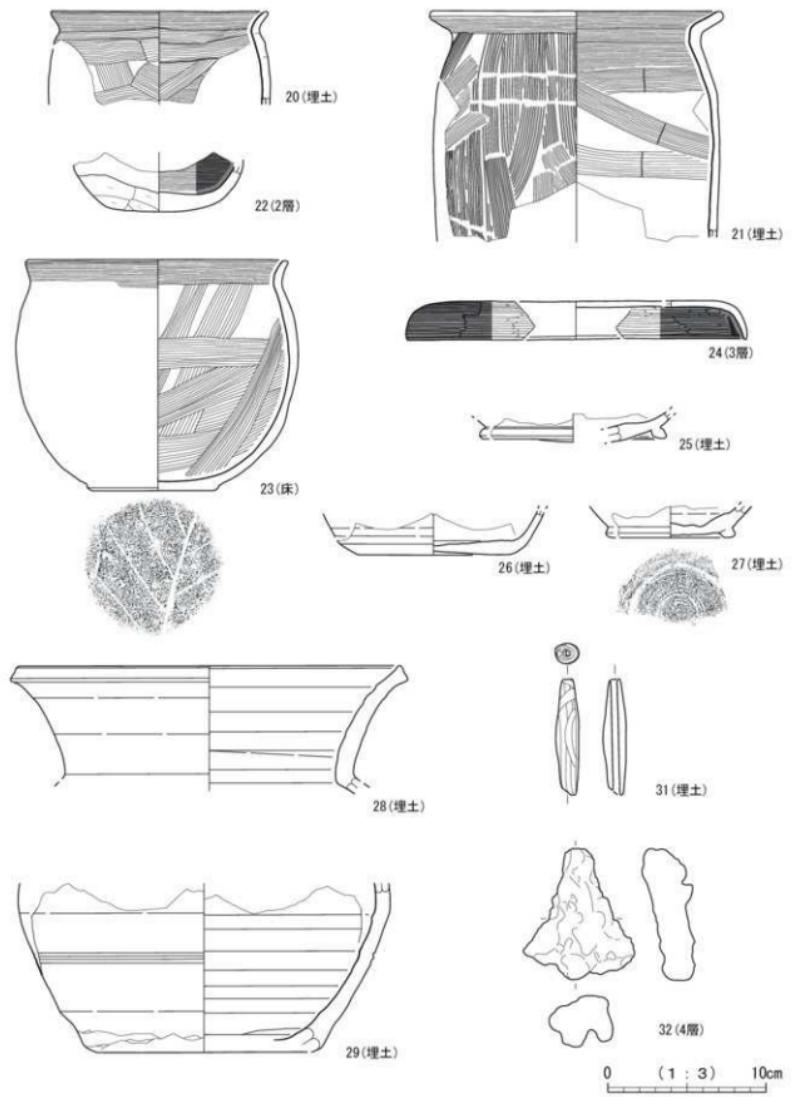
S64 施設埋土記表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	楕円形	75×65	54.9	
P2	円形	75×72	32.6	
P3	楕円形	70×56 柱距離18×18	39	

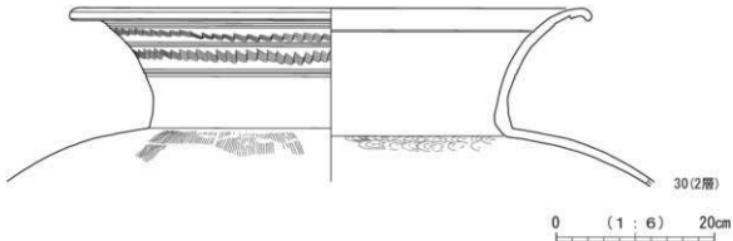
遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P4	円形	66×61 柱距離17×17	54.6	
SK1	方形	69×63	27.4	
SK2	円形	64×58	14.9	



第212図 SI64竪穴住居跡出土遺物(1)



第213図 S164竪穴住居跡出土遺物(2)



第214図 SI64 穴穴住居跡出土遺物(3)

国版 番号	登録番号	出土遺物	規格	種 別	器 様	口径×底径×高さ(cm)	外 壁 調 査	内 壁 調 査	備 考	写真 回数
1	C-256	SI64	灰土	土加器	环	(11.8) × × (2.2)	1壁部～底部付り	1壁部～底部付り	内面黑色處理	72
2	C-258	SI64	灰土	土加器	环	(12.0) × 2.0 × 3.8	1壁部～全体付り、底部付り付り	1壁部～底部付り	内面黒付希	72
3	C-259	SI64	灰土	土加器	环	(15.5) × × (1.0)	1壁部付り～付り、底部付り付り～付り、底部付り	1壁部～底部付り	内面黑色處理	72
4	C-261	SI64	灰土	土加器	环	(16.0) × × (2.7)	1壁部～底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
5	C-267	SI64	灰土	土加器	环	(12.2) × 6.0 × 0.6	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
6	C-269	SI64	灰土	土加器	环	(17.8) × × 3.9	1壁部～全体付り、底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
7	C-270	SI64	灰土	土加器	环	(12.8) × 6.8 × 3.5	1壁部～全体付り、底部付り付り	1壁部～全体付り付り	内面黑色處理、台状削除	72
8	C-271	SI64	灰土	土加器	环	15.4 × 7.8 × 3.2	磨机、1壁部～全体付り、底部付り付り	1壁部～底部付り	内面黑色處理	72
9	C-273	SI64	灰土	土加器	环	15.8 × × 4.4	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部～底部付り付り	底部削除	72
10	C-274	SI64	灰土	土加器	环	14.2 × 7.0 × 4.1	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
11	C-277	SI64	3層	土加器	环	(10.0) × (4.8) × (2.9)	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部付り、底部～底部付り付り	内面黑色處理	72
12	C-279	SI64	17層	土加器	环	(12.7) × × 3.0	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
13	C-287	SI64	灰土	土加器	环	(11.0) × × (5.0)	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
14	C-288	SI64	2層	土加器	环	17.6 × 9.2 × 2.7	1壁部付り、底部付り付り～付り、底部付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
15	C-305	SI64	灰土	土加器	环	(19.0) × × (7.7)	1壁部付り、底部～底部付り付り～付り付り	1壁部～底部付り付り	内面黑色處理	72
16	C-363	SI64	2層	土加器	环	× (5.1) × 6.7	1壁部付り、底部～底部付り付り	1壁部付り付り	片上跡	73
17	C-355	SI64	灰土	土加器	环	× 4.0 × 3.8	底部～底部付り	底部～底部付り	内外面黑色處理	73
18	C-364	SI64	灰土	土加器	环	× × (6.0) × (3.8)	底部付り	底部付り	内外面黑色處理、高台	73
19	C-362	SI64	灰土	土加器	束	(20.0) × × (10.2)	1壁部付り、鞘部付り付り～付り	1壁部付り、鞘部付り	内面黑色處理	73
20	C-360	SI64	灰土	土加器	束	(13.6) × × 6.9	1壁部付り、鞘部付り	1壁部付り、鞘部付り	内面黑色處理	73
21	C-366	SI64	灰土	土加器	束	(18.6) × × (11.6)	1壁部付り、鞘部付り付り	1壁部付り、鞘部付り付り	内面黑色處理	73
22	C-275	SI64	2層	土加器	环	× × (3.8) × 6.0	底部～底部付り付り	底部～底部付り付り	内面黑色處理	73
23	C-278	SI64	灰土	土加器	束	16.1 × 8.2 × 14.4	1壁部付り、鞘部～底部付り、底部本漆面	1壁部付り、鞘部～底部付り	内面黑色處理	73
24	E-038	SI64	3層	土加器	环	(2.8) × × 2.5	大手付、1壁部付り付り	1手付～1壁部付り付り	内面黒付希	73
25	E-039	SI64	3層	土加器	环	× (1.0) × 0.9	加厚部付り、底部付り付り	加厚部付り	内面黑色處理	73
26	E-064	SI64	灰土	土加器	束	× 0.5 × (6.1)	加厚部付り、底部付り付り	加厚部付り	内面黑色處理	73
28	E-065	SI64	灰土	土加器	束	× (7.8) × 0.9	加厚部付り、底部付り付り	加厚部付り	内面黑色處理	73
29	E-062	SI64	灰土	土加器	束	× (1.0) × × (6.9)	加厚部付り	加厚部付り	内面黑色處理	73
29	E-061	SI64	灰土	土加器	束	× (13.6) × × (0.7)	加厚部付り、外周～底部付り付り	加厚部付り	内面黑色處理	73
30	E-060	SI64	2層	土加器	束	× (6.0) × × (2.0)	加厚部付り、底部脚部付り状況、脚部筋付り付り	加厚部付り	内面黑色處理、青海波文	大型
参考 番号	登録番号	出土遺物	規格	種 別	器 様	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備 考	写真 回数	
31	P-39	SI64	SK1	土加器	土壇	7.4 × 1.5 × 高さ0.4	12.9	サク、全面赤彩	74	
国版 番号	登録番号	出土遺物	規格	種 別	器 様			備 考	写真 回数	
32	N-22	SI64	4層	鉢製品	鉢	長8.3幅7.0厚4.0cm			74	

SI65 穴穴住居跡

[位置・確認面] 3A区北端で検出された。

[重複] SI77の一部のプランを共有して建てられたものと推定された。

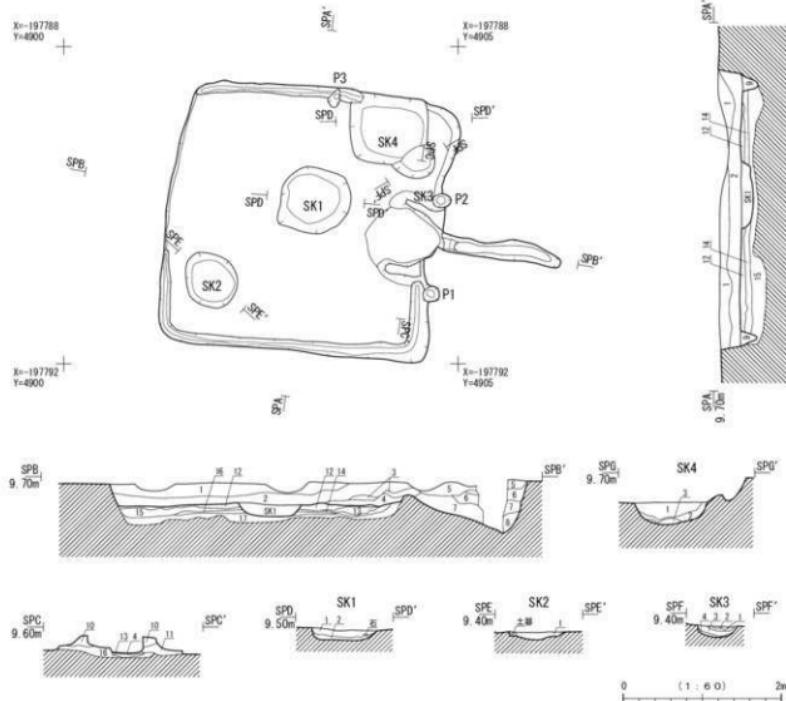
[規模・形態] 東西を主軸にとり、一辺が3.3mの正方形に近い隅円形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-100°-Eである。

[堆積土・構築土] 17層に分層した。1・2層は住居埋土である。全体に焼土・炭化物を含む。3層はカマド天井部分の崩落土であり、4層はカマドの底面から焚き口の前方に広がる灰と焼土の堆積である。5～8層は煙道内の埋土にあたる。9層は周溝内の埋土で、10・11層はカマドの構築土である。12層は貼床で、13～17層は掘り方の埋土であり、18層はカマド直下の焼土層である。

[壁面] 基本的にSI77の埋土を壁面とするものとし、壁高は40cm前後が残存する。立ち上がりは垂直に近い。

- 【床面】 12層が貼床の層である。
- 【柱穴】 壁沿いよりP1～P3を検出した。壁柱穴と考えられる。
- 【周溝】 壁際に設けられているが、西壁の北半とカマドの左側が途切れている。幅10cm～14cmである。
- 【カマド・煙道】 東辺中央部に設けられており、両袖はやや内湾して広がる。外幅120cm、奥行94cmである。煙道は長さ150cm、幅24cmで、深さ17cm～32cmである。
- 【その他の施設】 SK1～SK4を検出した。SK1とSK3には焼土が捨てられている。
- 【掘り方】 カマドの周囲を舌状に掘り残し、周辺部を掘り下げる。
- 【出土遺物】 土師器壺1点、須恵器壺2点、甕1点、砥石1点を掲載した。土師器は大ぶりの壺である。2、3も口径の大きい壺である。



第215図 SI65整穴住居跡

SI65 建土鉢記録(1)

部	種	記	色	土性	備
壁	1	10YR2/3	暗褐色	シルト	南ベルト層中に灰化物・炭土が多く混る
	2	10YR2/2	黒褐色	シルト	南ベルト層中に少しある10YR3/2黒褐色に近い色調で灰化物・炭土を和状に含む
	3	10YR3/2	暗褐色	シルト	天井部の崩落土が5YR2/2黒褐色焼成土ブロック混
	4	7.5YR4/2	暗褐色	シルト	燒土層・灰化物5YR4/6赤褐色焼土粒・灰混合
カマド・煙道	5	10YR4/3	灰・暗褐色	シルト	
	6	10YR4/2	灰褐色	シルト	5YR2/3赤褐色焼土粒・灰化物混入
	7	10YR4/2	灰褐色	シルト	煙道崩落5YR2/3赤褐色焼土ブロック混

SI65 墓土封記表

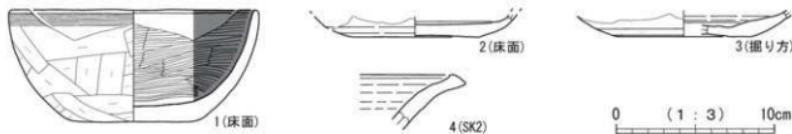
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
カマド・煙道	8	10YR2/2 黒褐色	シルト	5YR2/3 黒褐色赤褐色透水土・炭化物粒混入
四隅	9	呂記ナシ		
カマド	10	10YR2/3 黄褐色	シルト	10YR5/4 に10YR2/3 黄褐色プロック混、炭化物粒・焼土粒混
	11	10YR2/4 黄褐色	シルト	炭化物粒・焼土粒混 10YR2/4 黄褐色透水土
貼床	12	10YR2/4 黄褐色	シルト	10YR5/4 に10YR2/3 黄褐色プロック混、炭化物粒に混った面
	13	5YR2/3 黄褐色	焼土・粘	5YR4/6 黄褐色焼土・炭化物混
側り方	14	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	炭化物粒・焼土粒混入、10YR2/4 黄褐色プロック混
	15	10YR2/3 黄褐色	シルト	SI65 古瓦張面フランジ土
	16	10YR5/4 10YR2/3 黄褐色	シルト	10YR2/3 黄褐色プロック混、炭化物粒混
	17	10YR2/3 黄褐色	シルト	10YR5/4 10YR2/3 黄褐色プロック混

SI65 地盤理土封記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	-	-	
P2	1	-	-	
P3	1	-	-	
SK1	1	10YR2/2 黑褐色	シルト	粒状の焼土・炭化物が多数混入、10YR4/3 に10YR2/3 黄褐色シルトがプロック状に混入
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	
SK2	1	10YR2/4 黄褐色	砂質シルト	砂質シルト
	2	10YR4/4 黄褐色	シルト	焼土・炭化物プロックを多量に含む
SK3	2	10YR2/4 黄褐色	シルト	炭化物・焼土・プロックを多量含む
	3	10YR4/3 に10YR2/3 黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒を若干含む
SK4	1	10YR2/3 黄褐色	シルト	10YR5/3 に10YR2/3 黄褐色シルトをプロック状に含む
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	
	3	10YR5/3 に10YR2/3 黄褐色	砂	10YR2/3 黄褐色プロックがわずかに入る

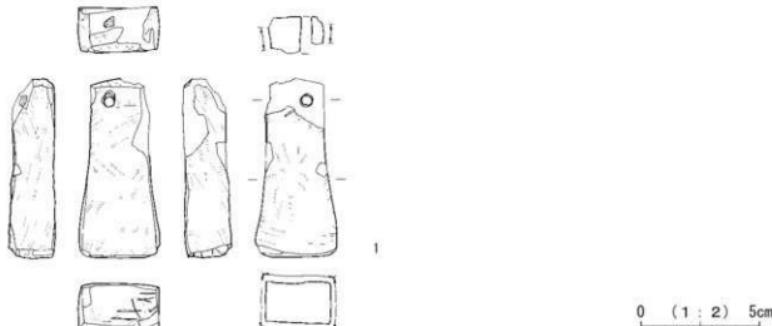
SI65 施設軽帶

遺構名	平面図	規格(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	規格(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	方形	20 × 20	39		SK2	平面図	74 × 64	14	
P2	船形	20 × 18	32		SK3	円形	50 × 40	15	
P3	不整形	22 × 10	14		SK4	方形	100 × 84	28	
SK1	円形	90 × 82	14						



第216図 SI65 穴式竪穴住居跡出土遺物(1)

回数	登録番号	出土遺物	層位	種 別	器 様	口径×底径×器高(cm)	外 回 調 整	内 回 調 整	備 考	写真 図版
1	C-280	SI65	床面	土器類	壺	15.9 × 8.5 × 7.1	口縁部加付、外底・底部凹凸なし	口縁部加付、底部凹凸なし	内面黑色處理	24
2	E-066	SI65	床面	銀器類	環	× 8.2 × (0.3)	加厚部、底面部凹凸なし	DP調整		24
3	E-068	SI65	振り方	銀器類	環	× (0.4) × (0.7)	加厚部、底部小切欠	DP調整		24
4	E-067	SI65	SK2	銀器類	鉢	(63.2) × (0.7)	加厚部	DP調整		24



第217図 SI65 穴式竪穴住居跡出土遺物(2)

回数	登録番号	出土地点	層位	地区	種 別	器 様	分類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石 材	備 考	写真 図版
1	Kd-028	SI65	床面	3A	石製品	硯石	II B1	7.6 × 3.3 × 1.9	69.78	砂岩	完形品、面取り、柱状、有孔。刃孔径0.6cm	24

SI66 穫穴住居跡(第218~219図)

[位置・確認面] 3A区北端部、調査区西壁沿いで小規模なプランの東側を確認した。

上部はⅡ層あるいはⅢ層によって削平されている。

[規模・形態] 一辺が約2.4mの小規模な方形を呈するものと考えられる。

[方向] 東辺を基準とした主軸方位はN-19°-Wである。

[堆積土・構築土] 5層に分層した。1~3層は住居埋土である。特に3層は炭化物の層で、住居埋土全体にも炭化物が含まれている。4層は周溝内の埋土、5層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は26cmが残存する。立ち上がりはわずかに外反している。

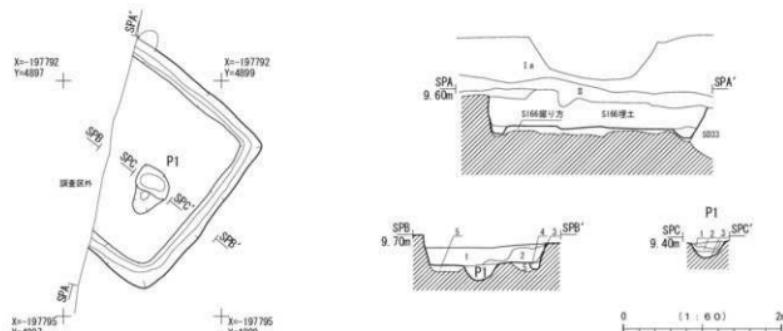
[床面] 5層上面を床面とする。

[柱穴] 床面上から不整形のビットであるP1を確認した。

[周溝] 壁際を全周するものと考えられる。幅13cm~17cm、深さ6.7cm~9.5cm。

[掘り方] 掘り方底面の標高は、床面に近く、土坑状の落ち込みも認められた。

[出土遺物] 土師器甕1点、瓶2点を掲載した。1は丸胴で頸部で直立し、若干外反する口唇部に至る。2は鉢形に開く単孔の瓶である。3は砲弾形の多孔の瓶である。



第218図 SI66竪穴住居跡

SI66 埋土目記表

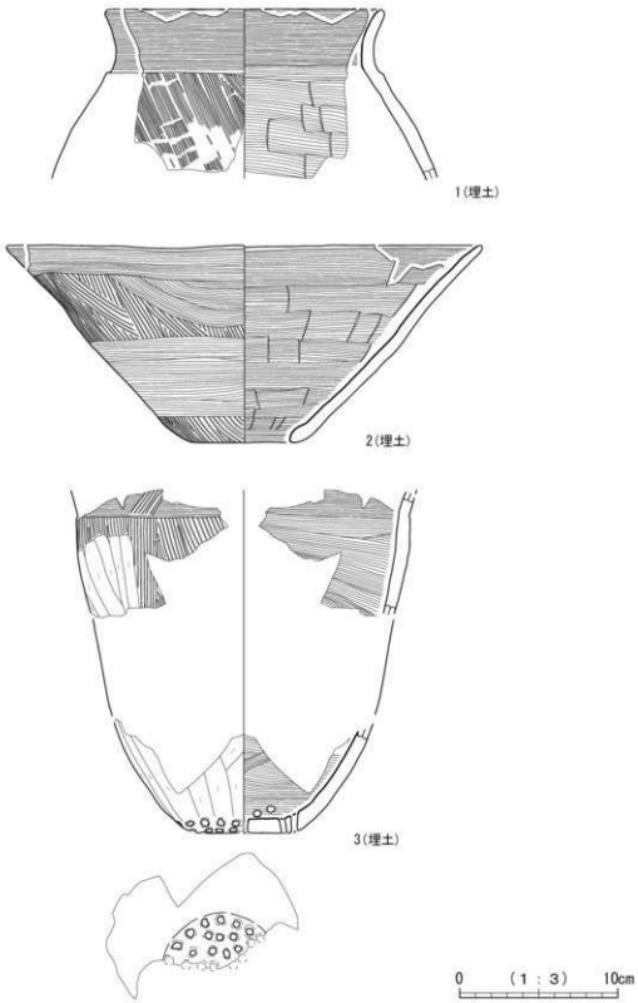
層	段	層	土色	土性	備考
埋土	1	10VR3/3	暗褐色	シルト	地山ブロックを多量、炭化物粒を少量含む
	2	10VR3/2	暗褐色	シルト	地山ブロックを含む、炭化物粒をやや多く含む
	3	10VR1/7.1	黒色	シルト	炭化物層
	4	10VR3/4	暗褐色	シルト	10VR2/コシラトガリばらに混入、10VR4/4地山がやや混入
	5	10VR3/4	暗褐色	シルト	少底部内の地山ブロックを多量含む

SI66 掘留土目記表

層	段	層	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4	褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを少量含む
	2	10VR3/1	黒褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを多く含む
	3	10VR3/4	灰青褐色	シルト	

SI66 施設類目表

遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備考
P1	不規則	77×30	12.1	



第219図 SI66竪穴住居出土遺物

房號 番号	登錄番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調整		内面調整	備考	写真 版版
							上縁部	側面			
1	C-283	SI66	埋土	土加器	豆	(17.8) × - × (10.7)	上縁部32°, 脊部8°	上縁部32°, 脊部8°	-	26	
2	C-282	SI66	埋土	土加器	瓶	(30.1) × 7.2 × 12.5	上縁部32°, 脊部1°, 腹部~底部39°	上縁部32°, 脊部1°, 腹部~底部39°	单孔	27	
3	C-284	SI66	埋土	土加器	瓶	- × (8.0) × (7.3)	上縁部32° → 大, 脊部5°~底部32°	上縁部32°, 脊部~底部5°	多孔, 空孔径 0.5cm	28	

SI67 穫穴住居跡(第220~221図)

[位置・確認面] 3A区北端部で確認した。

[重複] SI77に切られる。

[規模・形態] 東西に主軸をとり、一辺が3mの正方形に近い隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-64°-Eである。

[堆積土・構築土] 11層に分層した。1層は住居埋土、2層は床面直上、あるいは床面で認められたグライ化を起こした堆積である。3・4層はカマド内の埋土で、5層は焚き口の前面に広がる炭化物の層である。6・7層は煙道内の埋土、8層は周溝内の埋土、9・10層はカマドの構築土にある。11層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、削平によって上部は大きく失われており、壁高は5cm~20cmが残存するのみである。

[床面] 11層上面、あるいは2層を床面とする。顕著なグライ化が認められた。

[柱穴] 北壁沿いにP1を確認した。埋土には焼土と炭化物をブロック状に含んでいる。

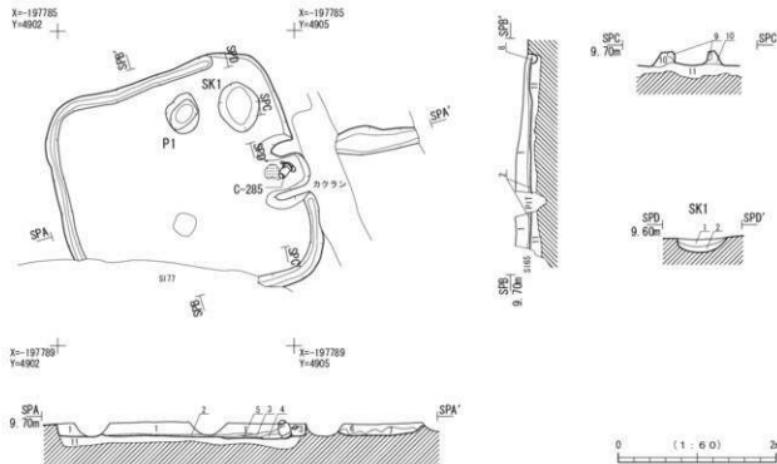
[周溝] 壁際で検出された。北東コーナー付近、SK1の周囲が途切れている。幅10cm~12cm、深さ5cm~11cmである。

[カマド・煙道] 東辺中央部に設けられており、両袖部は東壁に対して直行する。外幅90cm、奥行56cmで、底面中央部からは外面が被熱した甕が出土しており、これを支柱としていた可能性がある。煙道は先端部と中程が失われており、長さ142cmが残存する。煙道の幅は28cm、上部も削平を受けており、確認された深さは5cm前後である。

[その他の施設] 北東コーナーよりSK1を検出した。炭化物を人為的に埋めた痕跡が認められる。

[掘り方] 中央部から主辯部へ向かってなだらかに低くなっている。底面の比高差は5cmである。

[出土遺物] 甕2点を掲載した。



第220図 SI67竪穴住居跡

SI67 塵土記録表

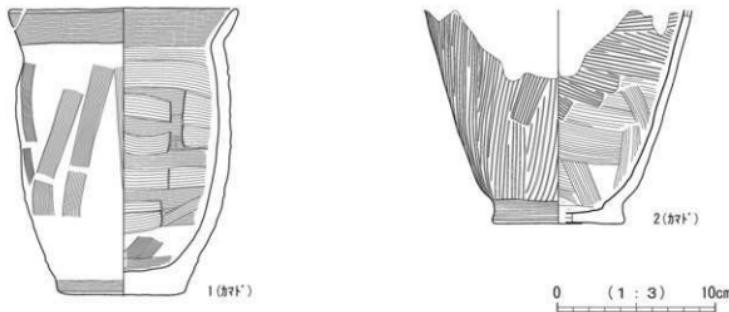
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
堆 土	1	10YR4/4 細色	砂質シルト	φ1cm内の堆山ブロックを多量、灰化物・他土ブロックを少量、為堆土とみられる
	2	10YR4/2 灰青細色	シルト	床面とのグライ層
	3	10YR4/4 細色	砂質シルト	φ3cm内の幾十ブロックを多く含む
カマド	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	φ1cm内の焼土ブロックを多量含む、灰を含む
	5	10YR2/1 黒色	シルト	灰化物質
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰化物質を多量
ホマド・煙道	7	10YR5/6 黑褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロックを微量含む
	8	10YR4/4 細色	シルト	地山小プロックを多く含む
	9	5YR3/2 明赤褐色	他成土	灰化物質
ホマド・ソーフ	10	10YR4/2 灰青細色	シルト	灰化物質混、5YR3/3燒土層
	11	2.5Y3/3 細オリーブ褐色	砂質シルト	10YR3/3プロック混

SI67 施設埋土記録表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 細褐色	シルト	φ2cm内の焼土ブロック・灰化物ブロック多量に含む
	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色シルト層を層状にはさむ、人為堆土
SK1	2	10YR2/1 黒色	シルト	灰化物質を層状にはさむ、まくろ、人為堆土

SI67 施設埋土記録表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	地円形	52 × 42	12		SK1	方形	60 × 52	22	



第221 図 SI67竪穴住居跡出土遺物

回数	登録番号	出土遺構	層位	種 別	器 様	口径×底径×高さ(cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	備 考	写真回数
1	C.285	SI67	IV	土器部	素	14.5 × 8.1 × 13.1 ×(0.0) × (13.5)	II壁部外ガラフ、鋸部内ガラフ、底部ロコハ、本葉裏 鋸部アラ、底部ハタリ	II壁部外ガラフ、鋸部～底部ハタリ		24
2	C.287	SI67	IV	土器部	素			鋸部ガラフ→アラ、底部ハタリ		24

SI68 竪穴住居跡(第222~224図)

[位置・確認面] 3A区北半部で確認した。

[重複] SI60、SI62に切られる。

[規模・形態] 北西から南東方向を主軸とし、規模は主軸方向が4.01mで、直行方向の残存部は最大1.3mである。[方向] 主軸方位はN-41°-Wである。

[堆積土・構築土] 18層に分層した。1~6層は住居埋土で、全体に炭化物を含んでいる。7~11層は煙道内の埋土である。12層は周溝内の埋土、13~14層はカマドの構築土にあたり、15層はカマドの底部に残る焼土の層である。16~18層は掘り方の埋土である。

[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は34.7cm ~ 39cmが残存する。立ち上がりは勾配が少なく垂直に近い。

[床面] 16~17層上面を床面とする。

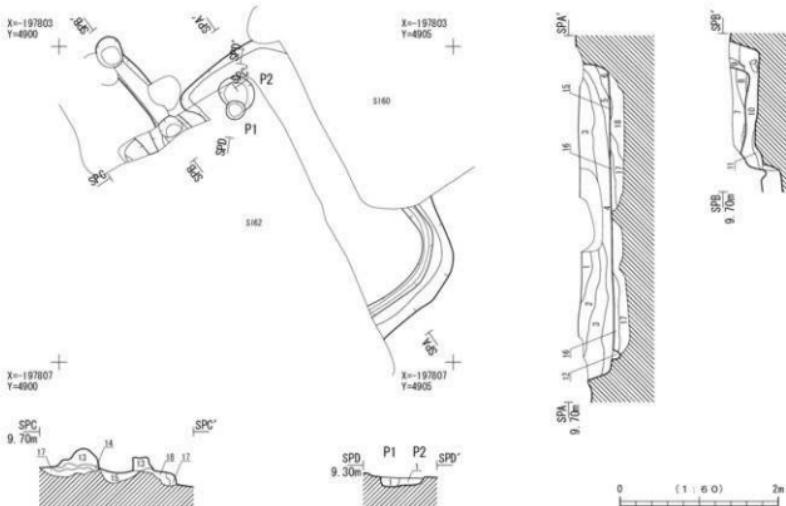
[柱穴] 北側コーナー部付近で検出されたP1、P2は掘り込みの浅いビットで、柱穴とは考え難い。P1の埋土には、焼土・炭化物が多く含まれる。

【周溝】 南東コーナー付近でのみ確認された。壁際から20cm程度内側に設けられている。幅14cm～16cm、深さは6.4cm～7.2cmである。

【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられているものと考えられる。焚き口から両袖の中程までが失われており、詳細は不明である。煙道は長さ154cm、幅25cmで、底面は先端部へ向けて深くなっている、深さ28.3cm～32.6cmである。

【掘り方】 大部分が失われておらず、詳細は不明である。

【出土遺物】 土師器壺1点、甕2点、砥石1点を掲載した。1は口縁と体部の境目に弱い段を持つ。2は小型の球刷の甕。3は長胴甕である。



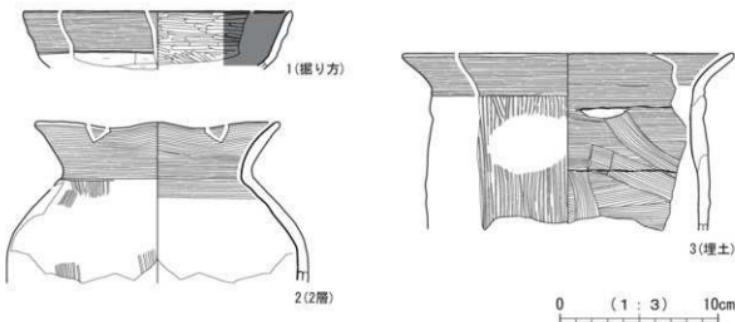
第222図 SI168堅穴住居跡

S168 墓土記録表

層	層	主色	土性	備考
灰土	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰化物・焼土粒を少含む
	2	10YR2/3 黄褐色	シルト	φ 1cm内の幾十・数 dozen ブロックを解状に多く含む
	3	10YR4/4 黄褐色	シルト	灰化物・焼土ブロックを少含む
	4	10YR4/4 黄褐色	シルト	φ 1cm内の堆山ブロックを微量含む、灰・焼土ブロックを微量含む、人為埋土の可能性あり
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
2マド・煙道	6	10YR4/6 黄褐色	シルト	
	7	10YR4/4 黄褐色	シルト	焼土ブロックを微量含む
周溝	8	10YR2/3 にぶい黄褐色	シルト	
	9	10YR2/3 黄褐色	シルト	灰化物粒を少含む
	10	10YR4/4 黄褐色	シルト	φ 1cm内の幾十・ブロックを全体にまばらに含む
カマド	11	10YR2/2 黑褐色	シルト	φ 1cm内の幾十・ブロックを多く含む灰化物層
	12	10YR2/4 黄褐色	シルト	堆山ブロックが多く含む
甕	13	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	灰化物層を少含む
	14	10YR2/4 黄褐色	シルト	灰化物・焼土ブロックを少量含む
掘り方	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	φ 1cm内の幾十・ブロック・堆山ブロックを少量
	16	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	灰化物層を少量
	17	10YR2/4 黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む
	18	10YR4/4 黄褐色	砂質シルト	

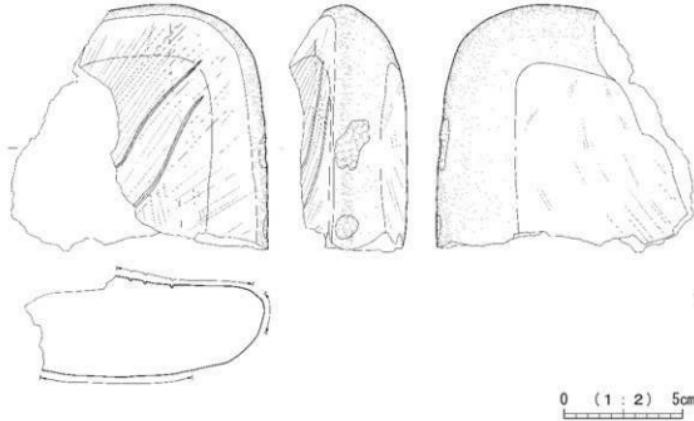
SI68 施設埋土記録					
部 位	層 位	土色	土 性	備 考	
P1	I	10YR4/4 黄褐色	シルト	炭化物粒を多量、他土ブロックを少量含む	
P2	I	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	φ2cm内の塊山ブロックを多く含む	

SI68 施設埋土記録			
遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)
P1	円形	25×24	14
P2	円形	45×43	13



第223図 SI68竪穴住居跡出土遺物(1)

回数 番号	登録番号	出土遺構	層位	種 別	器 物	口径×底径×高さ(cm)	外面 溝 型	内面 溝 型	備 考	写真 写真
1	C292	SI68	掘り方	土器器	环	(16.8)×-(3.7)	口縁部3カ所、体部4カ所	口縁部3カ所、体部4カ所	内面黑色処理、稍反張	74
2	C292	SI68	2層	土器器	束	(15.5)×-(11.1)	口縁部3カ所、側部4カ所	口縁部3カ所、側部4カ所	小斜面多量に見入	74
3	C293	SI68	掘り	土器器	束	(21.0)×-(10.8)	口縁部3カ所、側部4カ所	口縁部3カ所、側部4カ所	内面黑色処理、稍反張	74



第224図 SI68竪穴住居跡出土遺物(2)

回数 番号	登録番号	出土地点	層位	施設	種 別	器 物	分類	長さ×幅×厚さ cm	重量(g)	石 材	備 考	写真 写真
1	K-6-029	SI68	—	3A	石製品	砥石	1A2	9.8×10.8×4.3	200.59	石英安山岩	欠損品、自然縫、板状、無孔、自然面あり	75

SI69 穫穴住居跡(第225図)

【位置・確認面】 3A区北端部、東側の搅乱沿いで、住居の西側半分を確認した。東側の大部分は、搅乱により失われている。

【重複】 SI70、SI74、SI75、SI76を切る。

【規模・形態】 南北を主軸にとり、規模は主軸方向で3.7mである。主軸に直行する東西方向は最大で2mが残存する。平面形は隅円形を呈するものと考えられる。

【方向】 西壁を基準とした主軸方位は、N-4°-Wである。

【堆積土・構築土】 7層に分層した。1層は住居埋土である。2・3層は竪穴北側の搅乱の縁から検出された煙道の痕跡と考えられる。4・5層は5層を主体として周溝内の埋土にあたり、6・7層は掘り方の埋土である。

【壁面】 主としてSI75の埋土を壁面としており、壁高は19cm～39cmである。立ち上がりはやや外反する。

【床面】 6・7層上面を床面とする。

【柱穴】 P1～P3を検出した。P2～P3が西側の主柱穴にある。柱間は約220cmである。

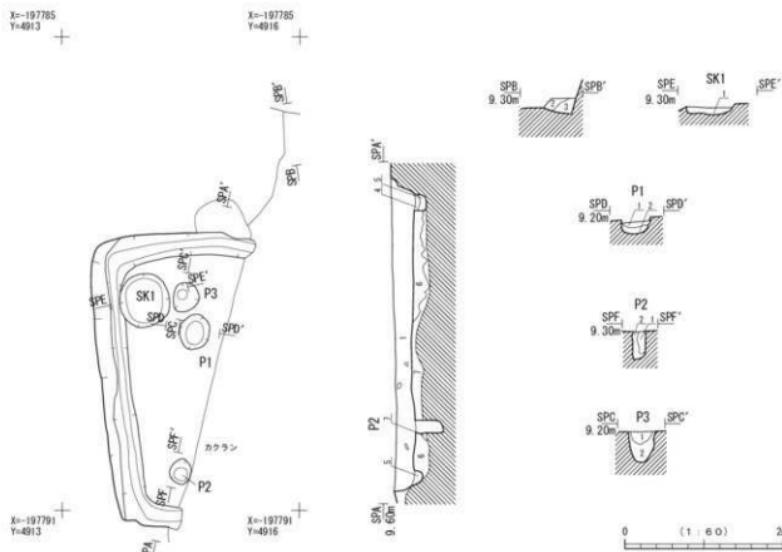
【周溝】 残存部では壁際全周で確認された。西壁沿いでは壁の立ち上がりと勾配が異なり、間に後を成す形となる。

【カマド・煙道】 煙道の一部が搅乱沿いから検出された。北辺に設けられていたものと推定できる。

【その他の施設】 北西コーナー付近に、地山ブロックと焼土が落ち込んだ浅い掘り込みを検出した。

【掘り方】 大部分が失われており、詳細は不明だが、北東コーナー付近がやや低くなっている。

【出土遺物】 掲載した遺物はない。



第225図 SI69竪穴住居跡

SI69 備土試験表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR3/3 黄褐色	砂質シルト	地山小ブロックを少含む、炭化物・燒土ブロックを少含む
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロックを多量、にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む
	3	10YR3/4 黄褐色	シルト	φ 1cm内の炭化物ブロックを多く含む
周溝	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	地山ブロックを少量
	5	10YR3/3 黑褐色	シルト	φ 1cm内の地山ブロックを少量
	6	10YR2/3 黄褐色	シルト	地山ブロックを少含む
掘り方	7	10YR4/4 黒色	砂質シルト	暗褐色シルトブロックを少量、地山ブロックを零

SI69 施設埋土試験表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	地山小ブロックや多く
	2	10YR4/4 黑色	砂質シルト	地山ブロック多量、暗褐色シルトブロック少量
P2	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	(柱重)
	2	10YR4/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	10YR3/4 黄褐色シルトが混入
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	10YR3/4 黄褐色がまだに混入
SK1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	φ 1cm内の地山ブロック、炭化物・燒土を少量

SI69 施設埋土試験表

造形名	平面図	規格(cm)	深さ(cm)	備 考	造形名	平面図	規格(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形	44 × 38	18		P2	円形	40 × 32	45	
P2	円形	32 × 28	25		SK1	円形	64 × 62	15	

SI70 積穴住居跡(第226～227図)

〔位置・確認面〕 3A区北端付近、東側の擾乱沿いで西側コーナー部分のみを確認した。住居の大部分は擾乱により失われている。

〔重複〕 SI69に切られる。

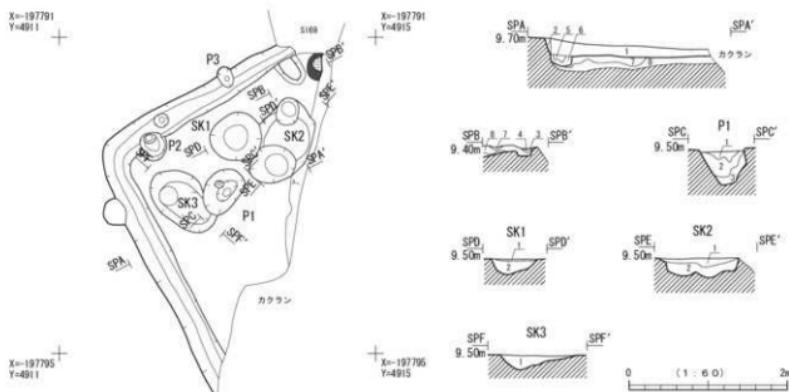
〔規模・形態〕 確認できた範囲は、西壁3.2m、北壁3mのみである。平面形は隅円方形を呈するものと考えられる。

〔方向〕 西壁を基準とした主軸方位はN-29°-Wである。

〔堆積土・構築土〕 8層に分層した。1・2層は住居埋土である。3・4層はカマド底面の被熱部位にあたる。5・6層は周溝内の埋土であり、5層は壁材の痕跡とも考えられる。7・8層は掘り方の埋土である。

〔壁面〕 IV層中を壁面としており、壁高は15.8cm～23.5cmが残存する。壁の立ち上がりはやや勾配をもつものの、垂直に近い。

〔床面〕 7・8層上面を床面とする。



第226図 SI70 積穴住居跡

SI70 理土記表

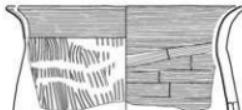
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
理土	1	10YR2/3 嫩褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロック多量、炭化物を少量含む。人糞?
	2	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	地山ブロック富、骨粉のみの土?
カマド	3	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	地山の層(下べて)
	4	10YR2/4 嫩褐色	シルト	焼土ブロック・粒状炭化物が混入
周溝	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	
	6	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	地山シルトブロックを少量
掘り方	7	10YR2/3 嫩褐色	シルト	地山ブロックを多く含む
	8	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	地山ブロック十避

SI70 施設埋土記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを少量含む
	2	10YR4/6 にぶい 黄褐色	砂質シルト	褐褐色シルトブロックを多く含む
	3	10YR4/6 黄褐色	砂質土	炭化物较少量
P2	1	10YR2/3 嫩褐色	シルト	φ2cm内の地山ブロックやや多く含む
P3	1	10YR2/3 嫩褐色	シルト	炭化物较少量、P1に相違なししきややい部分あるが不明瞭
	2	10YR4/6 にぶい 黄褐色	砂質シルト	下半に黒褐色シルト層はさむ
SK1	1	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	φ2cm内の地山ブロックをやや多く、φ2cm内の焼土ブロック多量
	2	7.5YR4/6 黄褐色	砂質シルト	
SK2	1	10YR4/6 黄褐色	砂質シルト	φ2cm内の地山ブロックを少量、焼土ブロックを微量含む
	2	7.5YR4/6 黄褐色	砂質シルト	φ2cm内の地山ブロックをやや多く、φ2cm内の焼土ブロック多量、炭化物ブロックを少量
SK3	1	10YR2/3 嫩褐色	粘性シルト	φ2cm内の地山ブロックを、炭化物ブロック少量、一部にφ15cmもの地山ブロック含む

SI70 施設軽量表

造形名	平面図	幅(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	楕円形	62 × 43	47.8	
P2	円形	37 × 36	19.7	
P3	楕円形	36 × 17	55.5	



1(埋土)

0 (1 : 3) 10cm

第227図 SI70 穴穴住居跡出土遺物

回数	登録番号	出土遺構	層位	種 別	基 標	口径×底径×深度(cm)	外 四 面 型	内 四 面 型	備 考	写 真
1	C294	SI70	理土	土器器	東	(35.2) × (8.6) × 6.6	[1]縦断2つアリ、横断2つアリ	[1]縦断2つアリ、横断2つアリ		75

【柱穴】 P1～P3を確認した。形状および位置関係から、P1は西側の主柱穴にあたるものと推定できる。P2、P3は壁柱穴の可能性が高い。

【周溝】 残存部を通して、壁際で確認できた。底面にはピットが認められる。幅10cm～30cm、深さ11cm～11.4cmである。

【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられていたものと推定できる。左袖のみが確認されており、形状は北壁に直行しているが、壁側には周溝が通る形となっている。

【その他の施設】 SK1～SK3を確認した。SK2とSK3からは焼土・炭化物が密に検出された。

【掘り方】 詳細は不明だが、底面は、中央部から周辺部へ緩やかに傾斜するものとみられる。

【出土遺物】 土師器壺1点を掲載した。

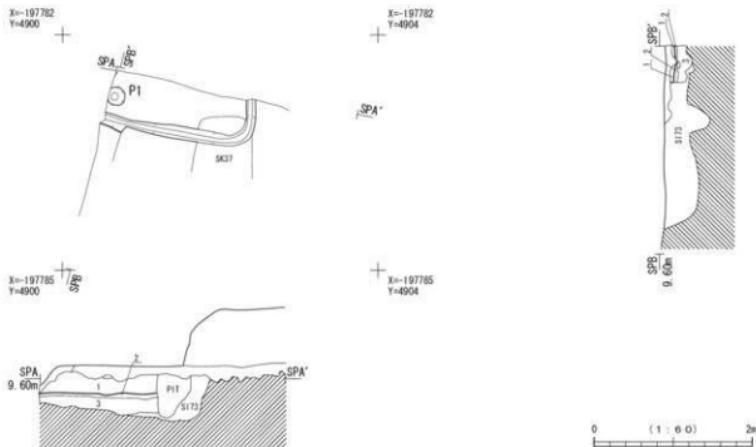
SI71 穴穴住居跡(第228～229図)

【位置・確認面】 3A区北西の端部で住居の南東コーナー部のみを確認した。大部分は3B調査区の範囲となる。詳細については3B調査区にて報告するものとしたい。

【重複】 SI73に切られる。

【堆積土・構築土】 3A調査区の段階では3層に分層した。1層は住居埋土、2層は貼床、3層は掘り方の理土にあたる。

- [壁面] SI73の埋土を壁面とする。現時点では詳細は不明。
- [床面] 2層を床面とする。床面上には炭化物が認められた。
- [柱穴] P1を検出した。全体との位置関係から再度総括したい。
- [周溝] 幅10cm~18cmの溝を確認した。
- [出土遺物] 土器部壺1点を掲載した。

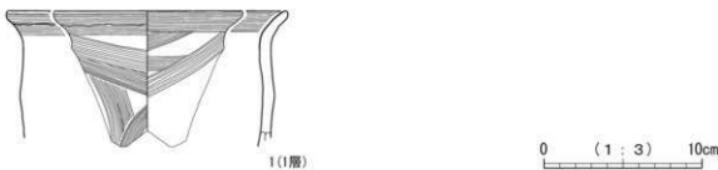


第228図 SI71 穫穴住居跡

SI71 墓土記録表				備考
部 位	層 位	土 色	土 性	
埋土	1	10YR4/4 壤色	砂質シルト	φ 1cm内の施山プロックを多量含む、人為堆
粘土	2	10YR4/4 壤色		床面下部、炭化物プロックを一部層底にはさむ
側り方	3	10YR4/3 にじみ黄褐色	砂質シルト	φ 1cm内の施山プロックを多量含む、炭化物プロックを少量含む

SI71 地質理土記録表				備考
部 位	層 位	土 色	土 性	
P1	1	10YR4/4 壤色	砂質シルト	φ 1cm内の施山プロックを多量含む、人為堆
	2	10YR4/4 壤色	砂質シルト	炭化物プロックを一部層底にはさむ、床面下部
	3	10YR4/3 にじみ黄褐色	砂質シルト	φ 1cm内の施山プロックを多量含む、炭化物プロックを少量含む

遺物名	平面図	断面(cm)	実寸(cm)	備考
P1	円形	22×20	20	



第229図 SI71 穫穴住居跡出土遺物

図版 番号	登録番号	出土遺物	層位	種 別	器 様	口徑×底径×器高(cm)	外面調査	内面調査	備 考	写真 番号
1	C-295	SI71	1層	土器	壺	(17.8) × (8.6)	口縁部凹けび、胴部(ハリ)	口縁部凹けび、胴部(ハリ)		25

SI72 壁穴住居跡(第230~233図)

【位置・確認面】 3A区北端部でカマド周辺および西側コーナーを確認した。大部分が上面の遺構によって失われている。

【重複】 SI64、SI65、SI77に切られる。

【規模・形態】 主軸を北西から南東にとるが、規模は両軸ともに搅乱により不明である。北壁は3mが、西壁は4.8mが残存する。形状は隅円方形を呈するものと考えられる。

【方向】 カマドの主軸方位はN48°Wを向く。

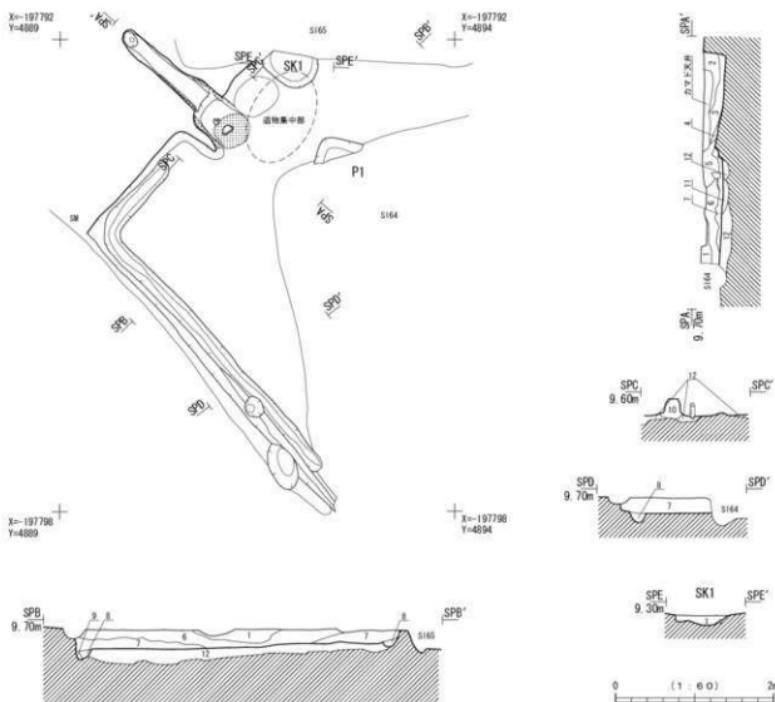
【堆積土・構築土】 12層に分層した。1・5~7層が住居埋土である。2~4層が煙道内の埋土にあたり、天井も残存している。8・9層は周溝内の埋土である。10層はカマドの構築土で、11・12層は掘り方の埋土である。

【壁面】 IV層中を壁面としているが、残存箇所も上部を搅乱されており、立ち上がりの形状は不明である。残存する壁高は16.3cm~27cmである。

【床面】 11層を床面とする。

【周溝】 西壁から北壁の直下で確認された。南北側コーナー付近では壁面からやや離れている。

【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられていたものと考えられる。左袖のみが残存しており、形状は壁に対して直



第230図 SI72 壁穴住居跡(1)

SI72 備土試験表

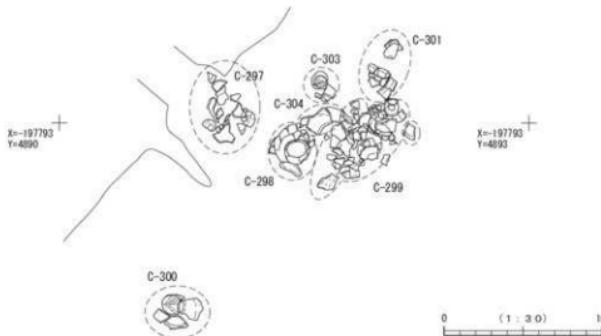
部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10Y3/4 姫褐色	シルト	地山ブロックをやや多く含む、人為埋土
	2	10Y3/3 にぶい黄褐色	シルト	φ 1cmの地上土ブロックを少量含む
	3	10Y3/2 黄褐色	シルト	厚さ 1cm程の天井崩落後面を層状にはさむ
	4	10Y3/2 黒褐色	シルト	微量で地上土ブロックを少額含む
	5	10Y3/3 にぶい黒褐色	シルト	φ 2cm内の地山ブロックを多量含む
	6	10Y3/4 褐色	砂質シルト	
	7	10Y3/2 黄褐色	シルト	地山ブロック十層
則 滝	8	10Y3/3 にぶい黄褐色	シルト	地山ブロック十層
	9	10Y3/4 褐色	砂質シルト	
カマド・フデ	10	10Y3/2 黒褐色	粘性シルト	炭化物粒を微量
掘り方	11	5Y3/4 姫褐色	砂質シルト	地表面
	12	10Y3/3 黑褐色	シルト	大漢埋土(黒褐色-褐色シルトブロック)を多く含む

SI72 施設埋土試験表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10Y3/3 黒褐色	シルト	φ 3cmの地山ブロックを多量含む
SK1	1	10Y3/2 黑褐色	シルト	地山ブロックを多量含む

SI72 施設断面図表

遺構名	平面図	規模(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	方形(+) (28) × (23)	13.6		SK1 (椭) 地内円形 (20) × (36) 8.2



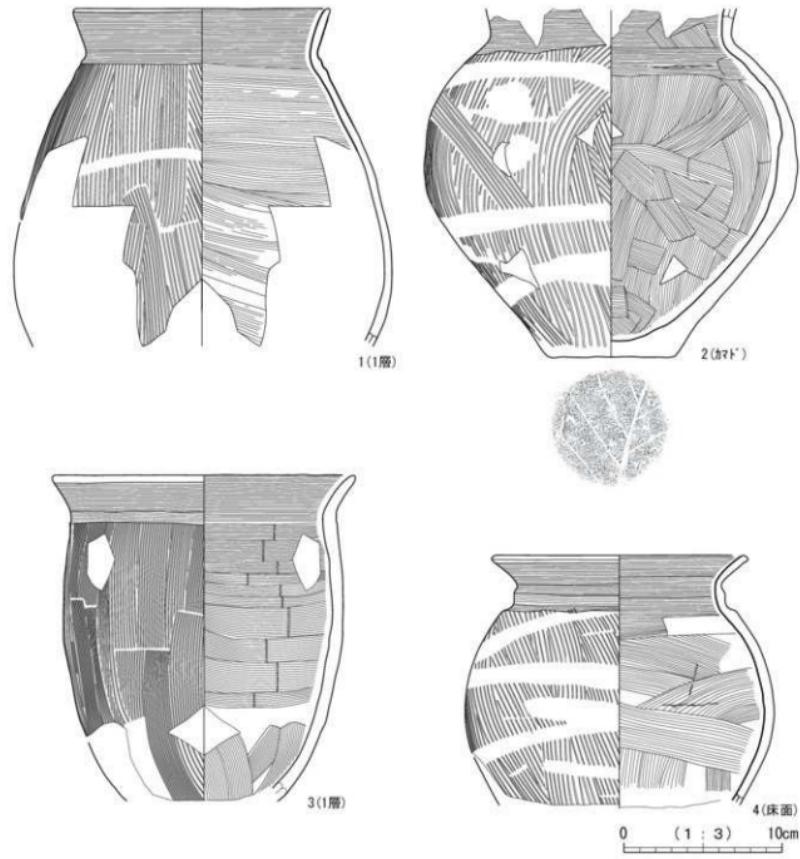
第231図 SI72 積穴居跡(2)

行する。煙道は長さ 132cm、幅 25cm で、底面は先端へ向かって低くなっている。深さは 17.7cm ~ 25.7cm を計る。また、先端部は平面 19cm × 16cm、深さ 27cm のピット状に窪む。

【その他の施設】 カマドの右側から検出された SK1 の上面からは遺物が集中して出土した。

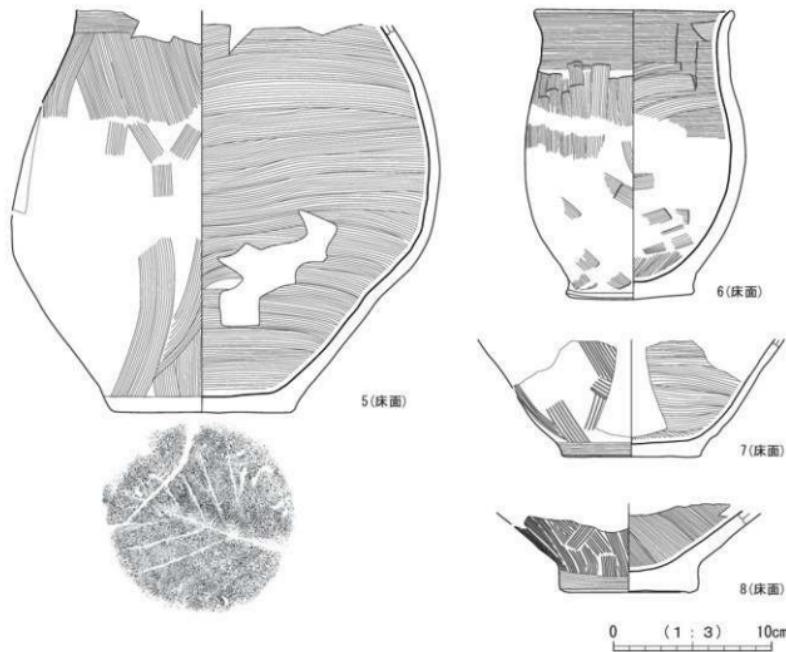
【掘り方】 大部分が破壊されており、詳細な形状は不明である。

【出土遺物】 土器部窓 8 点を掲載した。1 はやや胴部中央が張り、直口に近いやや外傾する口唇部にいたる。器形は壺に近いがヘラナデのみの内部調整から窓とした。2~4 は中央部よりやや上位に最大径を持つ。6 は頭部が直立し、先端で僅かに外反する。口唇部にいたる小型の窓である。



第232図 SI72竪穴住居跡出土遺物(1)

国版 番号	登録番号	出土遺構	類別	種 別	器 種	口径×底径×高さ(cm)	外 面 調 査	内 面 調 査	備 考	写真 図版
1	C.298	SI72	1層	土師器	甕	(16.2) × × (21.3) → (8.0) × (22.0)	[1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△ [1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△	[1]縦部3コリ、胴部△+△ [1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△		75
2	C.297	SI72	井戸?	土師器	甕					75
3	C.296	SI72	1層	土師器	甕	(19.0) × × (26.0)	[1]縦部3コリ、胴部△+△ [1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△	[1]縦部3コリ、胴部△+△ [1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△		75
4	C.299	SI72	床面	土師器	甕	16.4 × × (15.8)	[1]縦部3コリ、胴部△+△	[1]縦部3コリ、胴部△+△		75
5	C.300	SI72	床面	土師器	甕	→ 11.4 × (25.4)	[1]縦部3コリ、胴部△+△+△、底部木葉痕	[1]縦部3コリ、胴部△+△		76
6	C.301	SI72	床面	土師器	甕	12.4 × 8.0 × 18.4	[1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△	[1]縦部3コリ、胴部△+△+△+△		76
7	C.303	SI72	床面	土師器	甕	→ 9.8 × (7.1)	胴部△+△、底部木葉痕	胴部~底部△+△		76
8	C.304	SI72	床面	土師器	甕	→ 8.8 × (5.6)	胴部△+△、底部△+△	胴部~底部△+△		76



第233図 SI 72 積穴住居跡出土遺物(2)

SI 73 積穴住居跡(第234図)

【位置・確認面】 3A区北西の端部で住居の南東コーナー部のみを確認した。大部分は3B調査区の範囲となっており、詳細については3B調査区にて報告するものとしたい。

【重複】 SI 71に切られる。

【堆積土・構築土】 6層に分層した。1・2層は住居埋土、3層は周溝の埋土、4～6層は掘り方の埋土である。現時点でも、人為的な埋め戻しが行われた可能性を指摘できる。

【壁面】 IV層中を壁面としており、壁高は18cm～34cmが残存する。

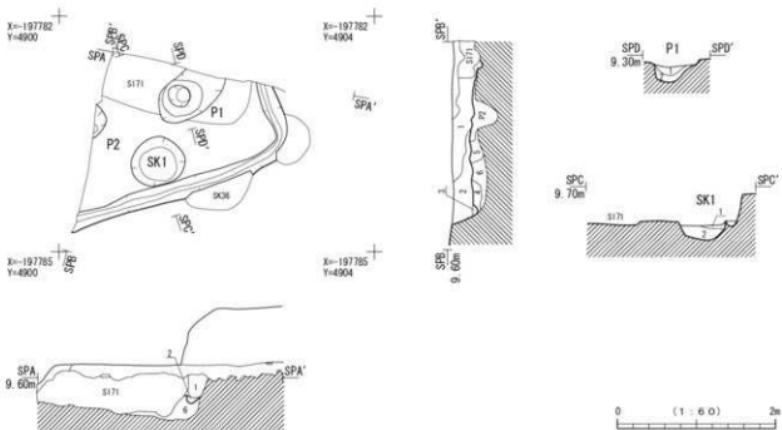
【床面】 4層上部が床面と考えられるが、不明瞭である。

【柱穴】 P 1は、位置と形状から、南東側の主柱穴となる可能性が高い。

【周溝】 壁際で確認した。幅10cm～16cm、深さ5cm～7cmである。

【その他の施設】 南壁際で、SK 1を確認した。

【出土遺物】 掘取した遺物はない。



第234図 SI73整穴住居跡

SI73 墓土記表

部 位	層 号	土 色	土 性	備 考
埋 土	1	10YR4/3 黄褐色	砂質シルト	φ2cm内の地山ブロックを多量含む。人骨頸、炭化物・焼土ブロックを少量含む
	2	10YR4/4 咖色	砂質シルト	
固 滲	3	10YR4/4 咖色	シルト	
削り方	4	7.5YR3/2 黑褐色	砂質土	地山ブロックを壁間にはさむ。焼土ブロックを多く含む
	5	10YR4/6 咖色	砂質土	
	6	10YR4/4 咖色	砂質土	地山ブロックを多く含む

SI73 施設埋土記表

部 位	層 号	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	
	2	10YR4/4 咖色	砂質土	
P2	-	-	-	
	-	-	-	
SK1	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	φ2cm内の地山ブロックを多く含む
	2	10YR3/4 黄褐色	砂質シルト	

SI73 施設断面表

遺構名	平面図	縦幅(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	円形	(70) × 54	60	
P2	-	(30) × (10)	29	

遺構名	平面図	縦幅(cm)	深さ(cm)	備 考
SK1	円形	68 × 60	23	

SI74 穴住居跡(第235~237図)

[位置・確認面] 3A区北端部で確認した。

[重複] SI75、SI76を切り、SI69に切られる。

[規模・形態] 南北を主軸としており、主軸方向で3m、主軸直行方向で3.3mの左右に広い隅円方形を呈する。

[方向] 主軸方位はN-5°-Wである。

[堆積土・構築土] 16層に分層した。1~3層は住居埋土で全体に焼土・炭化物を含んでいる。4層は煙道天井部の崩落土と考えられ、5~6層は煙道内の埋土である。7~8層はカマド内および焚き口の前面に広がる灰と炭化物の堆積である。9層が貼床の層にあたり、11~12層は周溝内の埋土である。13~14層はカマド底面の被熱部位と考えられる。15層はカマドの構築土で、16層は掘り方埋土にあたり。

[壁面] IV層中およびSI76の埋土を壁面としており、壁高は22cm~39cmが残存する。立ち上がりはほぼ垂直となる。

[床面] 16層上面あるいは9層を床面とする。

【柱穴】 P1～P3を検出した。P1、P2は位置、および形状から主柱穴とも考えられる。

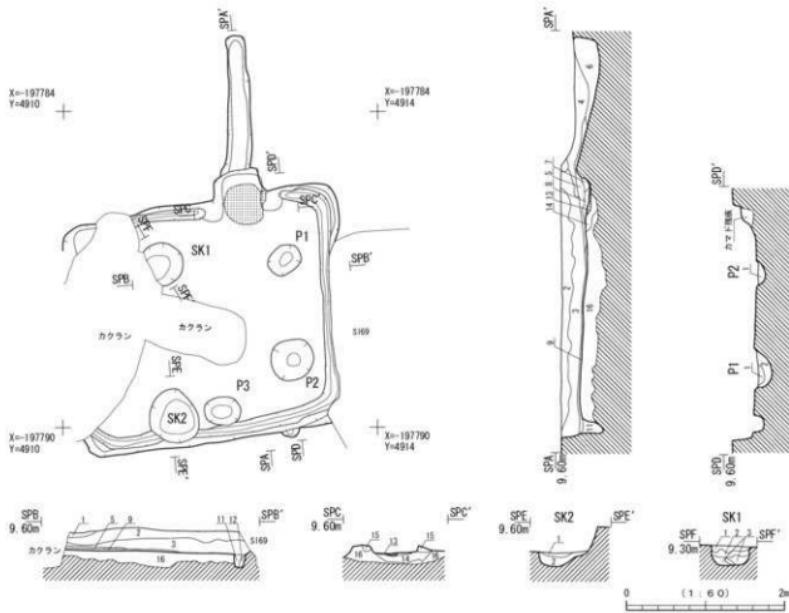
【周溝】 コーナー付近ではわずかに壁から離れて設けられていた。北西コーナー部分は途切れているものと考えられる。幅12cm～20cm、深さ6cm～15cmを計る。

【カマド・煙道】 北辺の東側に設けられている。燃焼部は壁の外側に張り出しており、床面の被熱状況からも、焚き口は壁沿いに位置するものと考えられる。燃焼部の幅は50cm、奥行は80cmである。煙道の長さは168cmで、幅24cm。底面は先端へ向けて低くなっている。深さは平均で29cmを計る。

【その他の施設】 SK1、SK2を確認した。共に、内部からは焼土・炭化物が密に検出された。

【掘り方】 カマドの焚き口前方の底面に、土坑状の落ち込みが認められた。比高差は14cm前後である。

【出土遺物】 土師器壺3点、壺1点、須恵器壺3点、蓋1点、甕1点、砥石1点を掲載した。1・3は平底の壺。2は1・3より古手の器形。6は底部回転系切り後外周回転ヘラケズリ整形を施す。7は小型の壺、8は長頸瓶の蓋であろう。



第235図 SI174竪穴住居跡

SI74 地質記録

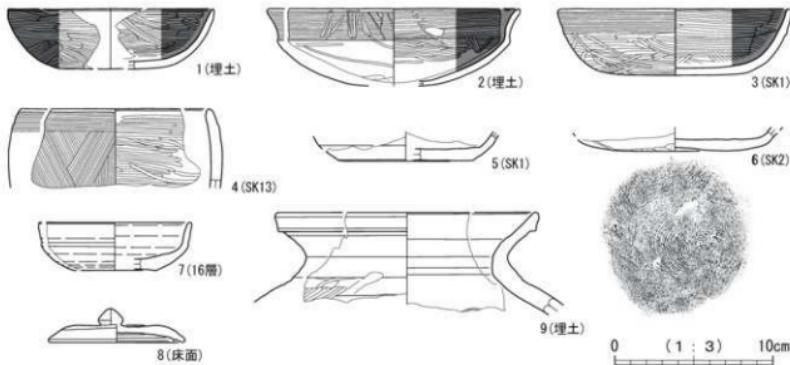
部 位	層 段	土 色	土 性	備 考
埋土	1	10YR2/3 嫩褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロックを多く含む、炭化物・燒土ブロックを少含む
	2	10YR2/3 嫩褐色	シルト	
	3	10YR2/3 嫩褐色	シルト	炭化物・燒土ブロックを少含む
カマド・煙道	4	10YR2/4 嫩褐色	シルト	φ3cm内の地山ブロックを多く含む
	5	10YR1/7.1 黒色	シルト	炭化物
	6	10YR1/2 灰青褐色	砂質シルト	φ1cm内の地山ブロックを多く含む、灰を含む
カマド	7	10YR1/2 灰青褐色	砂質シルト	地山ブロックを多く含む
	8	10YR1/1 灰灰褐色	シルト	微小地山ブロックを多く含む、灰を含む
	9	10YR1/2 灰青褐色	シルト	床面直上層
粘土	10	10YR1/4 黑色	シルト	地山層と燒土ブロックの崩落瓦層
	11	10YR2/3 嫩褐色	シルト	地山・燒土ブロックを少含
均塗	12	10YR1/4 浅褐色	砂質シルト	地山微小層を少含
	13	7.5YR2/3 嫩褐色	燒土層	炭化物层
カマド・ソダ	14	10YR2/2 嫩褐色	シルト	炭化物层
	15	2.5Y1/2 灰赤色	砂質シルト	炭化物层
	16	10YR2/3 嫩褐色	シルト	10YR5/4に並ぶ黄褐色のブロック层、燒土層・炭化物层

SI74 施設地質記録

部 位	層 段	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/3 嫩褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロック・燒土ブロックを多く含む
	2	10YR2/4 嫩褐色	シルト	燒土ブロックを多量
P2	1	10YR4/3 にぶい嫩褐色	シルト	炭化物层・微层
	2	10YR4/3 にぶい嫩褐色	シルト	φ2cm内の地山ブロックを多く含む
P3	1	7.5YR2/3 嫩褐色	シルト	炭化物层
	2	10YR1/3 にぶい嫩褐色	シルト	炭化物层
SK1	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	(炭化物层) φ2cm内の地山ブロック・燒土ブロックを多く含む
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	(炭化物层) φ2cm内の地山ブロック・燒土ブロックを多く含む
	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロック・炭化物层を多く含む
SK2	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	φ1cm内の地山ブロック・炭化物层を多く含む
	2	10YR4/3 にぶい嫩褐色	砂質シルト	微少地山ブロック・炭化物层を少含

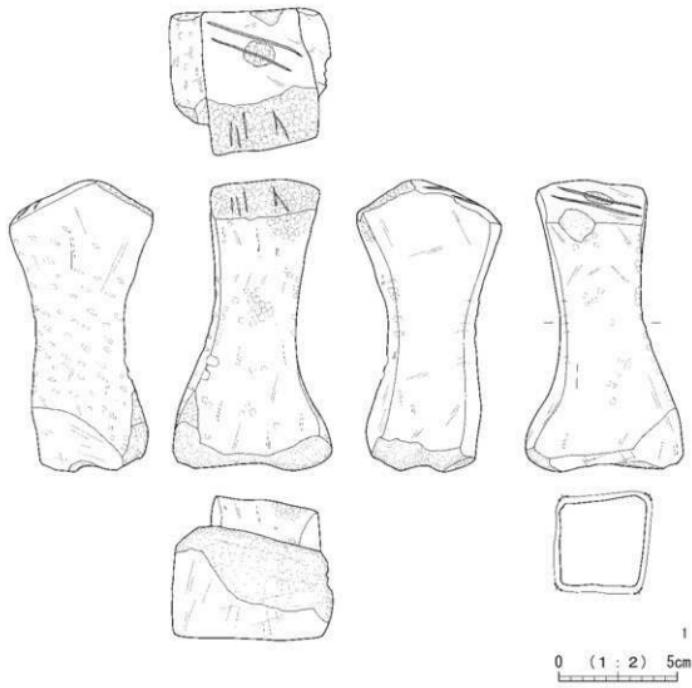
SI74 施設地質素描

遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考	遺構名	平面図	範囲(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	平面図	42×32	12.2		SK1	円形	34×(40)	22	
P2	円形	32×50	21.8		SK2	円形	70×34	20	
P3	細円形	44×34	12.4						



第236図 SI74 穴住居跡出土遺物①

回数 番号	出土地標	層段	種 別	器 形	1口径×底径×高さ(cm)	外 表 調 査	内 表 調 査	備 考	写真 番号
1	C-305	SI74	埋土	土器	片	(13.0) × (5.6) × (6.0)	11縁部～底部φ2.0cm 11縁部～底部φ2.0cm	11縁部～底部φ2.0cm 11縁部～底部φ2.0cm	内外面黒色毛理
2	C-306	SI74	埋土	土器	片	(6.0) × (3.9)	11縁部φ2.0cm～φ2.0cm 11縁部φ2.0cm～φ2.0cm	11縁部～底部φ2.0cm 11縁部～底部φ2.0cm	内外面黒色毛理
3	C-308	SI74	SK1	土器	片	14.8 × 9.8 × 4.2	11縁部φ2.0cm 11縁部～底部φ2.0cm	11縁部～底部φ2.0cm 11縁部～底部φ2.0cm	内外面黒色毛理
4	C-310	SI74	SK13	土器	片	(13.0) × (5.6) × (6.0)	11縁部φ2.0cm 11縁部φ2.0cm	11縁部～底部φ2.0cm 11縁部～底部φ2.0cm	26
5	E-009	SI74	SK1	陶器	片	~(7.0) × (4.0)	9.0調査 9.0調査、底部斜面系切り→φ9.0cm	9.0調査	26
6	E-071	SI74	SK2	陶器	片	~8.5 × (4.1)	9.0調査 9.0調査、底部斜面系切り→外側手持ちφ9.0cm	9.0調査	26
7	E-073	SI74	16層	陶器	片	(9.6) × (5.3) × 3.1	9.0調査 9.0調査、底部斜面系切り→外側手持ちφ9.0cm	9.0調査	26
8	E-072	SI74	床面	陶器	片	8.4 × 2.2	9.0調査 9.0調査、大舟形斜面系切り 9.0調査、底部斜面系切り	9.0調査、8.0cm有 9.0調査、底部斜面系切り	26
9	E-070	SI74	埋土	陶器	片	(16.0) × ~ (6.0)	9.0調査 9.0調査、底部φ2.0cm 9.0調査、斜面平行き目	9.0調査、底部φ2.0cm 9.0調査、斜面平行き目	26



第237図 SI74豊穴住居跡出土遺物(2)

固形 番号	袋詰番号	出土地元	層位	地区	種 因	部 位	分類	長さ×幅×厚さ mm	重量(g)	石 材	備 考	写真 回数
1	Kd-032	SI74	埋土	3A	石製品	砾石	B B2	12.3×6.9×6.1	492.24	砂岩	完形品、面取り、柱状、無孔、自然面あり	26

SI75 豊穴住居跡(第238~239図)

【位置・確認面】 3A区北端部、東側の搅乱沿いで確認した。一部が3B調査区範囲となる他、大部分が失われている。

【重複】 SI69に切られ、SI75、SI76を切る。

【規模・形態】 残存する範囲は、3.4m×2.4m程度である。平面形は開円方形を呈するものと考えられる。

【方向】 主軸方位はN-18°-Wと考えられる。

【堆積土・構築土】 18層に分層した。1・2層は住居埋土である。3層はカマド内部の灰と焼土を含む層であり、4・5層はカマド底面の被熱部位である。被熱の痕跡が認められる6・7層はカマド直下の掘り方にあたる。8~12層はカマドの構築土である。13層は周溝の埋土にあたる。14~18層は掘り方の埋土であり、全体に焼土・炭化物を含んでいる。

【壁面】 IV層中を壁面とするものと考えられ、壁高は、状態の良い北壁で17cm前後が残存する。立ち上がりは垂直に近くなるものとみられる。

【床面】 複数の掘り込みが確認されており、不明瞭である。

【柱穴】 P1～P7を確認した。P1、P2からは柱の痕跡が検出されたが、関係性は不明である。

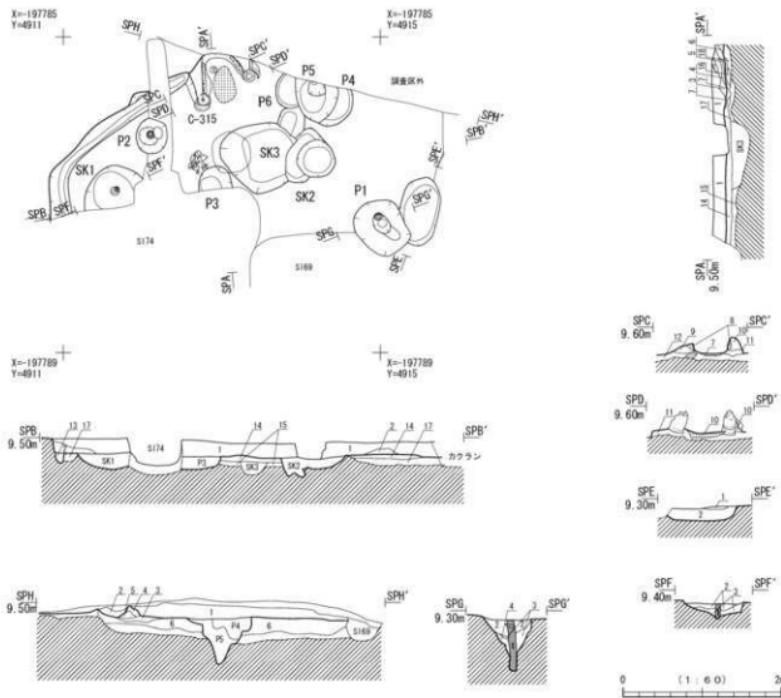
【周溝】 北壁の壁沿いに確認した。幅8cm～12cm、深さ7cm～8cmである。

【カマド・煙道】 北辺中央部に設けられていた。両袖部の平面形は直線的に開いている。先端部には土師器甕が伏せて配されている。特に右側では2点の甕が重なる状況で出土した。これらは、補強材として幅45cm、高さ30cm程度の焚き口を構成していたものと考えられる。カマドの外幅は90cm、奥行56cmである。今回の調査では、煙道は確認されていない。

【その他の施設】 SK1～SK4を確認した。SK1には、柱の痕跡が認められる。カマド焚き口前面のSK2・3からは粒状の炭化物が検出された。

【掘り方】 大部分が失われており、詳細は不明である。

【出土遺物】 土師器壺1点、甕4点を掲載した。Iは丸底から丸底から緩やかに立ち上がり、口唇部先端でわずかに直立する。



第238図 SI 75竪穴住居跡

SI75 備土試験表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
底土	1	10YR3-3 嫠褐色	シルト	φ 1cm内の地山ブロック・炭化物ブロックを少量含む、他土質を微量含む
	2	10YR5-6 黄褐色	砂質シルト	
	3	10YR4-2 黄褐色	シルト	炭化・焼土を少量含む
カマド	4	5YR4-2 棕褐色	シルト	焼土
	5	10YR4-2 黄褐色	シルト	炭化・φ 1cm内の地山ブロックをやや多く含む
	6	10YR2-3 黑褐色	シルト	炭化物ブロックをやや多く含む
掘り方	7	10YR3-3 嫠褐色	シルト	粒状炭化物が多数混入、焼土の層
	8	5YR4-2 にじみ赤褐色	シルト	5YR8.8 明赤褐色が部分的に混入
	9	10YR4-4 褐色	シルト	部分的に10YR1/4 明褐色シルトが混入
カマド・ツヅ	10	10YR3-4 嫠褐色	シルト	下部に粒状炭化物と焼土が混入
	11	10YR3-3 嫠褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
	12	10YR2-3 黑褐色	シルト	粒状の炭化物・焼土が多数混入
固溝	13	-	-	
掘り方	14	10YR4-4 褐色	シルト	10YR3/4 嫠褐色シルトが小ブロック状に混入、駆り床
	15	10YR3-3 嫠褐色	シルト	粒状の炭化物・焼土が混入
	16	5YR4-4 にじみ赤褐色	シルト	さくらな焼土の層
掘り方	17	10YR4-3 にじみ赤褐色	シルト	10YR3/3がまばらに混入
	18	10YR3-4 嫠褐色	シルト	粒状の焼土・炭化物が少し混入

SI76 地盤理土試験表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR3-3 嫠褐色	シルト	炭化物粒を微量含む、柱軸跡
	2	10YR2-3 嫠褐色	シルト	φ 1cm内の地土ブロックを少量含む
	3	10YR4-6 褐色	砂質シルト	地山ブロックを密に含む
	4	10YR3-4 嫠褐色	シルト	
P2	1	10YR2-4 嫠褐色	シルト	燒土・炭化物粒を微量に含む
	2	10YR2-4 嫠褐色	シルト	
	3	10YR4-4 褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR4-3 にじみ赤褐色	シルト	φ 2cm内の地山ブロックを多く含む
P4	1	10YR2-3 黑褐色	シルト	粒状の炭化物・焼土が混入
P5	1	10YR3-4 嫠褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトが小ブロック状に混入
P6	1	10YR3-4 嫠褐色	シルト	10YR2/3黒褐色シルトが軽状に混入
P7	-	-	-	平面図のみ
SK1	1	10YR2-4 嫠褐色	シルト	燒土ブロックの微量含む
	2	10YR4-3 にじみ赤褐色	シルト	燒土粒を少量含む
	3	10YR4-4 褐色	砂質シルト	炭化物ブロックを微量含む
SK2	1	10YR2-4 嫠褐色	シルト	粒状炭化物が混入、ブロック状の燒土ブロック状の燒土ブロックが混入
SK3	1	10YR3-4 嫠褐色	シルト	粒状炭化物が少し混入
SK4	1	10YR3-3 嫠褐色	シルト	地山が含まれる
	2	10YR2-3 黑褐色	シルト	地山ブロック(2cm)が含まれる、燒土ブロックが多数含まれる、粒状炭化物が含まれる

SI77 地盤標高表

邊坡名	平面圖	規範(cm)	深さ(cm)	備 考	邊坡名	平面圖	規範(cm)	深さ(cm)	備 考
P1	楕円形	70 × 90	67		P6	楕円形	(48) × 142	12	
	柱軸跡	10 × 8			P7	-	(30) × (20)	9	
P2	円形	40 × 40	34		SK1	楕円形	80 × (50)	28	
	柱軸跡	10 × 9			SK2	楕円形	120 × 98	18	
P3	楕円形	42 × (28)	16		SK3	不整形	90 × 90	25	
P4	楕円形	54 × (52)	29		SK4	楕円形	88 × 50	10	
P5	楕円形	(32) × (32)	50						

S176 穴穴住居跡(第240図)

[位置・確認面] 3A区北端部、SI74の南側より住居のコーナー部分を検出した。大部分が失われている。

[重複] SI74に切られる。

[規模・形態] 残存部は1.8m × 0.86mである。

[方向] 西辺を基準にした主軸方位はN-27°Wを指である。

[堆積土・構築土] 4層を確認した。1・2層が住居埋土、3層が周溝内の埋土、4層が掘り方の埋土にあたる。

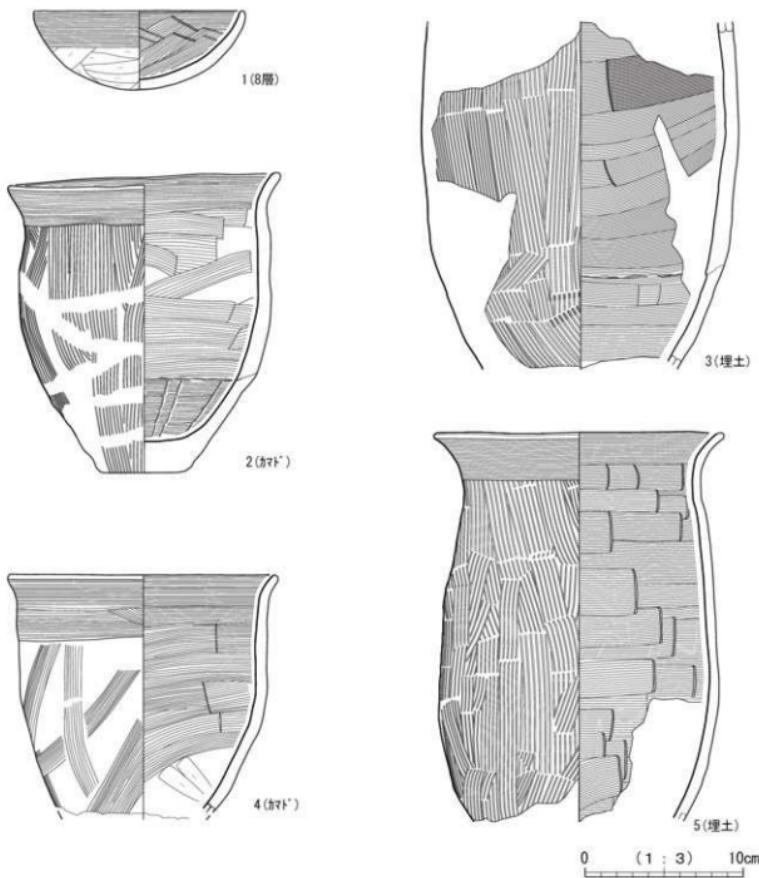
[壁面] IV層中を壁面としており、壁高は20cm～28cmが残存する。

[床面] 4層上面を床面とする。

[周溝] 壁際で確認した。幅10cm～12cm、深さ3cm～4cmである。

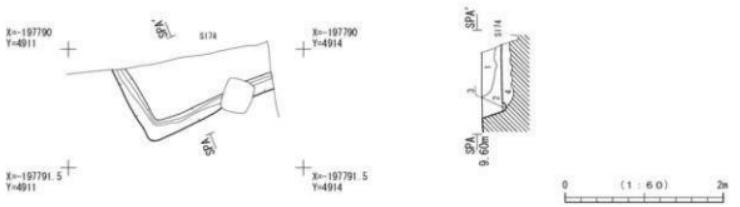
[掘り方] 大部分が失われており、不明。

[出土遺物] 掲載した遺物はない。



第239図 S175竪穴住居跡出土遺物

国版 番号	登録番号	出土遺物	層位	種 別	器 形	口径×底径×高さ(cm)	外面 調整	内面 調整	備 考	参考 図版
1	C316	SIT5	8層	土加器	壺	13.6×××5.0	口部32°, 体部～底部99°	口部32°, 体部～底部99°		77
2	C313	SIT5	9層	土加器	壺	17.2×6.2×17.7	口部32°, 壁部S→T, 底部不規則	口部32°, 壁部S→T		77
3	C311	SIT5	埋土	土加器	壺	××(22.0)	側部S	側部S		77
4	C314	SIT5	10層	土加器	壺	17.2××(15.5)	口部32°, 壁部S→T	口部32°, 壁部S→T→下部S 9°		77
5	C315	SIT5	埋土	土加器	壺	(18.3)××(24.7)	口部32°, 壁部S	口部32°, 壁部S		77



第240図 SI176 穫穴住居跡

SI176 墓土記録表

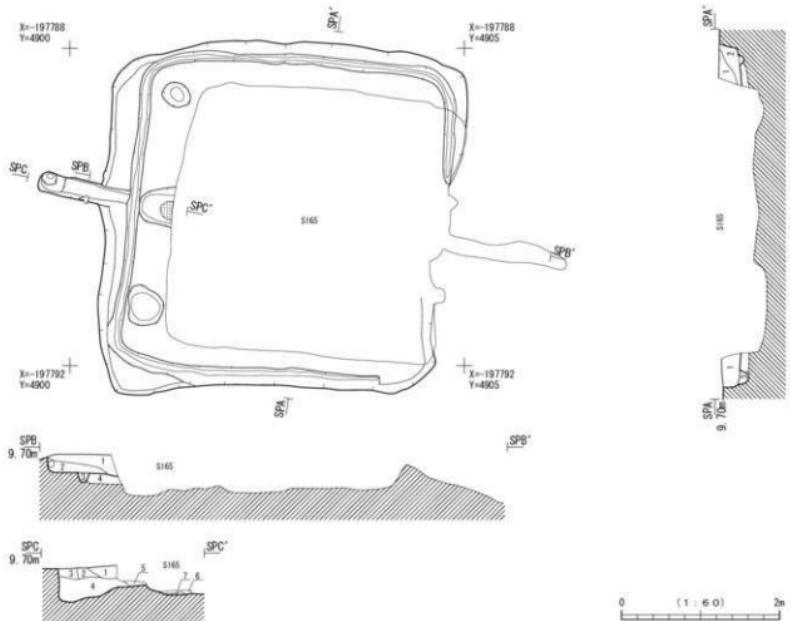
層位	層位	土色	土性	備考
層土	1	10Y32-3 布褐色	シルト	φ 3cm内の地山ブロックを多量含む。人骨灰土とみられる
	2	10Y32-3 明褐色	シルト	φ 1cm内の地山ブロックを少量含む。人骨灰土とみられる
明溝	3	10YR4-3 に5-6・黄褐色	砂質シルト	地山ブロックを多量含む
掘り方	4	10YR4-4 褐色	砂質シルト	地山を多量含む。10YR3-4暗褐色を少し含む

SI177 穫穴住居跡(第241図)

[位置・確認面] 3A区北端部、SI165の周間にこれより古いものと考えられるプランを確認した。

[重複] SI165に切られる。

[規模・形態] 東西に主軸をとり、一辺が4.3m ~ 4.2mの正方形に近い隅円方形を呈する。



第241図 SI177 穫穴住居跡

S177 理土目記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
理土	1	10YR2/3 黒褐色	シルト	
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	10YR5/4にぶい黄褐色ブロック状に混入
削溝	3	10YR2/2 黒褐色	シルト	西北側では10YR5/4ブロックが混入
カマド	4	5YR2/2 黒褐色	壤土炭泥炭	

S177 施設理土目記表

部 位	層 位	土 色	土 性	備 考
P1	1	10YR2/4 黄褐色	砂質シルト	φ1cm内の塊ブロックを多く含む。炭化物ブロックを少混合
P2	3	10YR4/4 壤色	シルト	炭化物粒を微量含む

S177 施設難発表

部 位	層 位	平 面 図	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考	部 位	層 位	平 面 図	規 模 (cm)	深 さ (cm)	備 考
P1	不整形	△	42 × 48	33		P2		円形	38 × 30	24	

〔方向〕 主軸方位はN-80°-Wである。

〔堆積土・構築土〕 1～7層に分層した。既に大部分が失われているため、詳細は不明だが、1・2層は住居埋土、3層は周溝内の理土、床面下の4層は掘り方の理土と考えられる。6・7層はカマドの被熱範囲である。

〔床面〕 4層上面を床面とする。大部分が失われており、明確ではない。

〔柱穴〕 西側の両コーナー壁際にはP1、P2を確認した。主柱穴とも考えられる。

〔周溝〕幅12cm～14cmで、西壁からはやや離れて設けられている。深さ4cm～6cmである。

〔カマド・煙道〕 煙道と燃焼部底面のみが検出された。奥壁側下面には周溝がめぐっている。煙道の長さは116cm、幅24cmで先端に向けて底面が下がっており、深さは38cmを計る。先端部は、深さ55cmのピット状に窪んでいる。

〔掘り方〕 大部分が破壊されており、不明である。

〔出土遺物〕 掘載した遺物はない。

(2) 溝跡(第242～245図)

堅穴住居跡の調査後、住居跡床面下より溝跡、SD33・SD34が検出された。この溝跡については、住居跡の検出作業時から確認されていた。堆積土が住居跡とはまったく異なり黒褐色を呈しており、関係するすべての遺構に切られれていることから、時期的にも住居跡とは異なる可能性がある。

それぞれ東側を近代の土取りによって削平されており、全長は不明だが、軸方向から2条の溝は直交していたと推測され、何らかの区画溝となる可能性が考えられる。

SD33 溝跡

3A区北半部、47・48・50・51・53・55・56・58グリッドに位置する。SI60・61・64・65・66・72より古い。調査区をN-45°-Wの方向に、直線的に延びる。

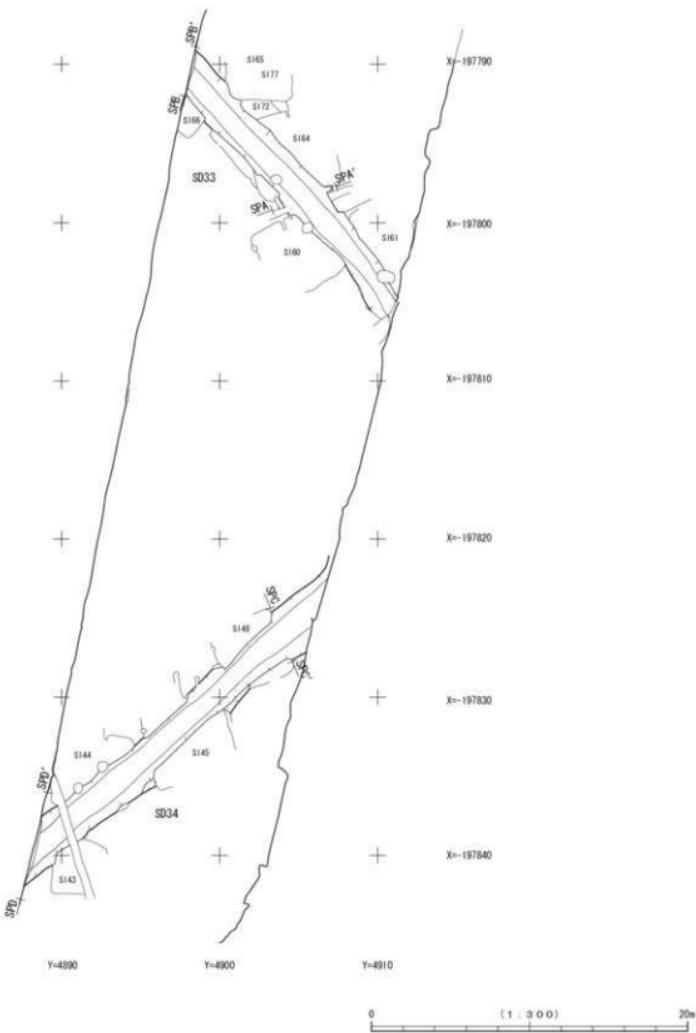
検出長19.5m、上端幅約2.2m、下端幅1～1.2m、深さ60～75cmを測る。断面形は舟底形を呈する。底面から壁画にかけては、緩やかに立ち上がる。

堆積土は西壁セクションの観察で、7層が確認された。3a・3b層を2d層が切り、2c層より上層は自然堆積とみられる。このことからこの溝は、大部分が埋まった後に掘り直され、再度堆積した可能性がある。

SD34 溝跡

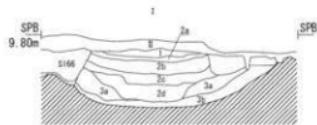
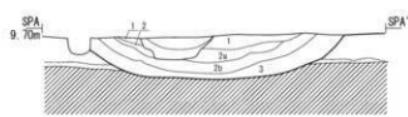
3A区中央部、29・32・33・36・37・38・39・41グリッドに位置する。SI43・44・45・48より古い。調査区をN-45°-Eの方向に、直線的に延びる。

検出長25m、上端幅2.7m、下端幅1～1.3m、深さ68～80cmを測る。断面形はSD33と同様、舟底形を呈す

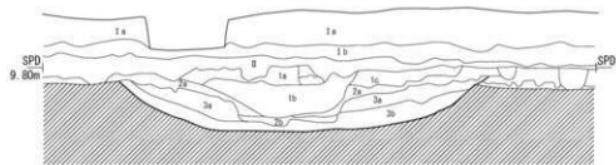
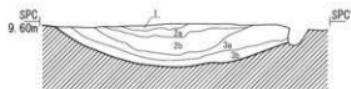


第242図 SD33・34溝跡

SD33



SD34



0 (1 : 60) 2m

第243図 SD33・34溝跡断面図

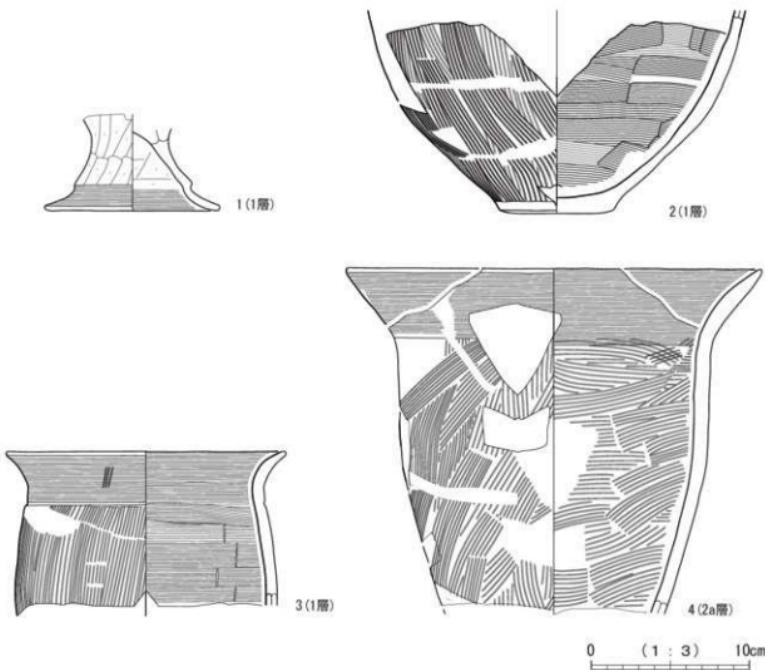
SD33-34 賽跡表

遺跡名	グリッド	方 向	面積(㎠)	深さ(㌢)	層位	土 色	土 性	備 考
SD33 47-48-50- 51-53-55- 56-58	N45°W 1950×220	60.4		1	10YR4/2	灰黃褐色	シルト	炭化物混 遺物を含む
				2a	10YR3/1	黒褐色	シルト	炭化物混
				2b	10YR3/2	黒褐色	シルト	10YR4/3に近い黄褐色の細かい粒が現状に入る
				2c	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	10YR3/2/プロック混. 窓上部に多い。層下部は明るい色調なる
				2d			シルト	10YR4/3/2.5Y3/2が瓦解状に入れる
				3a	10YR4/3	に近い黒褐色	シルト	マングン混
				3b	10YR4/4	褐色	シルト	わざわざテライ化が進む マンガニ質・酸化鉄混
SD34 29-32-33- 36-37-38- 39-41	N45°E 2500×268	68.5		1a	10YR3/2	黒褐色	シルト	炭化物粒を微量含む
				1b	10YR3/3	黒褐色	シルト	炭化物粒を微量含む
				1c	10YR2/3	黒褐色	シルト	1a層に類似
				2a	10YR2/2	黒褐色	シルト	下部に褐色砂質シルトブロック層が侵入
				2b	10YR3/4	黒褐色	砂質シルト	約5cm内に2-3層プロックを多く含む
				3a	10YR3/3	に近い黒褐色	シルト	炭化物粒を少含む
				3b	10YR4/4	褐色	砂質シルト	基底灰褐色にグライ化 酸化鉄を全体に含む

る。底面から壁面にかけての立ち上がりも緩やかである。

堆積土は西壁セクションの観察から、7層を確認した。3a・3b層を2a・2b層が切り、更にこれらを1b層が切る。2bまたは1b層の段階で掘り直された可能性がある。

SD33-34からは、土器部高壇1点、壺3点、壺1点を掲載した。1の高壇の脚は底部に段を持つ。4の壺は長胴から頭部から「ハ」の字状に外反する長い口縁部を有する。いずれも古墳時代中期末から後期初頭にまでさかのぼる古い器形と考えられる。



第244図 SD33出土遺物

板面番号	柱脚番号	出土遺物	層別	横 梯	斜 梯	外寸 (斜底×斜高) [mm]	外 面 調 整		内 面 調 整		備 考	写真 図版
							左側	右側	左側	右側		
1	C-362	SD333	1層	上踏面	高段	×11.2 (6.0, 1.0)	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	78
2	C-360	SD333	1層	上踏面	高段	×7.4 (12.0, 9)	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	脚部形状:△左△右△左△右、脚部厚さ△左	78
3	C-361	SD333	1層	上踏面	高段	(17.0, 18) × (10.0)	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左	78
4	C-363	SD333	2a層	上踏面	高段	(6.0, 2) × (26.0)	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左△右	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左△右	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左△右	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左△右	△上踏面△左△右△左△右、脚部厚さ△左△右	78



第245図 SD34出土遺物

图版 编号	登录名 氏名	出土遗物 器物	特征 特征	特征 特征	特征 特征	特征 特征	外 面 调 整		内 面 调 整		描 考	照 片
							口徑× 底徑× 高(厘米)	口徑× 底徑× 高(厘米)	口徑× 底徑× 高(厘米)	口徑× 底徑× 高(厘米)		
1	C-364	SD34	25型 土罐	环 环	4.42× 4.46	口部扩径 —底部扩径— 高3.7,底径6.3厘米	口部扩径 —底部扩径— 高3.7,底径6.3厘米	口部扩径 —底部扩径— 高3.7,底径6.3厘米	口部扩径 —底部扩径— 高3.7,底径6.3厘米	口部扩径 —底部扩径— 高3.7,底径6.3厘米	内面黑色 烧毛	28

(3) 遺構外出土遺物

遺構外出土器は、そのほとんどが、試掘トレンチ(1T～7T)から出土しており、全部で33点を掲載した(第246～249図)。以下、その主な出土遺物について述べる。

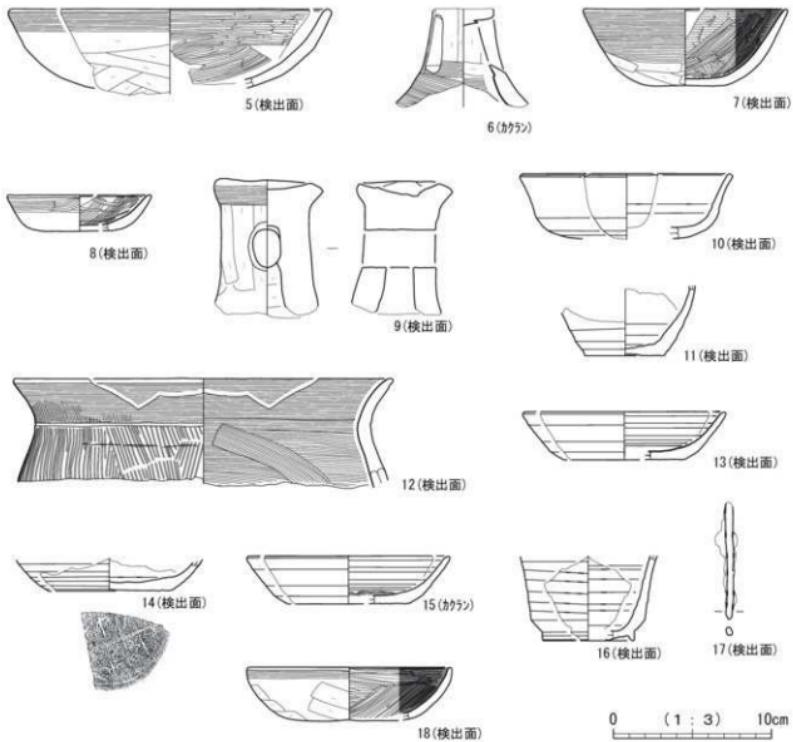
1Tからは、土師器塊1点、土錐2点を掲載した。1は丸底の底部から立ち上がり、口唇部でわずかに外反する。2Tからは土師器坏2点、高坏1点を掲載した。4は内外面黒色処理後でいねいにヘラミガキを施す。5は口径の大きい坏で丸底の底部から緩やかに立ち上がり、体部上半でわずかに屈曲し口唇部にいたる。6の脚部は、三方透かしであろう。3Tからは土師器坏2点、高坏1点、壺1点、須恵器坏4点、壺形土器2点、釘1点を掲載した。7は、平底状底部を有する箱形の見込みの深い坏、8は、小型の皿状の器形を呈する。9は高坏とした。やや外に開く裾部から直立し、わずかに外側につまみだされた坏部と考えられる口唇部にいたる。脚は下半が中空で中央に横位方向の穿孔が直交する。10は、丸底状の底部からわずかに外反する口唇部にいたる、7世紀後半代の器形を持つ。13・14・16の坏は、平底の盤状で、7世紀末以降8世紀前半代の器形である。13は、底部整形回転ヘラ切り、14は、ヘラ記号痕が観察される。11、12は内面整形の状態から壺と判断した。4Tからは、土師器坏1点、高坏1点、須恵器壺1点を掲載した。18は、平底の底部から立ち上がり、直立する口唇部にいたる。19は高坏脚部、20は長頸瓶か広口瓶の肩部であろう。6Tからは、21の土製鍤車が出土した。13条の織り紐をかけたとの条痕が残る。7Tからは、土師器坏3点、壺1点、須恵器壺2点を掲載した。23は、丸底から直立し、体部と口縁の境目で強く屈曲し、外反する口唇部にいたる。また24は、体部と底部の境目に段を有し、強く逆「ハ」の字状に開く器形である。25は、球腹から直立する長い頸部を経て、強く内湾する口唇部にいたる。2B区からは、須恵器壺1点、坏1点を掲載した。29は、7世紀中ごろ以降に出現した蓋のカエリが、退化はじめた時期の所産である。内外面に重ね焼き痕が残る。30は、高台の付いた坏の底部で、静止系切り後外周回転ヘラ削りが施されている。他には遺構検出面からだが、手すくねの土師器坏ミニチュア1点、刀子1点を掲載した。

石器については、4点を掲載した(第250～251図)。砥石はI類A2種1点、II類B2種2点が出土している。石材は2が砂岩で、1・3が凝灰岩である。不明石製品とした4は、柱状であり、断面形は8角形を呈する。石材は凝灰岩である。



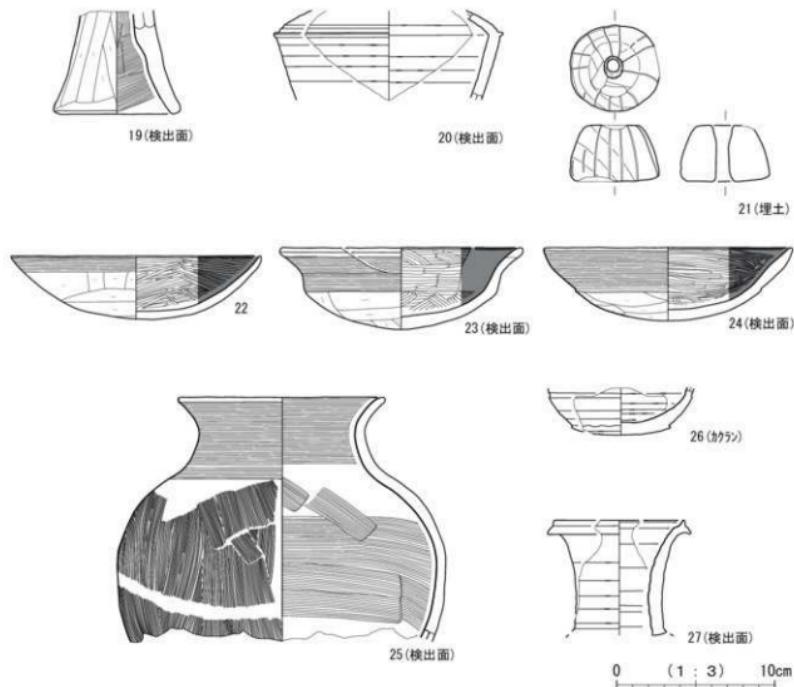
第246図 遺構外出土遺物①

国版番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真版
1	C-407	3A区 1-2T	#350	土師器	塊	(17.2) × (底角×高さ)	口縁部3.0cm、体部肥大、底面φ9.5cm	口縁部-底面V字型	内面黒色処理	79
4	C-389	3A区 2-3T	検出面	土師器	坏	(5.2) × (5.1) × (1.4)	口縁部-底面V字型	口縁部-底面V字型	内面黒色処理	79
国版番号	登録番号	出土遺物	層位	種別	器種	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真版	
2	P-47	3A区 1-2T	検出面	土製品	土錐	3.8 × 1.4 × 0.5	6.5	ナデ		80
3	P-46	3A区 1-2T	検出面	土製品	土錐	5.0 × 1.7 × 0.5	11.8	ナデ→16.5cm、黒色		80



第242図 遺構出土遺物(2)

国版 登録番号	出土遺物 名	層位	種 別	器 形	口徑×底径×高さ(cm)	外 因 調 整	内 因 調 整	備 考	写真 国版
5 C-388	3A区 3-4T	検出面	土器器	环	Φ0.41×××(5.4)	口縁部凹付、体部△付	口縁部一休部△付		79
6 C-408	3A区 3-4T	炒豆	土器器	高环	×(8.2)×6.2	脚部△付△→△付、底部△付	脚部△付△、底部△付	脚部に透かし	79
7 C-381	3A区3T	検出面	土器器	环	(13.9)×(5.8)×4.9	口縁部△付△、体部△付△、底部△付△	口縁部△付△	内面黒色處理、積在底?	79
8 C-392	3A区3T 付材	検出面	土器器	环	Φ0.2×(6.8)×2.4	口縁部△底部△付△	口縁部△底部△付△		79
9 C-391	3A区3T	検出面	土器器	高环	××(8.6)	脚部上端△付△、脚部中央△付△	脚部△付△	脚中央に貫通孔 あり	79
10 E-099	3A区3T	検出面	崩壊器	环	(13.01)××(11.1)	口加調整、底部下端△付△	口加調整	外面自然釉	80
11 E-098	3A区3T	検出面	崩壊器	壺	×(8.8)×(12.2)	口加調整、体部△付△底部手付△付△	口加調整	壺G	80
12 C-385	3A区 3-4T	検出面	土器器	束	Φ1.0)××(6.8)	口縁部△付△、脚部△付△	口縁部△付△、脚部△付△		79
13 E-101	3A区 3-4T	検出面	崩壊器	环	(12.6)×(7.6)×3.3	口加調整、体部下端側面△付△、底部斜面△付△	口加調整、足込み△付△		80
14 E-100	3A区 3-4T	検出面	崩壊器	环	×(7.6)×(1.9)	口加調整、体部△付△底△付△	口加調整	底部削去	80
15 E-105	3A区 3-4T	87%	崩壊器	环	(14.4)×(9.8)×4.0	口加調整、底部側面△付△、底部△付△	口加調整	内外面火拂漆	80
16 E-102	3A区 3-4T	検出面	崩壊器	壺	×(5.6)×(6.3)	口加調整、底部側面△付△、脚付壺台	口加調整	小型壺Lか、壺台	80
18 C-396	3A区4T	検出面	土器器	环	(13.0)××(4.1)	口縁部△付△、側面△付△	口縁部△付△	内面黒色處理	79
国版 登録番号	出土遺物 名	層位	種 別	器 形		備 考		写真 国版	
17 N-29	3A区 3-4T	検出面	鉢類品	丸?	長12.4、幅0.4、厚0.5cm				80



第248図 遺構出土遺物(3)

回数 番号	登録番号	出土遺物	規徴	種 別	器 形	部 位	口徑×底径×厚さ(cm)	外 表 様 態	内 表 様 態	備 考	行 き 回数
19	C-307	3A4×47	檢出面	土製品	高环		-(8.0) × (6.5)	輪部外側丸	輪部外側丸	外側和土板	79
20	E-103	3A4×	3-4	檢出面	陶器器	竈	- × -(5.6)	口部調整	口部調整		80
22	C-399	3A4×	-	土製品	环	15.8 × - × 4.0	口輪部外側丸、体部～底部外側丸	口輪部外側丸	内面黑色燒附	内面黑色燒附	79
23	C-402	3A5×7	檢出面	土製品	环	(15.3) × - × 4.2	口輪部外側丸、体部～外側丸	口輪部外側丸	内面黑色燒附	内面黑色燒附	79
24	C-403	3A5×7	檢出面	土製品	环	(15.3) × - × 4.2	口輪部外側丸、体部～外側丸	口輪部外側丸	内面黑色燒附	内面黑色燒附	79
25	C-404	3A5×7	檢出面	土製品	環	(13.0) × - × (15.5)	口輪部外側丸、底部外側丸	口輪部外側丸	内面黑色燒附	内面黑色燒附	79
26	E-104	3A4×17	3分	陶器器	竈	- × (3.1)	口部調整、底部回折△切口	口部調整	口部調整		80
27	E-096	2C5×7	檢出面	陶器器	竈	(8.2) × - × (7.3)	口部調整	口部調整	口部調整	口部調整	79
回数 番号	登録番号	出土遺物	規徴	種 别	器 形	部 位	長 S × 幅 × 厚さ(cm)	重量(g)	備 考	行 き 回数	
21	3E6×7	SI-47	土製品	鉢形	鉢形	-(5.6) × -(3.6) × (0.8)	115.3	ナラ、一部黒色、腹方向に縦割跡有り		80	